

2015年度 JICA中国 ラオス教師海外研修

授業実践報告書



Contents

— 目 次 —

はじめに	2
研修国概要	3
教師海外研修概要	4
訪問先トピックス	6
海外研修日程	8
【資料】参加教員による研修報告プレゼンテーション	9

授業実践報告

◆ 小 学 校

大切なことは一緒だね（島根県浜田市立三隅小学校 荒木 友子）	14
ラオスを知ろう 考えよう ～ラオス旅行～（山口県萩市立紫福小学校 松本 英一）	25
世界の国々に目を向けて ～ちがうことっておもしろい～（広島県廿日市市立大野東小学校 山田 英恵）	37

◆ 高 等 学 校

ラオスを通じて考える「援助」と「発展」（岡山県岡山市立岡山後楽館高等学校 鈴木 祐子）	46
地球市民になろう～ラオスと共に学び合う、協働の主役として～（清心中学校・清心女子高等学校 菅沼 祐子） ...	55
世界のエネルギー資源の利用と分布（岡山県立津山高等学校 常井 仁美）	64
ラオスを通して世界を考える（岡山県共生高等学校 尾山 誉）	74

◆ 特 別 支 援 学 校

ラオスってどんなところ？（広島県立尾道特別支援学校 松田 奈緒美）	88
---	----

はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA：ジャイカ）では、開発途上国への技術強力や資金強力などに加え、「国際協力を日本の文化に」することを目指し、市民の皆様に参加していただける国際協力事業を推進しています。その一環として、市民の皆様が世界の現状や問題国際教育や開発教育について「知り」、「考え」、「行動する」ためのきっかけづくりとして、開発途上国における長年の事業で培った経験と人材を通じた国際教育・開発教育支援にも積極的に取り組んでいます。

「教師海外研修」は全国の小・中・高等学校・特別支援学校において国際教育や開発教育に取り組んでおられる、または開発途上国の抱える問題に関心をお持ちで、今後それらに取り組むことを考えておられる教員の方を対象に実施しています。参加される教員の方々には、開発途上国の社会の実情や文化や習慣などを肌で感じ、JICAが実施する国際協力の現場視察を通じて途上国のみならず世界の問題や日本と世界の国々の関わりを理解していただき、その学びや知見を日本で待つ子どもたちに還元していただくことを目的として実施しています。

今年度参加教員の方々は、日本における2日間の派遣前研修を経て、ラオスで8月上旬より10日間の研修に参加され、2日間の帰国後国内研修の後、各学校で授業実践に取り組みました。今般、その授業実践を冊子として取りまとめました。

この冊子が国際教育や開発教育に関心のある方の参考となり、学校教育現場での実践の一助になれば幸いです。

2016 年 3 月

独立行政法人国際協力機構

中国国際センター所長 大田 孝治

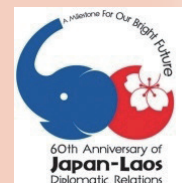
研修国概要



ラオス人民民主共和国 (Lao People's Democratic Republic)



- 首 都：ビエンチャン
- 面 積：24万平方km（日本の約3分の2）
- 人 口：660万人（ラオス統計局2013年）
- 政 体：人民民主共和制
- 民 族：ラオ族（全人口の約半数以上）を含む計49民族
- 言 語：ラオス語
- 宗 教：仏教
- 気 候：熱帯モンスーン気候に属し、高温多湿で雨季（5～10月）と乾季（11～4月）がはっきりしている。ビエンチャンの年平均気温は乾季22.1℃、雨季28℃。
- 通 貨：キープ（Kip） 10,000 キープ＝約147円（2016年2月）
- 1人あたりGDP：1,628ドル（2013年、ラオス統計局）
- 主要産業：サービス業（GDPの約37%）、農業（約26%）、工業（約31%）
- 主要貿易相手国：タイ、豪州、ベトナム、中国他（2012年ラオス工業商業省）
- <日本との関係>
- 従来より良好な関係。1955年に外交関係を樹立し、2015年3月に60周年を迎えた。
- 在留日本人：667人（2014年10月現在・在留届ベース）
- 在日ラオス人：2,584人（2012年11月入管発表）
- 文化関係：日本は1976年より文化無償協力案件を実施。文化遺産保存、スポーツ交流、人物交流等の文化交流も拡大中。
- 経済関係：対日輸出 約106億円…乗用車、建設・鉱山用機械、織物用糸・繊維
対日輸入 約63億円…コーヒー、ケイ素他無機化合物、衣類・同付属品（いずれも2014年）
- 日本からの投資：縫製業、部品製造業、植林業、農業、電力、鉱業等
- 日本の援助実績（2012年度まで）：（1）有償資金協力 231.03億円
（2）無償資金協力 1,354.24億円
（3）技術協力 607.21億円



日ラオス外交関係樹立60周年

（2016年2月付 外務省ホームページ「各国・地域情勢」（ラオス）より）

教師海外研修概要

■ JICAの国際教育・開発教育支援

グローバル化が進む昨今、環境や食糧、資源といった地球の課題を学び、異文化理解や多文化共生を促進するため、国際教育や開発教育、持続可能な開発のための教育（ESD）といった「オルタナティブな教育」を多くの教育機関が実践し、その関心と需要はますます高まっています。

国際協力活動は主に開発途上国の現場で行われていますが、JICAでは途上国と日本の地域との架け橋となるべく、国内でもさまざまな活動を行っています。中でも、国際協力の経験や知見を活用して、地域の自治体や市民団体、大学・学校現場と連携して展開しているのが国際教育・開発教育支援プログラムです。

JICA中国では、国際協力出前講座、JICA中国施設訪問、国際教育研修会といったプログラムを通じて、一人一人が開発途上国や国際協力の現状について「知り」、自分と世界とのつながりに「気づき」、自分に何ができるかを「考え」、地球市民としての「行動」の一步をふみだすためのグローバルな教育活動を支援しています。教師海外研修は、そのプログラムのひとつです。



■ 教師海外研修とは

1. ねらい

本研修は、国際教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場を視察することで、途上国の現状や日本との関係性、国際協力への理解を深め、その成果を、学校での授業等を通じて、地球の未来を担う児童・生徒への教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

国内で実施する派遣前・帰国後の研修では、ワークショップ体験などを通じて参加型学習やアクティブ・ラーニングの手法を学び、海外研修での知見をより効果的に還元するための授業づくりのサポートも行います。

帰国後は、教室にいる児童・生徒はもちろん、地域において他の教職員や市民にもその経験を発信してもらい、持続的に国際教育・開発教育の担い手として活躍していただくこともねらいとしています。

2. 応募条件

- ・中国5県の国公立・私立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・高等専門学校・特別支援校に勤める教員及び教育委員会の指導主事（臨時採用、講師も可）
- ・教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、国内で実施される研修を含め全研修に参加可能であること
- ・原則、2015年4月1日現在、おおむね45歳以下であること
- ・所属する学校の学校長、もしくは教頭の推薦が得られること
- ・原則、本研修やJICAボランティア、JICA専門家、ODAモニター等、ODA事業として海外に派遣された経験がないこと
- ・将来、JICAが実施する開発教育支援事業やイベントにご協力いただけること
- ・本事業に関連して撮影された写真及び事業の結果、作成された著作物についてJICAが広報目的で使用するについて承諾すること



3. 研修のながれ（2015年度）

募集・選考

● 募集（4月～5/22） ● 書類選考（5月下旬） ● 書類選考結果通知（6/1） ● 面接選考（6/1～6/5） ● 最終結果通知（6/12）

派遣前研修（6/27（土）～28日（日）） 会場：JICA中国（広島県東広島市）※2日目は「第1回国際理解教育研修会」と併催

- 海外研修について：ラオス国事情、研修日程と訪問先解説、渡航手続きについて
- ブレインストーミング「ラオスに対する今のイメージとは？」
- 授業の実践事例について：講師 古川 理英 教諭（福山市立伊勢丘小学校／2014年度教師海外研修参加教員）
第1回国際理解教育研修会（6/28（日））会場：JICA中国（広島県東広島市）
- 「『私』からはじまる国際協力 ～ワークショップで考えよう 自分と世界のつながり」
講師：木下 理仁 氏（かながわ開発教育センター（K-DEC）事務局長、東海大学国際学科非常勤講師）
- 「『私』からはじまる異文化理解～海外研修を活かした教材での模擬授業」
講師：古川 理英 教諭（福山市立伊勢丘小学校／2014年度教師海外研修参加教員）

出発前報告書提出 7/31（金）

海外研修（ラオス） 8/9日（日）～19日（水）

現地研修報告書提出 9/5（土）

派遣後研修 9/5（土）～6（日）会場：JICA中国（広島県東広島市）

海外研修で得た資料や情報を参加者全員で共有・整理。
現地での学びをどう教材化するか考え、大まかな授業案を作成。
助言指導：木下 理仁 氏



所属校での授業実践 9月～12月



授業実践報告書提出 2016/1/12（火）

第2回国際理解教育研修会 1/30（土）会場：JICA中国（広島県東広島市）

- ワークショップ「『まともな』開発を考える」
- 模擬授業「『伝える』から『考えよう』へ～子どもと先生と一緒に考える世界と日本～」
今年度教師海外研修参加者の中から3名が、研修の成果を模擬授業として発表



海外研修 訪問先トピックス

8/10(月)

【青年海外協力隊 活動現場視察】
パークグム郡病院 訪問

「みんなで助け合って生活している、みんなで子どもを育てるなど、“幸せや豊かさ”は医療の質ではない」と隊員がおっしゃったことばが印象的だった。また、ボランティアとはなにか、何をどこまでするのか、考えていきたいと思った。(松田)」



8/11(火)

【青年海外協力隊 活動視察】
ポリカムサイ県子ども文化センター



休日や放課後などに子どもたちが過ごす日本の児童館のような施設。

当日は5歳から18歳まで約50名の子どもたちが集まり、参加者と交流をはかりました。また、帰国後の授業実践に活用すべく、子どもたちへアンケートやインタビューも行いました。

「子ども達が日本語で話しかけてくれ、日本のことを知ってくれているのだと嬉しくなった。知らないことや分からないことがあると不安や近づきたくないものになるけれど、日本について知り、私たち日本人と関わることで、安心や興味あるものになってほしいと感じた。(山田)」

8/12(水)

【青年海外協力隊 活動視察】
チャンパーサック県教員養成短大校

ラオスでは国内で格差が大きく、特に南部地域では教育や医療など深刻な課題が存在しています。青年海外協力隊員が派遣されている当校では、教員養成に携わる現地の先生方からも直面する課題や想いを伺うことができました。



【JICAプロジェクト視察】チャンパーサック県教育局

「コミュニティ・イニシアティブによる初等教育改善プロジェクトフェーズ2 (CIEDII)」を担当する専門家から、初等教育の現状と課題の解説がありました。また、ラオスの子どもの留年・中退率の原因と改善への取組みについて、ワークショップ形式で参加教員自身が考えることができた時間は特に学びの多い時間となりました。

「ラオスに来てから色々な所でラオスに必要なことは教育であるということをししばしば聞いた。確かに教育無くして発展はないと思った。まずは教育を改善し、国民一人一人の意識を改善していかなければならないと思った。(尾山)」

8/13(木)

【青年海外協力隊 活動視察】
サラワン県ラオガム郡一村一品活動

コミュニティ開発分野で活動する隊員の活動地域を訪問。換金作物としてのマリーゴールド栽培事業について伺いました。

また、少数民族カトゥ族の村も訪問し、隊員が販路拡大などの協力を行っている伝統的な織物を見ることもできました。

「村が経済的自立をはかり、持続的に発展する方法を必死に考える隊員の姿に心を打たれた。村人と協力しながら、ともに歩もうとする姿勢には頭が下がる思いがした。(常井)」



8/14 (金)



UXO-LAO 不発弾処理現場視察

ラオスにはベトナム戦争時に投下された爆弾のうち30%近くが不発弾として残っており、今も人々の生活を脅かしています。不発弾や地雷の除去作業や、市民が被害にあわないための啓蒙活動を行うUXO-LAOを訪れ、不発弾処理の瞬間にも立ち会いました。「初めて体験する、炸裂する爆弾の轟音と振動。あまりの衝撃に言葉もない。いつもは遠い「死」が身近に感じられる瞬間だった。こんな危険な場所のすぐ近くにも、人は住んでいる。不発弾処理の車が往来し、爆破音が聞こえてくる毎日が「日常」とは。危険な不発弾処理に携わる人が契約社員というのは驚きだった。命を懸けて働いている人が、もっと評価されるようになってほしい。(鈴木)」

ワット・プー見学

「かつて世界一汚い世界遺産と言われていたようだが、そのように感じさせる点は微塵も無くなり、観光客も多かった。ラオスの人々はすれ違いざまに上手くアイコンタクトをするのが魅力的だ。滞在中、自分もアイコンタクトをとって笑顔になるのが少しずつだが上手くなっていった気がする。(菅沼)」



8/15(土) ~ 16(日)

【ホームステイ】 チャンパーサック県ノンブン村にて

「本当にこんなところがあるんだ！と感じた。アヒル、鶏などの家畜が放し飼いにされ、楽しそうに歩いている。高床式の家々がならぶ。子どもたちは裸足でかけまわる。一方で、子どもがタブレットを持ってゲームをし、おもちゃにあふれる家もあり、外の風景とのギャップにくらぐらした。ノンブン村、本当に楽しかった！でも、ラオスが大好きになっていく一方で、もやもやもどんどん大きくなっていく…(荒木)」



8/17 (月)

【草の根技術協力事業 視察】

「アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP)」訪問

NPO法人アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP) は、ラオスの障害者の様々な自立支援活動に取り組んでおり、本研修では首都にあるクッキー製造と販売を行う作業所にお邪魔しました。

「印象的だったのは、『“かわいそう”からの脱却』という言葉。『良いサービス』と『面白いしくみ』で社会に障害者就労の可能性を発信し、障害者の自立を通して社会の認識を変えていこうとする姿勢が素晴らしいと思った。一方で、聾学校や盲学校は首都に集中しており、生まれた場所によって受けられる支援に差が出るのかと思うと複雑な気持ちになった。(鈴木)」



8/18 (火)

JICAラオス事務所での研修報告

「自分たちが感じ考えたことを伝えることができた。まとめる過程で新たな気づきが生まれ、とても有意義だった。JICAの方の『すぐに正解を見つけることはできないので、子供たちと話しながら考えてほしい』、『生徒と海外のつながり役になってほしい』というコメントが印象的だった。今後の取り組みで、自分の小学校とラオスの子供たちをつないでいきたい。(松本)」



海外研修日程

月 日	内 容		宿 泊
8月8日 (土)	夕刻	【出発前オリエンテーション】 (APAホテル堺駅前)	大阪
8月9日 (日)	午前	関西国際空港を出発、乗継地のベトナム・ハノイへ	ビエンチャン
	午後	ラオスの首都ビエンチャン到着	
8月10日 (月)	午前	【JICAラオス事務所ブリーフィング】	
	午後	【青年海外協力隊 活動視察】 パークグム郡病院	
8月11日 (火)	終日	【青年海外協力隊 活動視察】 ボリカムサイ子供文化センター 子どもとの交流、アンケート調査	
8月12日 (水)	午前	ビエンチャンから空路パクセーへ	パクセー
	午後	【青年海外協力隊 活動視察】 チャンパーサック教員養成短大校	
		【JICAプロジェクト視察】 チャンパーサック教育局 ラオスの教育事情に関する講義、CIED2プロジェクト概要、 ディスカッション	
8月13日 (木)	午前	【青年海外協力隊 活動視察】 サラワン県ラオガム郡一村一品活動花き栽培畑・コーヒー農園視察、カトゥ族の伝統織物見学	
	午後	パクセーに戻り、ホテルにて中間振り返りミーティング	
8月14日 (金)	午前	UXO-LAO 不発弾処理現場視察	
	午後	ワットプー遺跡見学 (世界遺産)	
8月15日 (土)	終日	【ホームステイ体験】 村長との懇談、タオイ族の彫刻体験、農作業、家族交流など	ノンブン村
8月16日 (日)	午前	パクセーから空路ビエンチャンへ	ビエンチャン
	午後	学習教材収集 (市内市場)	
8月17日 (月)	午前	ビエンチャン市内見学 (タートルアン寺院、パトゥーサイなど) 学習教材収集 (市内市場)	
	午後	【草の根技術協力事業 視察】 NGO「アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP)」 訪問	
		JICA事務所職員との夕食懇談会	
8月18日 (火)	午前	最終振り返りミーティング	機内
	午後	JICAラオス事務所での研修報告	
		夜、ビエンチャンより空路乗継地のベトナム・ハノイへ	
		深夜、ハノイを出発、関西国際空港へ	
8月19日 (水)	午前	関西国際空港着後、解散	

参加教員による研修報告プレゼンテーション

ラオス研修の最終日、再度JICAラオス事務所を訪問しました。10日間で感じたことと考えたこと、そして今後も考え続けていきたいこと…。それらを参加教員全員で共有し、ふりかえり、見聞きした情報を授業にどう活かせるかをまとめ、お世話になったJICAスタッフへ研修の成果を報告しました。

JICA中国

2015年度 教師海外研修

ラオス人民民主共和国

8/10
訪問先 パークグム郡病院 (高木ともこ隊員)

研修概要

- ①パークグム郡
・人口約5万人 53の村
・病院1カ所 ヘルスセンター9カ所
- ②郡病院と高木さんの役割
・母子健康・医療向上のための村落巡回
・スタッフへの指導
・将来的に…母子手帳の改善、活用

8/10
訪問先 パークグム郡病院 (高木ともこ隊員)

感想・課題

- ①やはり貧富の差が…
出産・子どもの医療費は無料のはず
→ 救急搬送費がなくて新生児が死ぬ
貧富の差 = 受けられる医療の質
- ②アクセス悪い地域へのアプローチが課題
→ 多民族国家、国土の8割が森林
ラオスならではの背景を実感

8/10
訪問先 パークグム郡病院 (高木ともこ隊員)

感想・課題

- ③人材が都市に集中
医師も教師も…
→ 都市と地域の格差
- ④保健・医療に対する意識の低さ

「初等教育が重要です！」

8/10
訪問先 パークグム郡病院 (高木ともこ隊員)

授業への活かし方

- ◆医療だけでなく、教育・貧困といった要因が絡みあっている
→ 多面的な考察
- ◆価値観の違い
・生死について、家族について
・医療の質が幸せとイコールではない
・ラオスのやり方に寄り添って考える

8/11
訪問先 ポリカムサイ子ども文化センター (佐々木彩隊員)

研修概要

- ①歓迎セレモニー
○挨拶
○子どもたちの踊り披露
- ②昼食
- ③子どもとの交流
○自己紹介
○クイズ(日本の文化)
○遊び(日本を探しに行こうよ)
○アンケート調査
○インタビュー(子ども・隊員)
○日本の歌(「ふるさと」日本語、ラオス語)

8/11
訪問先 ポリカムサイ子ども文化センター (佐々木彩隊員)

研修概要

- ①歓迎セレモニー
○挨拶
○子どもたちの踊りと歌の披露

花束贈呈

民族衣装のファッションショー

kiroroの「BEST FRIEND」(泣)

8/11
訪問先 ポリカムサイ子ども文化センター (佐々木彩隊員)

研修概要

- ②昼食


センター職員の手作り

いつものお昼は、「カオ・ニャオ」と「一品(ラップ)」を持参。みんなでシェア。

子どもと交流しながらランチ

8/11
訪問先 ポリカムサイ子ども文化センター（佐々木彰隊員） 研修概要

③子どもとの交流（その1）
○自己紹介
○クイズ（日本の文化）
○遊び（日本を探しに行こうよ）



クイズ（大いに盛り上がる） 非言語による日本の遊び（伝わった！）

8/11
訪問先 ポリカムサイ子ども文化センター（佐々木彰隊員） 研修概要

③子どもとの交流
○アンケート調査
○インタビュー（子ども・隊員）




アンケート回答中（異年齢集団の学び合い） アンケート

8/11
訪問先 ポリカムサイ子ども文化センター（佐々木彰隊員） 研修概要

③子どもとの交流
○日本の歌



1番は日本語。
2番はラオス語。
※ラオス青年招へい
合宿セミナー参加
者による歌詞を、
チームラオスで
ブラッシュアップ！
Special Thanks
ブンタさん & カイさん

「ふるさと」を一緒に歌おう！

8/11
訪問先 ポリカムサイ子ども文化センター（佐々木彰隊員） 感想・課題

1 JICAの力
→ 盛大な歓迎
→ 更なる支援要請
→ 子どもは大人の「〇〇」？
2 想定内・想定外の子どもたち
→ 素直で、相手の目を見る
→ 非言語コミュニケーション成立
→ スマホ、CCC年会費200円
→ 日本の文化は知っていても、
位置は怪しい（協同学習）

8/11
訪問先 ポリカムサイ子ども文化センター（佐々木彰隊員） 授業への活かし方

○インタビュー映像を使用
○非言語コミュニケーションの授業展開の工夫
○ラオス国内の格差（明日以降）
・都市部だけでなく、農村部のようすを知る
○ラオスの教育課程や指導内容
・どの段階で、どのくらい学習するのか。
○隊員の苦悩
・授業中のスマホいじり

8/12
訪問先 チャンパーサック教員養成大学（菊谷仁美隊員） 研修概要

①短大について
中級：中卒 3年間在籍
高級：高卒 2年間在籍
学士：高級卒 4年間在籍

日本での高校生、大学生が教員になっている。

②課題について
○短大生の学力差、学力低い
○教材・教具の不足
○ラオ語が理解できない

8/12
訪問先 チャンパーサック教員養成大学（菊谷仁美隊員） 感想・課題

こんなに若くして教員！？
短大生なのに学力が低いのはなぜ？



8/12
訪問先 チャンパーサック県教育局（西山雄大専門家） 研修概要

①教育の現状と課題
②JICAプロジェクトの取り組み
③ワーク・ディスカッション
(1) 留年率・中退率が高い理由
(2) 留年率・中退率の改善策
(3) 教育現場での活かし方

8/12
訪問先 チャンパーサック県教育局（西山雄大専門家） 感想・課題

課題
○教育の価値、言語の違い
○両親の移動
○学校運営
○設備・教材の不足
○教育の質
○継続進級



8/12
訪問先 チャンパーサック県教育局（西山雄大専門家） 感想・課題

感想
○ラオスの教育の現状に驚き
・制度（障害者？）・写真から
・教員、児童、生徒、保護者の情報不足？
○国民の生活条件の違いによる一斉指導の難しさ
・多民族国家、多様な生活スタイル
○自国の学校運営の意味を理解
○自国の教育システムのありがたさ
○「日本は恵まれてる」で終わらせたくない
○ラオスらしい教育とは
・先進国の模倣ではなく
・特別支援的視点を

8/12
訪問先 チャンパーサク県教育局（西山雄大専門家） 授業への活かし方

○自国の教育の素晴らしさを同僚に伝えたい
・背景があるからこそ制度ができている

○魅力的な授業構成
・子どもが変われば親が変わる

8/13
訪問先 ラオガム郡 一村一品運動（田中重子隊員） 研修概要

活動視察
・マリーゴールド
・織物製品化、流通



8/13
訪問先 ラオガム郡 一村一品運動（田中重子隊員） 研修概要

①マリーゴールド
農業の産業化
食べ物から産業へ



8/13
訪問先 ラオガム郡 一村一品運動（田中重子隊員） 研修概要

②織物の製品化、流通




8/13
訪問先 ラオガム郡 一村一品運動（田中重子隊員） 授業への活かし方

○キャリア教育に通じる取り組み




8/13
訪問先 ラオガム郡 一村一品運動（田中重子隊員） 感想・課題

課題
○外からの影響の強さ



8/14
訪問先 UXO-LAO（チャンバサク県 バクソン村） 研修概要

①不発弾の撤去
②不発弾の調査・研究
③不発弾に関する教育の普及
④市民からの情報収集

不発弾問題＝ラオスの課題

○不発弾への無理解→人的損失
○農地の制限→経済的損失
○住民へのケア






訪問先 UXO-LAO（チャンバサク県 バクソン村） 感想・課題

「戦争」を身近に体感→体験を語る

無関心・他人事という感覚→感情に訴えかける教育へ

ラオス国民 = 地球市民 = 日本国民



8/15
訪問先 ホームステイ(ノンブン村)

研修概要

人口:194名(99世帯)
民族:ラオルム族・タオイ族
宗教:仏教(ラオルム族)・カトリック(タオイ族)
使用言語:ラオ語
産業:木工・観光・農業
その他:村長の権限が強い

8/15
訪問先 ホームステイ(ノンブン村)

研修概要

人口:194名(99世帯)
民族:ラオルム族・タオイ族
宗教:仏教(ラオルム族)・カトリック(タオイ族)
使用言語:ラオ語
産業:木工・観光・農業
その他:村長の権限が強い

活動その1

活動その2

8/15
訪問先 ホームステイ(ノンブン村)

感想・課題

村長の絶対的な力。
(結婚・離婚・もめ事の仲裁など。)
コミュニティ内での繋がり。
支援のあり方。
物質的に豊かになるデメリット。

8/15
訪問先 ホームステイ(ノンブン村)

授業の活かし方

ワークショップ「物の豊かさとは何か」
「お土産問題」
ディベート・ディスカッション
「発展途上国の支援のあり方」

8/17
訪問先 ADDP(アジアの障害者を支援する会)青藤功一さん

研修概要

- ①障害者就労支援事業について
- ②スタッフの事例紹介
- ③障害者を取り巻く状況
- ④ベーカリー部門 見学

訪問先:ADDP(アジアの障害者を支援する会)

感想・課題

- ・明るい雰囲気、今後の可能性
- ・障害者に対する支援の不十分さ
- ・クオリティーを追求する姿勢
- ・社会起業

授業実践

小学校編

教員により、一部表現のばらつきがあります。また、児童・生徒の感想に誤字脱字等がある場合がありますが、原文のままとしています。

大切なことは一緒だね

学校所在県：島根県
 学校名：浜田市立三隅小学校
 名前：荒木 友子
 担当教科：全教科（音楽以外）

実践教科：国語・学級活動・全校朝礼・
 体育・算数・生活
 対象学年：第1学年・第1～6学年
 対象人数：16名（1年2組）
 194名（第1～6学年）

■実践の目的

- ・ラオスの人、自然や文化について知ることを通して、ラオスに親しみをもつ。
- ・ラオスの教科書に書かれている言葉の意味や、写真に写っている人の気持ちを想像することを通して、国が違ったり言葉が分からなかったりしても、相手の立場に立って考えようとする気持ちや態度を育てる。
- ・ラオスの子どもたちも家族を大切に思い、役割を果たしていることに気付くことを通して、自分の家庭生活を振り返り、自分のできることについて考え、自分の役割を積極的に果たそうとする態度を養う。

■授業の構成

時限・対象学年	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 1年2組	「あるけあるけ」（国語） ・世界中の子どもたちが楽しく歩いている様子を想像し、言葉のリズムや響きを楽しみながら、「あるけあるけ」を音読する	(1) 地球儀を見せる (2) 教師が判読し、「どこどん」は何の音か考えさせる (3) 児童が音読する (4) ラオスの子どもの写真や動画を見せ、地球には色々な国の人が生活していることを確認する (5) 全員で歩きながら楽しく読む	(1) 地球儀 (4) ラオスの子どもの写真・動画
2時限目 1年2組	「ラオスの食べ物」（学級活動） ・ラオスの食文化を楽しみながら知り、親しみをもつ	(1) ラオスでは何を食べるか予想させる (2) 日本と同じように米を食べることを伝え、米の入れ物や米の形を見て、気付いたことを発表する (3) タマリンドの木の写真を見て、気付いたことを発表する (4) 会話を楽しみながら、タマリンドキャンディーを食べる	(2) ラオスの米 (2) 米の入れ物 (3) タマリンドの木の写真 (4) タマリンドキャンディー
3時限目 全校児童	「ラオスってどんな国？」（全校朝礼・国際理解教育） ・ラオスのことについて知り、外への興味や関心を持つ	(1) 「こんにちは」という意味のラオスの文字を見せ、ラオ語で挨拶をする (2) ラオスの民族衣装シンを紹介する (3) ラオスクイズをする (4) 市場・食事・住居の写真の説明をする (5) 教育・不発弾の問題について説明をする (6) 自分が感じたことや思いを伝える。	(1) ～ (6) パワーポイント (2) シン

4時限目 1学年全体	<p>「セバタクロー」(体育)</p> <p>・体を動かして楽しくラオスの文化に触れる</p>	<p>(1) セバタクローのボールを見せる</p> <p>(2) 何に使うか想像させる</p> <p>(3) セバタクローについて説明する</p> <p>(4) グループに分かれて円形パスをする</p> <p>(5) 振り返りをする</p>	<p>(1) ～ (4)</p> <p>セバタクローのボール4つ</p>
5時限目 1年2組	<p>「たしざん」(算数)</p> <p>・数字や記号はラオスでも同じことを知り、言葉が分からなくても理解しようとする態度を育てる</p>	<p>(1) ラオスの算数の教科書を見せる</p> <p>(2) ラオスの1年生の算数の教科書の問題を解く</p> <p>(3) 同じところ・違うところを付箋に書き、グループで意見を交換する</p> <p>(4) 全体で意見を交換する</p>	<p>(1) ラオスの算数の教科書の教科書</p> <p>(2) 教科書の見開き1ページを印刷したもの的人数分</p> <p>(3) 付箋</p>
	<p>★ラオスのことは出さない</p> <p>「じぶんのできるよ」(生活)</p> <p>・自分の家族について調べたり家族と関わることを通して、家の人の良さや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすことができるようにする(6時間)</p>	<p>(1) 自分の一日を振り返り、ワークシート①に書く</p> <p>(2) 家では誰がどんな仕事をしているのかワークシート②に書く</p> <p>(3) 一週間「できるよビンゴ」に取り組み、家の様々な仕事を体験したり、自分でできることを増やしたりし、自分が家の仕事を体験して感じたことを、ワークシート③にかいて発表する</p> <p>(4) 仕事を一つ選び「めざせ！○○名人！」に1週間取り組む</p> <p>(5) (6) 「○○名人になったよ新聞」を作り発表する</p>	<p>(1) ワークシート①</p> <p>(2) ワークシート②</p> <p>(2) できるよビンゴカード</p> <p>(3) ワークシート③</p> <p>(4) めざせ！○○名人カード</p> <p>(4) 名人認定証</p> <p>(5)、(6) 新聞ワークシート</p>
6時限目 1年2組	<p>「ラオスで会った人と友だちになろう」(学級活動)</p> <p>・自分がラオスへ行った気持ちになって、ラオスの人と仲良くなりたいたいという気持ちを育てる</p>	<p>(1) 「サバイディー」と全員に挨拶をする</p> <p>(2) 飛行機の座席と見立てた席に座って、自己紹介をする</p> <p>(3) ラオスでのバスの車窓から見えた景色と歩きながら見えた景色を動画で流す</p> <p>(4) ラオス人が写った写真をペアに1枚ずつ配り、写真のラオス人役と旅人役に分かれて、ロールプレイをする</p> <p>(5) ペアで役を交代し、写真に会話を書き込む</p> <p>(6) 写真のラオス人に葉書を書く</p>	<p>(2) 航空券にみたてた紙</p> <p>(3) 景色の動画</p> <p>(4) 写真を画用紙に貼りつけたもの</p> <p>(5) ペン</p> <p>(6) はがきサイズの厚紙</p>
7時限目 1年2組	<p>「ラオスの家族」(生活)</p> <p>・ラオスの子どもたちも家族を大切にしていることを知り、自分の家庭生活を振り返って、自分のできることについて考え、自分の役割を積極的に果たそうとする態度を養う</p>	<p>(1) ペアで「レヌカの学びカード」を行い、一斉に裏返しにする</p> <p>(2) どのカードで間違えたか発表する</p> <p>(3) ラオスの子どもたちも家族を一番大切にしていることを確認する</p> <p>(4) ラオスの家族が仕事をしている様子を写真と動画で見せ、気付いたことを発表する</p> <p>(5) 自分の家族に手紙を書き、冬休みの生活につなげる</p>	<p>(1) 「レヌカの学び」カード(ラオス版)</p> <p>(4) ラオスの家族が仕事をしている写真・動画</p> <p>(5) 便箋</p>

3時限目：ラオスってどんな国？（全校朝礼）

ねらい…ラオスのことについて知り、外国への興味や関心を持つ。

<本時の流れ>

まず、「こんにちは」という意味のラオスの文字を見せ、興味をひきつけた。「サバイディー」と読み、ラオスの挨拶であること、手と手を合わせ、お辞儀をしながら言うことを説明し、全員で挨拶をした。そして、身に着けていたラオスの民族衣装シンを紹介し、市場で布を選んで作ってもらったことを伝えた。次に、3択ラオスクイズとして、どうやってラオスへ行ったか、ラオスの国旗はどれか、ラオスで有名な日本のアニメはどれか、を問題に出した。その次に、市場・食事・住居の写真を見せながら、体験談を話した。そして、課題である教育や不発弾について話し、その課題を乗り越えるため、ラオスで仕事をしている日本人がいることを紹介した。最後に、ラオスから帰国して、今もラオスについて考え続けていることや、浜田市の教員として子どもたちの夢がかなえられるように仕事をがんばっていきたいという思いを伝えた。

<児童の反応>

○服装

- ・シンが気に入った。かわいい。
- ・インドみたい。

○食べ物

- ・果物がおいしそう。
- ・ココロギやカエルを食べるなんて驚いた。嫌だけど、どんな味がするのか気になる。
- ・お父さんに、外国人は日本人が生で魚を食べることに驚くと聞いた。それと同じ。

○住居

- ・風通しがよさそうですごい。
- ・家の下にブランコや動物がいて楽しそう。
- ・ログハウスみたいでいいな。

○子どもたち

- ・サンダルや木で車を作っていて、天才。
- ・魚や竹の子をとっていてすごい。
- ・機械であそんでいないからすごい。

○暮らしぶり

- ・貧しくてかわいそう。
- ・爆弾が残っているなんて危険。絶対戦争はいけない。
- ・ラオスの人たちは、外へ出るのがこわそう。

○その他

- ・仏教を信じていて、日本と似ている。
- ・自分ができることは何か考えた。
- ・日本もラオスも一人ひとりが助け合ったら、よい環境になる。



全体朝礼の様子

<所感>

全校児童に話す貴重な機会であり、対象が1～6年生と幅広いので、何を話すか慎重に考えた。前半は、ラオスが良い国だと思ってもらえるよう、楽しそうな明るい写真を多く使い、できるだけプラスの言葉を用いて話した。後半で課題を述べ、その課題に向けてラオスで働く日本人や自分の思いを伝え、「かわいそう」「危険」で終わらせないように工夫した。

しかし、児童の感想文を読むと、不発弾や教育の問題が強く印象付けられたようだった。また、4年生と6年生で感じ方が少し違うことがわかった。

4年生児童は、シン、食べ物、住居や不発弾の写真を見て感じたことを素直に表現していた。また、ほとんどの児童の感想に「かわいそう」「こわい」「危険」「貧しい」などの言葉が書かれていた。

6年生児童の多くは、ラオスのよい面を感想に書いていたり、自分ができることについて書いたりしていた。総合的な学習の時間で、戦争について学んだことを重ねて考えたようだった。

発達段階によって、捉え方が違うことを考慮する必要があるとわかった。また、プラスのイメージよりマイナスのイメージの方が、強く印象付けられることも考慮すべきだと思った。

6時限目：ラオスで出会った人と友だちになろう（学級活動）

ねらい…自分がラオスへ行った気持ちになって、ラオスの人と仲良くなりたいという気持ちを育てる。

<本時の流れ>

まずアイスブレイクとして、「サバイディー」と全員で挨拶をした。そして、学習のめあてである「ラオスで出会った人と友だちになろう」を確認した。次に、あらかじめ配っておいた航空券に見立てた紙をもとに、席を移動した。乗る前の飛行機や乗客の様子の動画を流して臨場感を出した。移動した席の隣同士で自己紹介をした後、飛行機の窓から見えた景色を動画で流した。その後、ラオスに着き、バスの車窓から見えた景色、歩きながら見えた景色を動画で流した。もう一度、めあてを確認し、「出会った人と友だちになるために、どんなお話をしますか」と発問し、写真をもとにしたロールプレイの手本を見せた。ペアに1枚ずつ、ラオスの人の写真を画用紙に貼ったものを配った。まず、写真のラオス人役と旅人役に分かれてロールプレイをした。その後、ペアで役を交代し、今度は写真に会話を吹き出しで書いた。最後に、振り返りとして、出会った人に葉書を書いた。



写真に会話を書き込む児童

<児童の反応>

○写真を用いたロールプレイ

ペア①

A：サバイディー

B：サバイディー

A：何歳ですか？

B：7歳です。

A：何人姉妹ですか？

B：4人姉妹です。

A：何を食べているのですか？

B：たけのこです。

A：何の虫が好きですか。

B：てんとう虫です。



竹の子を取っている女の子の写真・ペア①が書いた台詞

ペア②

D：サバイディー

F：サバイディー

D：好きな果物は何ですか？

F：パイナップル

D：木登りはできますか。

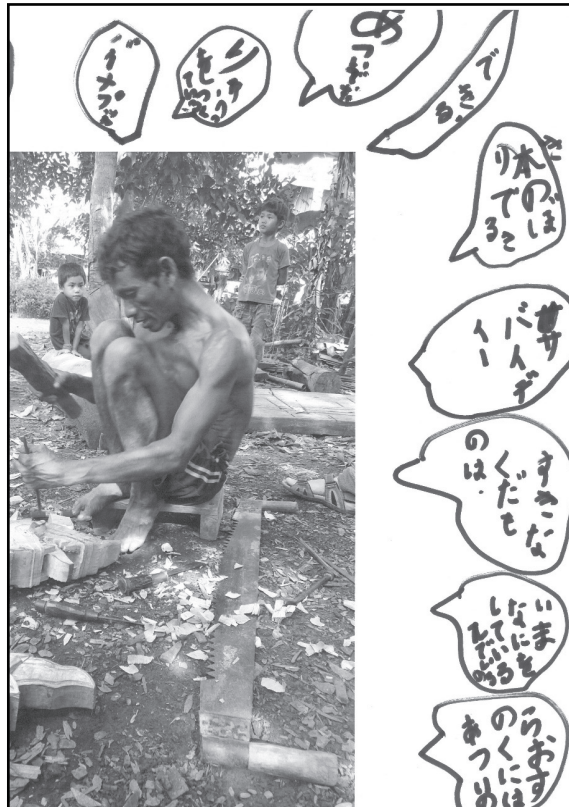
F：できる。

D：今、何をしているの？

F：りゅうをつくっている。

D：ラオスの国は暑いのか？

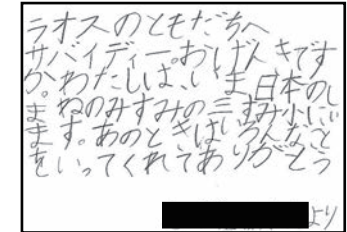
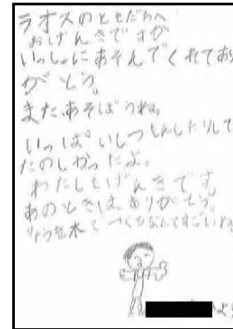
F：暑いです。



木に彫刻をしている男性の写真・ペア②が書いた台詞

○写真の人にあてた葉書

- ・げんきですか。
- ・いっしょにあそんでくれてありがとう。
- ・またあそぼうね。
- ・いろんなことをおしえてくれてありがとう。
- ・わたし日本でがんばっているよ。
- ・いま、なにをしていますか。



児童が書いた葉書

<所感>

航空券と見たてた紙を本物だと思い、本当にラオスに行くことができると考えていた児童が多く、前半は興奮状態だった。しかし、実際には行くことができないと分かって、がっかりさせてしまったことを反省している。

ロールプレイでは、一度手本を見せただけで、特に話の型は示さなかった。すると、1年生の児童は、名前や職業、出身地等、形にとらわれた質問はせず、その人自身に関する個人的な質問（好きな遊び、好きな虫、どうして裸足なのか等）をしていたことがとても興味深く、大変素晴らしいことだと感じ、私の方が学ばせてもらった。

本時では、全ペアにそれぞれ異なる写真を配ったが、扱う写真の数は、ねらいによって変えるべきだとわかった。同じ写真を全ペアに配ると、他のペアと結果を比べることができるので、児童の気付きが深まったかもしれない。また、適切な写真を選ぶことも重要だと気付いた。写っている人が何かをしている写真、対象児童と同じくらいの年齢の子どもの写真、全身が写っている写真だと、会話が弾みやすいと考えた。

葉書を書く活動は、「ラオスに行き、」「ラオスで人と出会い、」「日本へ帰国し、」「ラオスで出会った人に葉書を出す」と仮定が多く重なっている課題だったので、それを理解したり想像したりすることが難しい児童がいた。「ラオスから日本の家族に葉書を出す」など、仮定が少ない課題にすべきだった。

7時限目：ラオスの家族と私たちの家族（生活）

ねらい…ラオスの子どもたちも家族を大切にしていることを知り、自分の家庭生活を振り返って、自分のできることについて考え、自分の役割を積極的に果たそうとする態度を養う。

<本時の流れ>

本時は、前時まで6時間行ってきた「じぶんでできるよ」の最後のまとめの時間として設定した。

「レヌカの学び」カードは、1年2組児童とラオスの子どものアンケート結果をもとに作った。アンケート結果の3つの項目（何が一番好きか、一番幸せな時はいつか、将来の夢は何か）が、非常に似ており、それらに注目してほしかったので、あえて判別しにくい同じような文言にした。授業では、まず、カードの文言を読み上げ、ペアでそのカードが1年2組の児童のものか、ラオスの子どもたちのものか考えて、並べていった。並べ終わると、学級一斉に裏返した。

そして、どのカードで間違えたか発表し、1年2組の児童も、ラオスの子どもたちも家族を一番大切に思っていることを確認した。



レヌカのカードの様子

○ラオスのカード

①すきなたべものは、 パパイヤサラダです。	②よくバトミントンであそぶよ!	③おてらがたくさんあって、 おぼうさんも たくさんいるんだよ。
④かぞくやともだちと いっしょにいるときが しあわせ。	⑤うちは5人かぞくです。	⑥じてんしゃがほしいなあ。
⑦しぜんがゆたかな このくに生まれて、 しあわせです。	⑧えいごの べんきょうがすき。	⑨しょうらいのゆめは、 おいしゃさんか 学校の先生です。

表面



裏面

○日本（1年2組）のカード

①カレーとくだものが大すき。	②休みじかんには、なわとびを してあそぶよ。	③じんじややおてらが たくさんあるよ。 まいとしおまつりも あるんだよ。
④ほつとするし、 たのしいから かぞくとすごすときが いちばんしあわせ	⑤2人きょうだいだよ。	④おとうとかいもうとが ほしいなあ。
⑦大人になったら、 学校の先生か、 おみせやさんになりたい！ びょういんではたらくのも あこがれるな。	⑧生かつとずこうの べんきょうって たのしいよね。	⑨やさしい人や たのしいまちがあるから、 じぶんのくにがすき。

表面



裏面

次に、ラオスの家族が仕事をしている写真と動画（木彫りをしている青年の写真、弟をだっこしている少女の写真、少女が魚をさばいている動画、男性が田んぼで働いている動画等）を見せ、気付いたことを発表させ、ラオスの家族もそれぞれ役割を持っていることを確認した。最後に、自分の家族に手紙を書き、冬休みの生活につなげさせた。



木彫りをしている少年



弟をだっこしている少女



家の人にあてた手紙

<児童の反応>

- ・いつもおりょうりをしてくれてありがとう。
- ・おかあさん大好きだよ。
- ・わたしも大きくなったらおかあさんみたいになりたいな。
- ・おとうさんはいつもしごとをして大へんだね。
- ・ふゆ休みはくつそろえをがんばります。

<所感>

「レヌカの学び」カードの意味を理解するのが難しい児童もいたが、意欲的に取り組んでおり、カードは児童をひきつける楽しい活動だと感じた。裏返して写真を見ることで、ラオスの子どもたちも1年2組の児童も、家族を大切に思っていることが理解できたようだった。

ラオスの少女が魚をさばいている動画によく反応しており、「すごい!」と多くの児童が言っていた。写真や動画を見ることで、ラオスの家族もそれぞれ役割を持っていることが、理解できたようだった。ただし、家族が働いている動画や写真が少なかったのも、もう少し撮っておけばよかったと後悔した。

今まで生活科で学習してきたことと、本時の学習を合わせ、家族についてより深い理解ができたのではないかと考えた。家の人にあてた手紙では、素直にお礼の気持ち、尊敬の気持ち、冬休みに取り組みたい仕事について述べている児童が多かった。

今回の実践でこだわったことが2点ある。1点目は、できるだけ「1年生の教育課程に沿って実践をする」ことだ。ラオスの教材を手段として捉え、1年生で学ぶべき内容を、ラオスの教材を使うことで、より深い理解につなげられると考えたものを取り入れた。2点目は、「ラオスのマイナスイメージにつながる情報は児童に与えない」ことだ。1年生という発達段階を考え、まずは外国に対して先入観を持たずに、親しみを感じてほしいと考えたからだ。この2点について成果と課題を述べようと思う。

○「1年生の教育課程に沿って実践をする」について

<成果>

- ・時間を余分にとらなくてよいので、無理なく実践することができた。
- ・ラオスへの関心が高い児童が多いので、学習への意欲が高まった。
- ・ラオスのことも学ぶことで、違う視点から考えることができるので、理解が深まる児童が増えた。
- ・1年生で学ぶ内容を扱うと、必ず自分に問題が返ってくるので、自分ごととして捉えることができる児童が多かった。

<課題>

- ・ラオスで集めてきた資料を、学習内容に当てはめようとするので、資料ありきで作成していく学びの方が、自然な学習であるように感じるときもあった。

○「ラオスのマイナスイメージにつながる情報は児童に与えない」について

<成果>

- ・先入観や固定概念にとらわれずに、素直に感じて表現できる児童が多かった。
- ・楽しく学習を進めることができた。

<課題>

- ・情報を与えることによって、感じる親近感やよさもあるが、慎重になりすぎて、与えるべき情報も教えられなかった気がする。
- ・発達段階によって、捉え方や理解できる内容が違うので、何が適切で何が不適切なのか、判断しかねることがあった。低学年や中学年には、特に慎重になった方がよいと感じた。どのような内容を扱うべきか教員が考えるときの資料がほしいと感じた。
- ・情報を与えないことによって、逆に勝手な解釈が生まれ、偏見が生じるかもしれないと感じた。

【書籍】

- ・ JICA中国「平成26年度ベトナム教師海外研修 参加型で学ぶ国際理解教育授業実践報告書」
- ・ 青山利勝(1995)「ラオスーインドシナ緩衝国家の肖像」中公新書
- ・ 菊池陽子・阿部健一・鈴木玲子(2010)「ラオスを知る為の60章」明石書店
- ・ 地球の歩き方編集室(2014)「地球の歩き方 ラオス2014～2015」ダイヤモンド・ビッグ社
- ・ 小学校道徳副読本平成22～25年度版「みんなのどうとく1ねん」学研

【インターネット】

- ・ 「DEAR 開発教育協会（開発教育ってなんだろう）」<http://www.dear.or.jp/de/qa01.html>
- ・ 「DEAR 開発教育協会（レヌカの学び）」<http://www.dear.or.jp/world/multiculture2.html>
- ・ 「外務省 ラオス人民民主共和国」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/>

ラオスを知ろう 考えよう ～ラオス旅行～

学校所在県：山口県
学校名：萩市立紫福小学校
名前：松本 英一
担当教科：全教科

実践教科：総合
対象学年：小学3、4年生
対象人数：12名

■実践の目的

ラオス旅行の疑似体験活動を通して、異文化について知り、考える。

■授業の構成

時限・対象学年	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 3・4年生	世界の食卓を比べよう ・ラオスの食卓の写真から考えたことを交流し、ラオスについて興味を持つ	(1) 3つの食卓（中国、ラオス、ドイツ）の写真を提示し、先生が行った国を選ぶ (2) ラオスの食卓を料理、食べ方、人などの視点から見て、感想を交流する (3) ふり返りをする	(1) 3カ国の写真
2時限目 3・4年生	ラオスってどんな国？ ・旅行という疑似体験活動から、ラオスについての理解を深める	(1) ラオス旅行に行くという設定で、映像をもとにラオスについて知る (2) 旅行に行った感想（日記）を交流する (3) 日本とのちがいをまとめ、ふり返りをする	(1) 文化などの違いが分かる写真、映像 (1) セバタクローの球 (2) 模造紙
3時限目 3・4年生	ラオスは「ちがう」国？ ・異文化の中にも共通するものがあることを知る	(1) ペタンク、子どもたちの将来の夢、料理など、自分たちと共通する映像を見る (2) 感想を交流する (3) ふり返りをする	(1) 文化などで似ていることが分かる写真、映像 (2) 模造紙
4時限目 3・4年生	電気問題 ・便利になること、支援のあり方を考える	(1) 『地球ドラマチック「村に電気がやってきた」』を見る (2) 電気がつくことに賛成か反対か考える (3) 3ヶ月後、村がどうなったか考える (4) 電気がついたことについて意見交流する (5) ふり返りをする	(1) 映像 『地球ドラマチック「村に電気がやってきた」』
5時限目 3・4年生	お礼のプレゼントをしよう ・村人や自分たちの思いをもとに、プレゼント内容を考える	(1) ノンブン村のホームステイを疑似体験する (2) 村人や自分たちの思いをもとに、プレゼント内容を考える（個人→グループ） (3) グループで考えたプレゼントとそのプレゼントを選んだ理由を交流する (4) ふり返りをする	(1) ホームステイの写真、映像 (2) 模造紙

6時限目 3・4年生	「文通しよう」 ・文通する中でお互いの文化を 理解し親近感を持つ	(1) お手紙に書く内容（自己紹介、好きな物・事、日本の紹介、学習で知ったことなど）を確認する (2) 手紙を書く	(1) ラオスの子どもたちの写真 (2) 手紙
---------------	--	--	----------------------------

この授業に 注目

2時限目：「ラオスってどんな国？」

ねらい…ラオス旅行という疑似体験活動を通して、世界には様々な文化や慣習があることを知る。

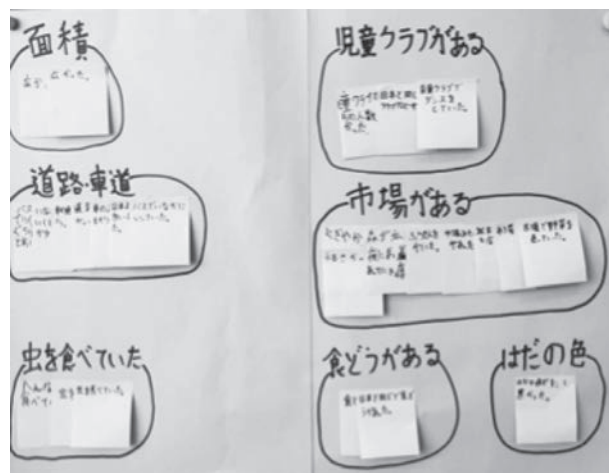
<本時の流れ>

- (1) 動画に同化し、ラオス旅行をする。
- (2) 食べ物や生活の仕方、町の様子に注目し、日本との違いを見つける。 個人 → グループ
- (3) グループで交流した意見を紹介する。
- (4) ふり返りの日記を書く。

<児童の様子>

ラオス旅行が当たり3、4年生で旅行に行くという設定で、導入を行った。遠くに出かける経験が少ない児童が多く、興味津々に学習をスタートできた。飛行機に似せた座席配置にし、映像をもとにラオスの様子を視聴した。人々の生活様式、見たことのないものなど、児童は様々なつぶやきをもらしながら視聴していた。

展開では、映像を視聴して気づいたことを付箋に書いて交流した。交通事情、食事の違い（特に昆虫を食べること）、肌の色、子供文化センターでの様子など、たくさんの違いに気づくことができていた。



グループで話し合った模造紙

<児童の反応>

- ・いろいろな食べ物があって、知っている食べ物がなかった。車の中は、日本とくらべてうるさかった。自ぜんの虫は、日本では食べないけど、食べてきもちわるかった。ラオス語は、何を言っているのか分からなかった。ぼうずの子どもが多かった。
- ・あつかった。ご飯はきんちょうしたけど、食べたらおいしかった。虫などを食べる人は、なかなか日本にはいない。児童クラブがあったのには、おどろいた。しかも、ダンスをおどっていた。ヘルメットをかぶらないで、バイクを運転していた。日本ではつかまります。道路はすなだから、冬はこおらないのかな？二日目が楽しみです。
- ・へんな虫を食べたり、車の通りが反対だったり、広かった。日本とちがうところばかりではなかった。児童クラブがあったり、食どうや市場、お店みたいな屋台もあるところがにっていた。でも、はだの色が少し黒かったのが、ちがった。料理や1日のやることもちがってくると思うので、1日の仕事や、やることをもう少しわしく知りたかったです。
- ・日本とくらべて、ラオスは児童クラブがあって、そこでダンスみたいなのをしていました。日本は、虫は食べないけど、虫のおしりを食べていました。自然がとてもきれいだから、人に無害なのかなと思いました。それに、虫の声も聞こえたから、やっぱり、かんきょうがいいのかな？と思いました。虫の事ばかり書いたけど、おもしろかったです。

<所感>

世界には様々な文化や慣習があることに気づくことをねらいとしていたので、異文化に気づけるよう動画を編集して導入で視聴させた。意見からは、容姿、町の様子、食事などの違いに注目していたことが窺える。面白かったのは、同じ事に注目しても、捉え方が児童によって異なることである。例えば、屋台があることが「日本と似ている」と言う児童もいれば、「似ていない」という児童もいる。そのような意見を交流するだけでも、児童は興味を湧かせながら友だちの意見を聞いていた。今回は「違い」に目がいくよう映像を編集したが、その中でも日本との共通点に目を向けている児童がいた。その意見を拾い上げ、次時へとつなげていった。

3時限目：「ラオスは`ちがう、国？」

ねらい…ラオス旅行という疑似体験活動を通して、異文化の中にも共通するものがあることを知る。

<本時の流れ>

- (1) ラオス旅行2日目という設定で映像やラオスの子どもたちのスケジュールを視聴する。
- (2) 感想を交流する。 個人 → グループ
- (3) ふり返りの日記を書く。

<児童の様子>

前時の学習で、ラオスの子どもたちの一日の予定が知りたいという意見があったため、映像とともにスケジュールと夢の資料も見させた。一日にシャワーを二度浴びること、お手伝いをよくしていること、登校・帰宅時間など、前時にはなかった違いに気づくことができていた。また、将来の夢や遊びなどに注目し、本時のねらいである`共通点、ということにも目を向けることができていた。



ラオスの子どもの夢の絵

6:00	6:15	7:00	8:30	11:30	14:00	15:30	16:00	19:30	20:30
起床	シャワー	朝食	登校	授業	昼食	授業	登校	授業	夜食

ラオスの子どもの1日のスケジュール

<児童の反応>

- ・今日は、子どもたちと遊びました。ペタンクがあったなんて、おどろきました。日本と同じ遊びがあったんだなあと思いました。インタビューをして、だから物は何ですか？というしつ問に、家族と答えてました。わたしも家族だから、あの女の子とは意見が合うなんて、おどろきました。また、三回目の旅行に行きたいです。
- ・今日は車でい動しました。公園に行くとペタンクをやっていて、私もやっておもしろかったです。ラオスでもペタンクがはやっているんだなと思いました。子どものしょう来のゆめを聞くと、病院の先生、ぎんこういんになりたいといって、日本よりゆめが大きいと思いました。夜はバーベキューをしました。焼き肉のきかいは日本よりすごかったです。お肉もとてもおいしかったです。
- ・今日は農園に行きました。ペタンクをやっていたので、中に入れさせてもらいました。そしたら、1番近くに行きました。わたしは遊びでも、ゆめでも、日本人ととてもにているんだなと思いました。そして、ペタンクはラオスで1番人気な遊びだという事に、とてもびっくりしました。次は、もっと遊びやゆめなどを知りたいです。とても、おもしろかったです。
- ・今日、ラオスの人がペタンクをしていました。その時、日本でやる遊びをラオスの人もやるんだなと思いました。ぼくはその時、畑でやっていたので、畑が多いと思いました。ラオスの子は、よくお手つだいをして、すごいと思いました。次は、お手つだいをよくする理由が知りたいです。

<所感>

異文化の中の共通点に気づくことをねらいとして、授業を行った。児童の反応にあるように、夢や遊びなどに注目することで共通点に気づけたと思う。共通点があることが分かったと、さらに知りたいという気持ちも高まって来たようで、「面白かった」「もっと知りたい」などの前向きな感想が生まれた。注目した事は、前時と同様に同じ情報でも児童によって捉え方が異なることであった。将来の夢でも、日本と似ていると思う児童もいれば、似ていないと思う児童もいる。「似ている」「似ていない」と活発に意見を言い合っている児童の姿が、印象的であった。

4時限目：「電気問題」

ねらい…ラオスの村で起こった電気問題を通して、便利になること、支援のあり方について考える。

<本時の流れ>

- (1)『地球ドラマチック「村に電気がやってきた」』を視聴する。
- (2) 電気がつくことの賛否、3カ月後の村の様子などについて考える。
- (3) ふり返りをする

<「村に電気がやってきた」概要>

ラオス北部に位置するハティン村には電気が通っておらず、懐中電灯を片手に夕食の支度をしたり子どもたちは勉強をしたりしている。村人は、「テレビを見たい」「勉強して上の学校に行きたい」「便利になりたい」という願いを抱いている。そのような中で、政府とNGOが協力し村に電気を通すプロジェクトが開始する。多くの人はプロジェクトに賛同するが、村が変化することに不安を抱く人もいる。様々な思いが交錯しながらも、無事、村に電気が通る。しかし、電気が通った世帯は、村のごく一部の人だけであった。そのことに不満を抱いた村人が抗議したところ、加えて2世帯に電気が通ることになる。

3ヶ月後、村には様々な変化が起きた。自分たちで水力発電を増築し、電氣量を増やした。電氣の恩恵で仕事ははかどり、家を石造りに改築、道路の整備、テレビなどのメディア普及など村が発展した。しかし、若者が昼間からラジオを大音量で流し遊んだり、結婚などの慣習が変わったりと、変化に戸惑う人々もいる――。

<児童の様子>

「村に電気がやってきた」の始めの部分で、ラオスの子どもたちが懐中電灯で勉強をしていたことにとても驚いていた。番組の途中で、電気がつくことに賛成か反対か考えたところ、全ての児童が賛成であった。自分たちの生活が電気によって成り立っていること、そして映像の中で電気がない生活がどれだけ大変であるかを意見としてあげていた。しかし、番組の続きを見る中で、どうやら電気をつけることが村人全員の意見ではない事に気づいた。



「村に電気がやってきた」を視聴している様子

3ヶ月後、村がどうなったかの予想では、「壊れた」「不公平な気持ちが高まった」などの意見もあったが、全体としては「全ての家に明かりがついた」などの前向きな意見が多かった。

その後、番組を最後まで視聴し、電気がついたことへの自分の考えをまとめ、本時を終了した

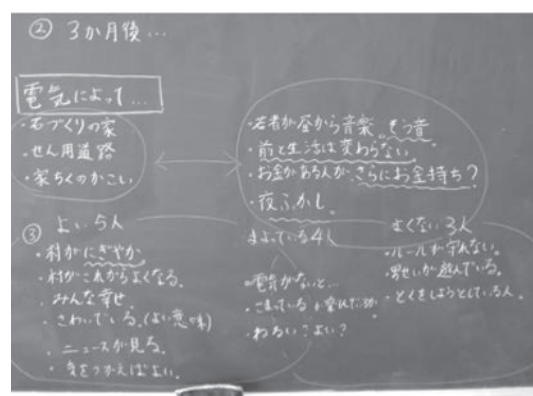
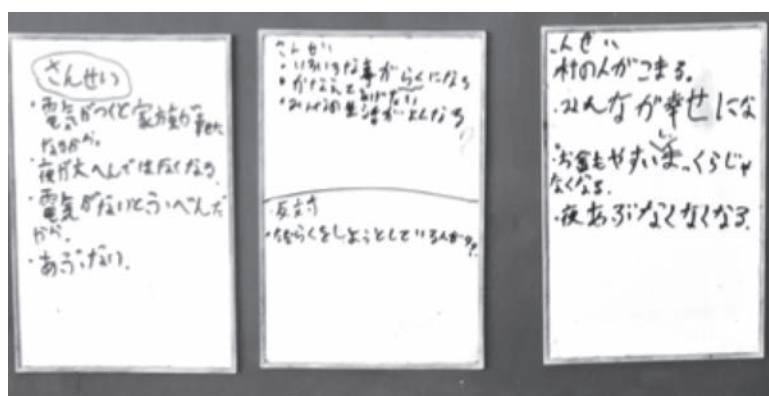
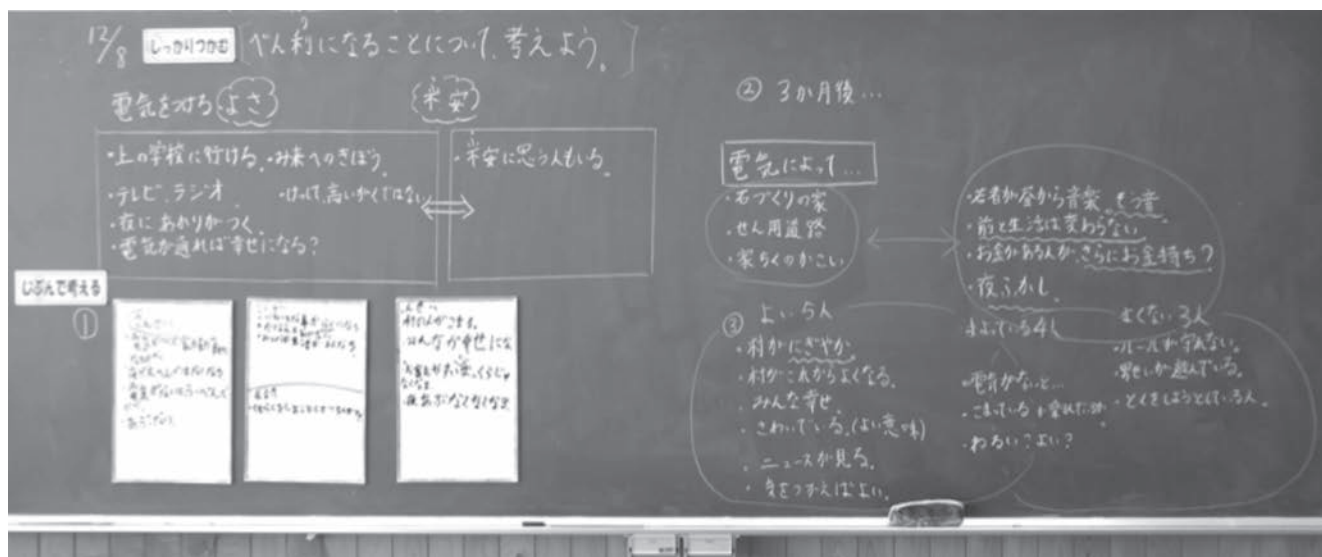
<児童の反応>

- ・わたしは、大きい音はいけないと思ったけど、ぎゃくによいと思いました。電気をつけたのはよいと思いました。かいちゅうでんとうだけでべん強するのは、大へんだったと思うし、お母さんもかた手でやるのも大へんだから、電気をつけたのはよいと思いました。
- ・ぼくはやっぱりびみょうです。ルールなどを決めて音りょうは小。仕事もちゃんとやる。みんなのことも考える。などとやったら、もっとよくなると思います。でも、村の人は、夜、両手が使えらからべりりになったと思います。
- ・私はラオスのいなかに電気がつくのはいいと思います。電気がきて村人たちも電気がくるためにはたらいて、電気がきていなかったら石作りの家、かちくのかこいができなくて、村のかんきょうとかも前とかわっていないと思ったし、自分たちでも電気をまねして作っていたのはすごいと思ったからです。
- ・ぼくは、自分たちが使いやすいからといっても、いきなり使うと今までよかった事が減り、できなかった事が増えているから、ぼくは迷っています。なぜ、今までよかった事が減るのかよく調べたいです。

<所感>

これまでの学習とは若干流れが変わった学習となった。この学習を設定した理由として、ラオスで経験したことが生きていた。ラオスではゴミの処理が問題となっている。ゴミは仕分けせず、全て埋めているのだ。これは、もともと自然に帰る物しかゴミとして出でいなかったもので、その方法でゴミを処理すればよかったのだが、外からの急速な物質面での影響により、ビニールや金属類など、埋め立てるだけでは処理しきれないものも出ている。つまり、扱いきれないのだ。また、ある村を訪れた際、物をもらうことに慣れている子どもたちがいた。これは、訪れた外国の人が安易に物をあげることで、もらうことが当たり前になっているように感じた。研修メンバーと話し合う中で、物を与える物質的支援ではなく、物の扱い方を習得する「技術的支援」が本当は大事なことであった。

今回の授業は、電気という物質的支援で村にどのような影響があるのかを考えさせるため、設定した。電気が当たり前にある世界で生きている児童にとっては、やはり電気が必要であるという意見が多かった。一方で、村人の思いをくみ取りながらも、電気がついたことに素直に賛成できないという気持ちも、児童の感想から窺えた。また、「ぼくは、自分たちが使いやすいからといっても、いきなり使うと今までよかった事が減り、できなかった事が増えているから、ぼくは迷っています。なぜ、今までよかった事が減るのかよく調べたいです。」という意見があり、便利になること＝幸せではないのかもしれないという考えを持つ児童もいた。今回の学習を踏まえ、次時の自分たちが物質的支援をする「お礼のプレゼントをしよう」の学習へつながっていく。



4時板書

5時限目：「お礼のプレゼントをしよう」

ねらい…ラオスのプレゼント問題を通して、ラオスの人々と自分たちの思いを理解し合うことについて考える。

<本時の流れ>

- (1) 動画に同化し、ラオスの村にホームステイをする。
- (2) ホームステイしたお礼のプレゼント内容を考える。 個人 → グループ
- (3) グループで決めたプレゼントとそれを選んだ理由について意見交流。
- (4) ふり返りをする。

<板書型指導案>

ホームステイをしよう！

【めあて】ホームステイのお礼のプレゼント内容を考えよう。

村の様子

- ・木工品と農業が盛ん
- ・99世帯
- ・電気が通っていて、テレビも映る
- ・小学校がある
- ・お手伝いをし、皆で食事
- ・子どもは遊ぶのが大好き
- ・飴をもらいたがる

村人の思い

- ・進学することはよいこと
- ・学校に時計がない
- ・観光を発展させたい
- ・日本のことを知りたい

自分たちの思い

- ・お礼がしたい
- ・日本のことを紹介したい
- ・食べ物をあげたい
- ・面白い遊びを教えたい

【一人学び】0～3個プレゼントを選ぶ。 → それぞれの考えをもとに、グループでプレゼントを選ぶ。

選んだ理由を考える。

シャボン玉	サッカーボール	3DS
日本の紹介本	つけもの	梅のお菓子
お菓子のつめ合わせ	せんす	たくさんの日本グッズ
	時計	

【共学び】グループの考え発表。意見交流。

○サッカーボール

○つけもの

○日本の紹介本

(理由)日本のことを知りたいと言っている。子どもは遊ぶのが好き。

○時計

(理由)学校に時計があったら便利。前の学習から、プレゼントし過ぎるのも、良くないと思う。

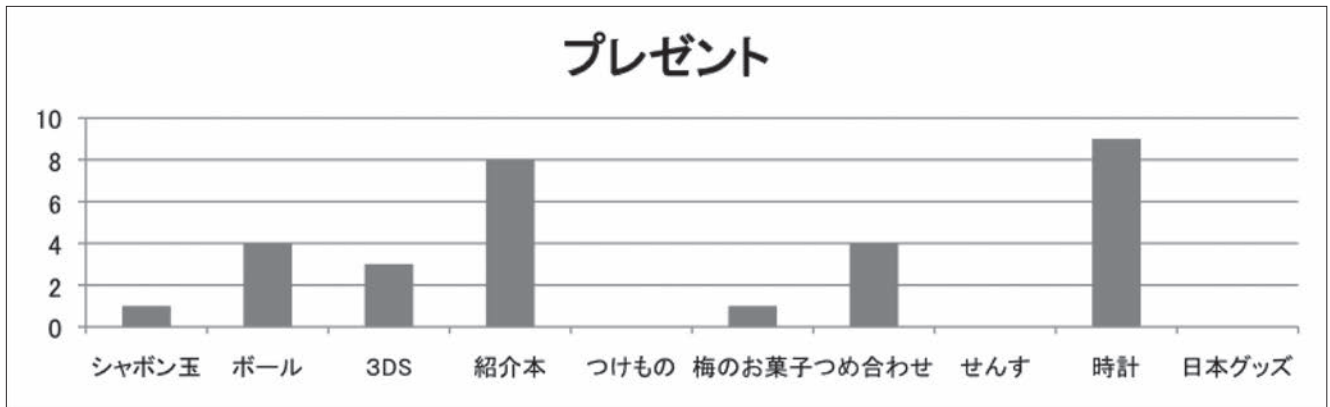
【まとめ】ふり返りをし、もう一度自分の考えをまとめる。

<p>【めあて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオス旅行の最終日であることを確認する ・動画に同化しながら、ホームステイの様子を視聴する ・必要な個所で解説する 	<p>【一人学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイのお礼のプレゼントをするという設定を確認する ・選択形式にすることで、意見交流ができるようにする ・村の様子や思いを確認することで、プレゼントを選ぶ判断基準を持たせる 	<p>【共学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙を活用し、意見を視覚的に比べられるようにする 	<p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共学びをもとに、自分の考えを深める ・ふり返りを伝える
<p>〈評価〉プレゼント問題を通して、ラオスの人々と自分たちの両方の思いを考える大切さに気づき、国際理解を深めることができたか。</p>			

<児童の様子>

導入では、ホームステイという言葉にぴんと来ていない児童もいたが、映像が始まると興味津々に見ていた。その後、写真のスライドをみせながら村の様子や思いを確認した。児童は映像と関係付けながら確認し、内容を理解していた。

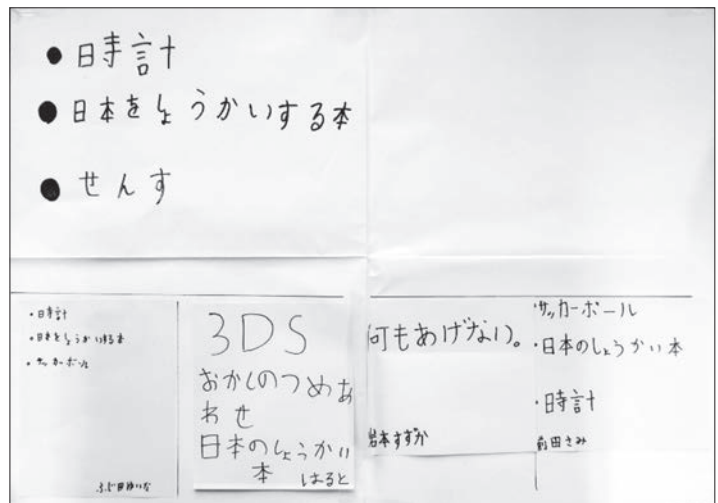
プレゼント選びは、多くの児童が悩んでいた。3個選んだ児童は8名。2個選んだ児童は3名。何も選ばなかった児童(以下、Aとする)は1名であった。Aの理由は、「使い方を知らなかったら、すぐこわれてしまうから」であった。前時の「電気問題」の学習で、外からの物質だけの支援は本当の支援になるのかということを考えていたので、そのことを踏まえた意見であると感じた。以下、プレゼントとして多かった順である。



どのプレゼントを選んだか

グループで話し合った後、交流をした。
 Aグループ「時計」「日本を紹介する本」「せんす」、
 Bグループ「時計」「お菓子のつめ合わせ」「サッカーボール」、
 Cグループ「時計」「日本を紹介する本」であった。

まず共通するのは、どのグループも「時計」を選んだことである。理由も同じで、村人の思いを考えてのことであった。また、「日本を紹介する本」も、2グループが選んでいた。Aグループについてはせんすも選んでいて、村人が「日本のことを知りたい」と言っていたこと、自分たちが日本のことを伝えたいという思いが合わさった選択であったようだ。



グループで話し合った模造紙



グループで話し合っている様子



グループごとの発表の様子

<児童の反応>

- ・ぼくは、ラオス人にもっと日本のことを教えてあげたいと思いました。理由は、日本のことをあるていど知っても、まだ知りたいと思って、ラオス人が日本に来てくれるかもしれないからです。
- ・わたしはラオス人の事をもっと知りたいし、プレゼントをあげるとよろこぶから、プレゼントをあげたほうもいいけど、何もあげないのはかわいそうだけどよいことと思います。使い方がわからないと、だめだからです。
- ・わたしは、日本をしょうかいする本がよいと思いました。最初は、何もあげないほうがよいと思ったけど、日本をしょうかいする本をあげたら使い方なども分かると思ったからです。ラオスの人が日本のことを知りたいと言っていた人もいました。
- ・時計がよいと思いました。理由は、時計は前からあったので、使い方を知っているのだから、あげたらいいと思いました。私が伝えたいことは、こまやけん玉などの、日本の遊びを教えてあげたいです。ラオスの遊びなどとちがう日本の遊びを教えてあげたらいいと思ったからです。
- ・わたしは、やっぱりサッカーボールは、やめた方がいいと思いました。わけは、空気入れのボール用がなかったら、すぐゴミになるからです。わたしがいいと思うのは、せんすと日本をしょうかいする本がよいと思いました。
- ・ぼくは、Aさんの何もあげないもよかったと思います。なぜなら、前の事なども考えているのでよかったと思います。ぼくはラオスの人が日本の事をなぜ知りたいか知りたいです。

<所感>

単元の集大成として、ラオスの人々と自分たちの思いを理解し合う異文化理解をねらいとして授業を行った。今回も、実際に自分たちが経験した「おみやげ問題」を発展させ構想を練った。おみやげ問題とは、ラオスでホームステイをした際に日本から用意したおみやげを通して、たくさんのおみやげを持参し過ぎたことをふりかえり、渡した物がどのような影響を与えるのかなどを考えたことである。前時の「村に電気がやってきた」の学習で物を与える影響を学習していたので、選択肢の中に「お菓子のつめ合わせ」、「たくさんの日本グッズ」、そして村人がほしいと言っていた「時計」の項目を入れた。Aの理由の中に、「あげてもすぐ壊れてしまうから」とあったことから、前時の学習を意識していることが窺える。そのことに共感している児童もいた。しかし、児童の意識としては、たくさんあげた方がよいのではないか、自分たちが楽しい物をあげたい、という自分自身の思いに依った意見も多かった。

グループごとの意見を見ると、考えを深められたことが感じられる。どのグループの理由にも、ラオスの人々と自分たちの思いの両方を踏まえた意見になっていたからである。

ふり返りでは、Aが「日本を紹介する本」を選んでいたことに注目した。理由としては、日本の物の使い方が分かるからということであった。ただ物をあげる物質的支援ではなく、その使い方を教える技術的支援を行いたいという思いが感じられた。

ホームステイをしよう！

12%①おれいのプレゼントを考えよう。

①おれいのプレゼントを決める。 【じょうけん】・・・0～3つ。

・日本をしょうかいする本	シャボン玉	・3DS	・時計
・うめぼしのおかし	・せんす	・サッカーボール	
・つけもの	・おかしのつめ合わせ	・たくさんの日本グッズ	

②えらんだ物

シャボン玉
時計
おかしのつめ合わせ

理由

シャボン玉にしたわけは、3DSをあげると、せっかく外で元気にあそんでいたのはなくなると思うから。時計は前から持っている物をからこまっているならあげたほうがいい。子どもたちは、おもえをもらいたがるからほかのいろいろなものをあげると喜ぶと思うから。

③ふり返り

時計がよいと思いました。理由は、時計は前からあったので、つかいかたをしっているのだから、あげたらいいと思いました。私が伝えたいことは、こまやけん玉などの、日本の遊びを教えてあげたいです。ラオスの遊びなどとちがう日本の遊びを教えてあげたらいいと思ったからです。

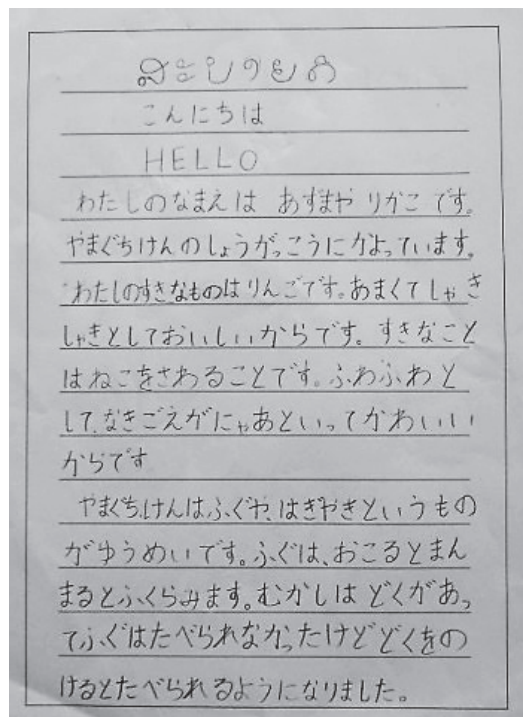
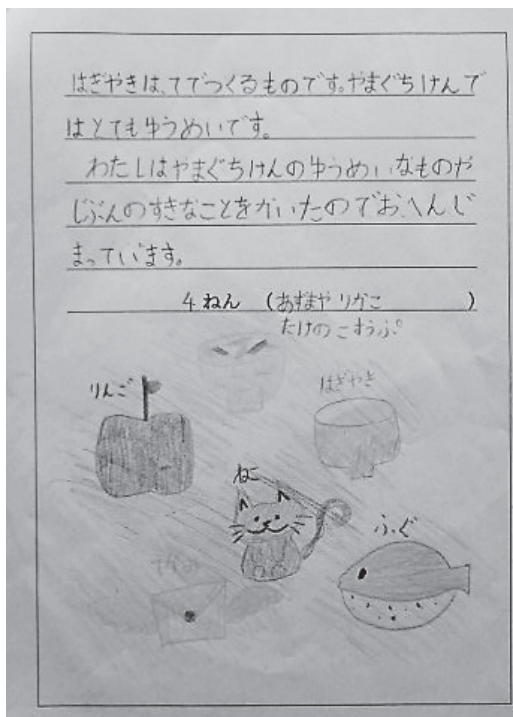
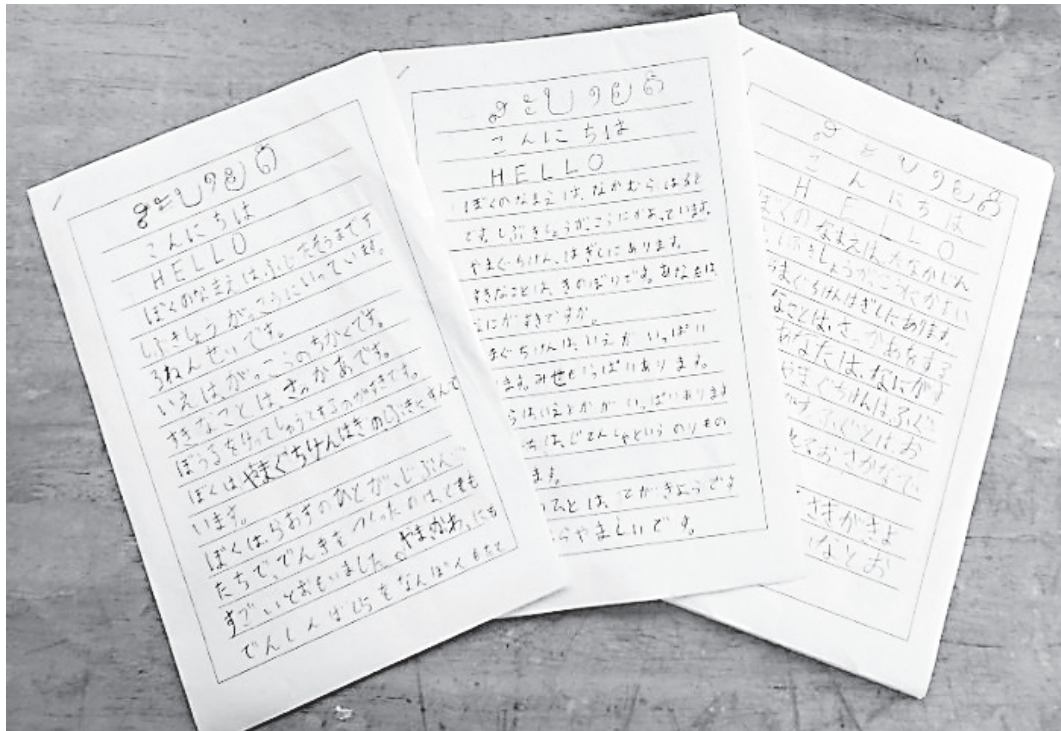
ワークシート

6時間目：「文通をしよう」

ねらい…ラオスの子どもたちと文通することを通して、お互いの文化を理解し親近感を持つ。

<児童の様子>

文通の内容は、あいさつ、自己紹介、日本の紹介、ラオスの学習を通しての感想などである。あいさつではラオ語、英語、日本語で文を書いた。ラオ語も英語も書き方を知らないため、児童は興味半分、不安半分で文章を書いていた。一人一通書き、返信を楽しみに待っている。

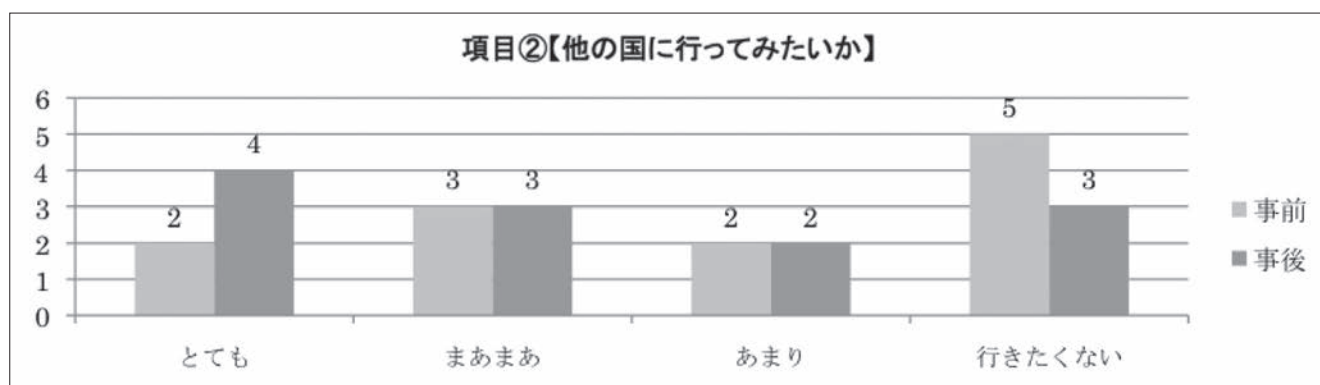


日本の子どもの手紙

事前・事後アンケート

学習の事前、事後に児童へアンケートを行った。事前の項目は①他の国に対してどんなイメージがあるか、②他の国に行ってみたいか、事後の項目は①他の国に対してイメージは変わったか、②他の国に行ってみたいか、である。以下が、アンケート結果である。

項目①【他の国に対してのイメージ】	
どのようなイメージがあるか（事前）	どのようにイメージは変わったか（事後）
<ul style="list-style-type: none"> ・ はだが濃い色や薄い色のはだ。 ・ はだが黒い。 ・ せが高い。 ・ そんなに遊ばない。 ・ すみずらそう。 ・ 広い。 ・ たて物がたくさんありそう。 ・ 暑いイメージ。 ・ じゅうとかうっているの、少しこわい。 ・ ナイフやフォークを使って食べる。 ・ はしやスプーンなどがなくても手で食べる。 ・ お米をあまり食べない。 ・ ピザをたくさん食べる。 ・ 七面鳥の肉をそのまま売っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が黒いわけではない。 ・ 背の高い人だけではなく、低い人もいた。 ・ いっぱい遊んでいた。 ・ 日本では、していないことをしている。 ・ そんなにすみずらそうじゃなかった。 ・ ものすごくいなかの所もあった。 ・ 外国はあまりお金がないので、電気などがついていないところもある。 ・ 小さい国があるところ。 ・ 似ている食べ物があった。 ・ 食べる物が違う。 ・ 料理がちょっとこわくて変な物が入っていきそうなイメージだったけど、おいしそう。 ・ パン系のものをよく食べるのは知らなかった。



項目①では、主に容姿、町の様子、食べ物についてイメージをあげていた。事前アンケートでは、「すみずらそう」「じゅうとかうっているの、少しこわい」など、どちらかと言えばマイナスイメージが強いように感じた。これは項目②からも窺うことができる。項目②の事前では、「とても・まあまあ」の割合が約40%であり、やはり他の国に対しての気持ちが前向きではないことが分かる。「あまり・行きたくない」を選んだ理由としては、「飛行機が落ちるのがこわい」「食べ物が分からない」「言葉が分からない」という意見が主であった。小学3、4年の児童にとっては、自分たちの身の回りの生活での経験がほとんどであり、海外についての知識として得るのは、テレビなどのメディアがほとんどである。少ない情報だけで物事を判断するのは難しく、それゆえ海外に対してネガティブなイメージを持つ児童が多いと感じた。

さて、事後アンケートを見ると、学習を通して意識が変わったことが窺える。まず項目①では、「全員が黒いわけではない」「そんなにすみずらそうじゃなかった」「料理がちょっとこわくて変な物が入っていきそうなイメージだったけど、おいしそう」など、少ない情報で抱いていた先入観が変容していることが分かる。また、項目②では、「とても・まあまあ」の割合が60%になった。「とても」に関しては、倍の人数になっている。「とても・まあまあ」を選んだ理由としては、「外国の1日をいっしょにくらしてみたい」「日本とちがう物が食べられたり、知ることができるから」などがあつた。学習を通して生活の様子や文化、慣習を知ることができ、安心感や興味が湧いたことが変容につながったと考える。急激な変化はなかったが、「知らない→こわい、知る→面白い、もっと知りたい」という本単元のねらいが少しでも達成できたと思う。

今回の学習のねらいは、異文化を知り、考えることであった。ラオスのことを知るためには参加型学習がよいと考え、ラオス旅行という形で学習を進めた。印象としては、参加型は意欲・関心が高まるともよい手法であると感じた。夏の教職員研修においても参加型形式でラオス研修の報告を行ったが、高評価であった。このことから、学年問わず参加型学習は意欲・関心を高める上で効果的な手法であると思う。

単元は自分たちがラオス研修で実際に経験したこと、感じたことをもとに構想した。異文化と聞くと、どうしても「違い」に目がいってしまう。違いに目を向けることで新たな発見ができるという良さがあるが、同時に自分たちの文化より劣っている、理解できないなどの負の面も少なからず浮かんでくると思う。しかし、異文化の中にも共通する部分があることを、私自身がラオス研修の中で学んだ。共通点に目を向けることで親しみが生まれ、「もっと知りたい」、「仲良くなりたい」という友好の気持ちが育まれる。2、3時間目は、そのことをねらって授業を行ったが、ふり返り日記に「インタビューをして、たから物は何ですか？というしつ問に、家族と答えてました。わたしも家族だから、あの女の子とは意見が合うなんて、おどろきました。」と書いている児童がいた。また、事前・事後アンケートから、学習を通して異文化への興味・関心が高まったことが窺える。これらのことから、異文化への親しみが児童の中で増したと感じた。

もう一つ、ラオス研修中に深く考え、扱いたいと思った題材が「プレゼント問題」である。先に述べたとおり、実際にホームステイする時におみやげを持って行った経験が元になっている。この学習の一番のねらいは「ラオスの人と自分たちの思いを理解し合う」ことである。それに加え、物質的支援よりも技術的支援が大事であることにも気づかせたかった。大量に物を支援するのは、本当の支援にならないことをラオス研修の中で痛感し、児童にも伝えたかったからである。理解し合うことについては、よく考えていたと思う。また、支援方法については、児童Aの意見から意識が広がった印象を受けたが、たくさん物をあげることに議論が及ぶまでには深まっていかなかった。日頃の経験や考える上での基盤となる情報が不足していたことが原因と思う。

本学級は、日頃の経験の中で海外とのつながりがほとんどない児童が多い。その中で、本単元のような学習をすることは、非常に意味があると思う。具体的、実地的な経験を教材にすることで、児童の興味・関心が高まり、視野が広がると思う。また、異文化と出会う学習には、他の教科からは得られない知る喜び、考える悩み、楽しさがあると感じた。本学習の課題になった「技術的支援の大事さを理解すること」は、今回のような学習を定期的に積み重ねたり、身近なことに置き換えて実際に経験したりすることで、課題に近づいていけると思う。ラオス研修で得た題材はまだあるので、今後も教材化し実践を重ねていきたい。そして、未来を担う地球市民を育てていきたい。

参考資料

【映像資料】

- ・『地球ドラマチック「ラオス 村に電気がやってきた」』(2015)/NHK

【インターネット】

- ・「イタリア料理」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%82%BF%E3%83%AA%E3%82%A2%E6%96%99%E7%90%86>
- ・「中国料理」 http://majin.myhome.cx/pot-au-feu/dataroom/dish/china/Chinese_Cuisine/Chinese_Cuisine.html

世界の国々に目を向けて ～ちがうことって面白い～

学校所在県：広島県
 学校名：廿日市市立大野東小学校
 名前：山田 英恵
 担当教科：全教科

実践教科：道徳・国語・社会・音楽・
 学校行事
 対象学年：第5学年
 対象人数：34名（140名）

■実践の目的

- ・ラオスの文化を通して、自分たちが世界の人々と共存していることを理解し、国際親善に努めようとする心情を育てる
- ・ラオスについて学ぶことをきっかけに外国への興味関心を高めさせ、多面的な見方や考え方ができるようにさせる
- ・世界の国々の生活習慣や文化を調べることで、日本との共通点や相違点を知り、日本の文化や伝統のよさに改めて気づかせる

■授業の構成

時限・対象学年	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 第5学年全体	ラオスについて学ぼう ・ラオスの風景や文化、食事、生活習慣などについて学び、外国への興味関心を高める	1 ラオスの風景や文化、食事、生活習慣について写真や実物、クイズを通して学ぶ 2 ラオスと日本の同じと違いを見つけ付箋にメモする	・写真・ムービー ・シン・ダオフルーツ ・ワークシート
2 時限目 第5学年全体	「同じ空の下で」（道徳） ・外国の人々や文化の中に、自分と共有される多くの感性や思いがあることに改めて気づき、それを大切にしながら国際親善に努めようする心情を育てる [内容項目 4ー（8）国際理解と親善]	1 前時の振り返りをする 2 付箋に書いたメモをもとに同じと違いを交流する 3 各グループで交流したことを発表する 4 ラオスの子どもたちが答えたアンケートと自分たちが答えたアンケートを比較する 5 外国の言葉や文化に触れたとき、どんなことを考えたり、思ったりしたか、またこれからどんな関わり方をしたいか考える 6 世界とのかかわりに関する教師の話を聞く 7 学習の振り返りをする	・日本の子どもが事前に行ったアンケート ・ラオスの子どもが行ったアンケート ・ラオスの子どもたちの写真 ・ワークシート
3～13 時限目 学級	「和の文化を受けつぐ」（国語科） ・日本と世界の文化・伝統のよさを考える	1 学習課題をつかみ、学習の見通しを立てる 2 教材文を読み、内容をとらえるとともに、説明の仕方や資料の用いられ方を読み取り整理する 3 調べる題材と調べる観点を決め、本や資料から必要な情報を集める 4 集めた情報を整理し、説明する内容と構成を考える 5 「和の文化・世界の文化の説明会」を開き、意見を交流する 6 学習の振り返りをする	・日本の文化伝統に関する本 ・世界の国々の文化伝統に関する本 ・ワークシート

14時限目 第5学年全体	「学習発表会」（学校行事） 世界の国々について、歌や写真で発表する ・外国語で学んだ世界のあいさつや 国語科で学習したことを生かして 世界の国々についての発表をする	1 世界のあいさつを国旗を見せながら発表する 2 世界の国々の楽器を取り入れ、演奏する 3 世界の国々に関する歌を歌う	・世界の国旗 ・世界の楽器
-----------------	--	---	------------------

1時限目：ラオスについて学ぼう

ねらい…ラオスの風景や文化、食事、生活習慣などについて学び、外国への興味関心を高める。日本とラオスの「同じ」と「違い」を見つける。

<本時の流れ>

ラオスについてパワーポイントを見ながら学び、日本とラオスの同じと違いを付箋にメモする。

<児童の反応>

- ・スーパーではなく市場で買い物をするここが分かった。
- ・市場では、聞いたことのない果物やカエルを売っていることに驚いた。
- ・日本と同じように田植えをし、お米を食べることを知った。
- ・不発弾があり、驚いた。
- ・日本の文化がラオスにも伝わっていることが知った。
- ・自分たちと同じように子ども達も夢があると分かった。

<所感>

日本とラオスの違いばかりに目がいかないように、同じを見つけ易いようにパワーポイントの内容を工夫した。また、外国は楽しそう・面白そうと児童に感じてもらうことが今回のねらいだったので、不発弾については、あまり多くを語らないようにし、ラオスは危険な国・怖い国という印象にならないように写真の見せ方を工夫した。

私が紹介したことがラオスの全てではないので、国語科の調べ学習を通して、学びを深めさせたい。

この授業に 注目

2時限目：国際理解と親善（道徳）

1. 実施日：2015年10月19日（月）
2. 対象：第5学年
3. 主題名：「同じ地球に生きている」（内容項目4－（8）国際理解と親善）
4. ねらい：外国の人々や異文化の中に、自分と共有される多くの感性や思いがあることに改めて気づき、それを大切にしながら国際親善に努めようとする心情を育てる。
5. 資料名：「同じ空の下で」（出典：東京書籍）

<本時の流れ>

学習活動と内容	主な発問（○と◎）と予想される児童の反応（・）	指導上の留意点（☆）と評価（★）
1. ラオスについて学んだことを振り返る	○ラオスについてたくさん学びましたね。例えば、食べ物、服装、文化。	☆学習したことを写真と提示しながら思い出させる
2. グループで交流する	○前回ラオスと日本の同じと違いを見つけて、青と赤の付箋に書いてもらいましたね。今日はその付箋を貼りながら自分の考えを交流しましょう。 <違うところ> ・ 托鉢という文化がある。 ・ お墓の見た目が全く違う。 ・ 市場で大きな魚や野菜、果物などを売っている。 ・ 不発弾がある。 <同じところ> ・ 野菜を食べる。 ・ 同じお菓子がある。 ・ お米を食べる。 ・ 夢をもっている。	☆付箋を使い、考えを交流させる
3. 全体で交流する	○グループで出た意見を交流しましょう。 ・ ぼくたちのグループでは、違うところの意見がたくさん出ました。たくさん出た意見は、市場で買い物をすることや、お墓が形も色も違うということでした。 ・ 私たちのグループでは、同じところについて発表します。日本と同じようなお菓子が売っていたことや、田植えをするという意見が出ました。	☆いくつかのグループに発表をさせる
4. ラオスと日本の子ども達のアンケート結果を知る	○以前みなさんが答えたアンケートと同じ物をラオスの子どもたちにも答えてもらいました。みなさんが答えたアンケートとラオスの子どもたちが答えたアンケートを比べてみても同じところ・違うところがありますね。	☆日本の子どもとラオスの子どものアンケートを比較させる
5. 文化に触れたとき、どんなことを考えたり、思ったりしたか、またこれからどんな関わり方をしたいか考える	◎外国のことについて学ぶ前と後では、心の中でどんなことが変わりましたか。また、これからどんな関わり方をしたいですか。 ・ 外国だけれど、日本と同じことがたくさんあってびっくりしました。 ・ 外国と日本では、違うところがたくさんあるけど、外国に行ってみたいです。 ・ 外国の人がどんな物を食べるか知りたいです。 ・ カエルを食べてみたいです。 ・ 他の国の子と友達になりたいです。	★外国への興味関心を持ち、国際親善に努めようとする心情を高めることができたか
6. 世界とのかかわりに関する教師の話を聞く		

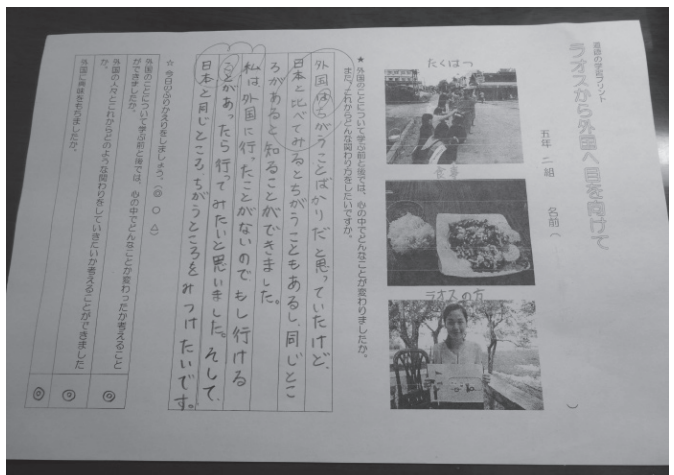
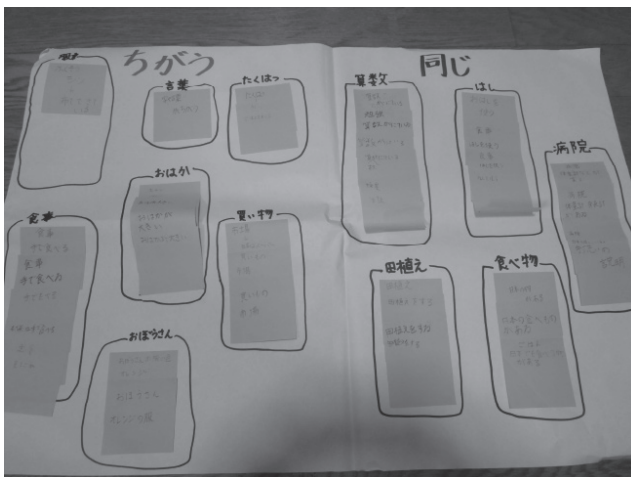
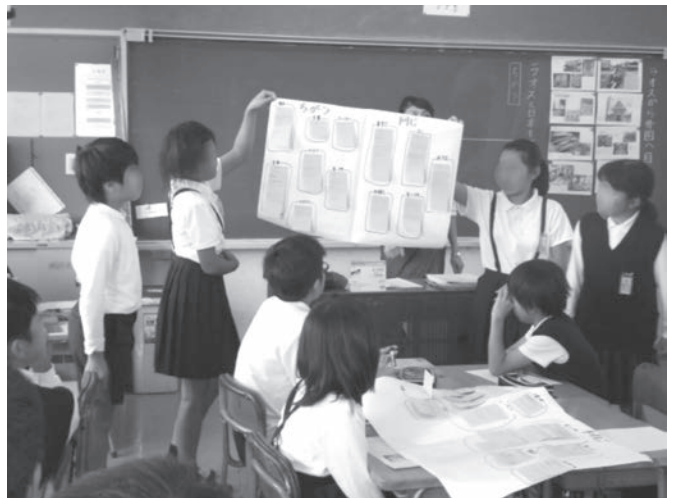
<児童の反応>

- ・違うところばかりだと思っていたけれど、意外と日本に似ているところがあると思った。これから外国の人とふれ合って、仲良くしていきたいと思った。
- ・ラオスという国に行ってみたい。いろいろな食べ物を食べてみたい。
- ・他の国の文化や伝統について調べてみたい。
- ・昔、爆弾を落とされたことや今は平和なところが同じだと思った。
- ・日本にはない文化もあるから、他の国と関わることは少し難しいと思った。
- ・学ぶ前は、いろいろな問題を抱えていて、あまり良い印象ではなかったけれど、学んでみて、私たちと同じところも多いと感じ、もっと他の国の文化にふれてみたいと思った。

<所感>

事前アンケートの「ラオスのイメージを教えてください」という問いには「貧しい、食べ物が無い、戦争をしている」などのマイナスなイメージが多かった。しかし、学習を終えて児童の外国へのイメージがプラスに変わり、もっと知りたいという興味関心を高めさせられたのは、大きな成果だと感じた。外国の悲しい背景や現実を知ること大切なので、段階に応じて学ばせ、考えさせることは必要であると思った。

教師の説話では、ラオスのことを知り、外国に目を向けることだけではなく、多面的な見方や考え方があるという視点を持ち、友達の違いを受け入れ、よりよい人間関係を作ってほしいというメッセージを伝えた。



3～13時限目：「和の文化を受けつぐ」（国語）

ねらい…日本と外国の文化・伝統について調べ学習を行い、発表し、互いのよさを考える。

<学習の流れ>

- ① 学習課題をつかみ、学習の見通しを立てる。
- ② 教材文を読み、内容をとらえるとともに、説明の仕方や資料の用いられ方を読み取り整理する。
- ③～⑦調べる題材と調べる観点を決め、本や資料から必要な情報を集める。
- ⑧～⑩集めた情報を整理し新聞にまとめる。説明する内容と構成を考える。
- ⑪～⑫「和の文化・外国の文化・伝統の説明会」を開き、意見を交流する。
- ⑬学習の振り返りをする。

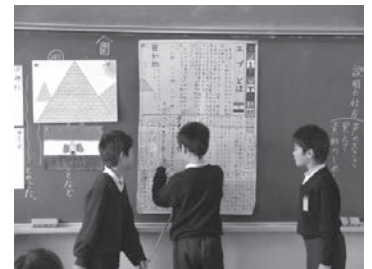
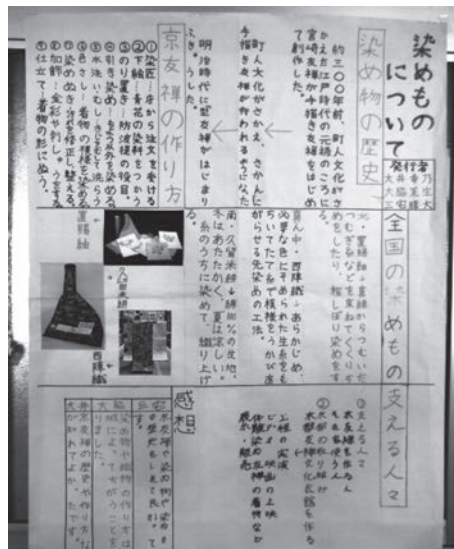
<児童の反応>

- ・外国には、日本にはない文化があることを知って、おもしろいなと思った。
- ・他の国のことについても調べてみたいと思った。
- ・外国のお正月料理を食べてみたい。

<所感>

本単元では、ラオスだけでなく他の国について知ってもらいたいことや、日本の文化や伝統の良さに改めて気づいてほしいという願いから、外国の文化も調べる授業展開にした。日本の文化・伝統について調べるグループは「うちわ、和紙、着物、茶道、昔遊び、神社、ひなまつり」の項目であった。外国の文化・伝統について調べるグループは「お正月に食べる料理や伝統料理、建物」の項目であった。まとめたことを発表する場を設けることで、日本と外国の文化・伝統の交流ができ、ねらいにせまることができた。

課題としては、調べる項目が日本と外国で対になっていないため比べにくいことや、聞く側が感じたことを発表することができたが、疑問に思ったことを発表しても、説明した側が調べきれていないことが多く、深めることができなかったことである。



14時限目：学習発表会（学校行事）

ねらい…道徳、外国語、社会科、国語科で学習した外国のことについて、呼びかけやチャンツ、歌を用いて児童や保護者、地域の方に伝える。

<本時の流れ>

さまざまな教科で学習した外国の挨拶、数の数え方、じゃんけんの仕方などを紹介し、自己紹介や好きな食べ物を尋ねる英語のチャンツを行う。また、歌も歌う。

<児童の反応>

- ・外国のことをたくさんの人に紹介できてよかった。
- ・英語を使って、いろんな人と話しをしてみたい。
- ・「ちがう」ということは、たいしたことではないんだなと思った。

<所感>

今回の学習発表会は、5年生だけでなく、他学年、保護者、地域の方にも外国に少しでも興味をもってほしいという願いを込めてこの内容設定にした。学習してきたことを活かし、呼びかけやチャンツ、歌を用いて外国について紹介することができたのでよかった。



全体を通しての成果と課題

<成果>

ラオスと日本の相違点だけでなく、共通点を見つけさせることで親近感をもたせ、途上国に対するマイナスのイメージをプラスに変えていくことができた。また、外国について調べ、発表を聞くことで、ラオス以外の国々に目を向けさせ、興味をもたせたり、日本の文化の良さに改めて気付かせたりすることができた。

子ども達は、人と違うことを恐れ、嫌う傾向にある。しかし、日本とは違う文化や習慣について学ぶ学習を通して、違うことの面白さや多面的な見方や考え方が大切であるという新たな価値を意識させることができた。

<課題>

ラオスについて学ぶ授業では、主観が入ったり、一部分の情報しか伝えていなかったりした。子どもの発達段階に応じて、国の歴史や悲しい事実も伝えていく必要がある。

今後取り組みたいことは、さまざまな国の人々の立場になって考えることのできる授業を設けたい。そして、外国に目を向ける段階から自ら進んで国際理解に協力したいと思う子どもたちを育てていきたい。

参考資料

【書籍】

- ・文化のちがい 習慣のちがい/須藤健一

【教材】

- ・Hi, friends!1 CD /東京書籍
- ・ビューティフル・ネーム CD

【インターネット】

- ・アジアのじゃんけんの仕方 <http://old.asean.or.jp/kids/play/index.html> (アセアンキッズセンター)

授業実践

高等学校編

ラオスを通じて考える「援助」と「発展」

学校所在県：岡山県
 学校名：岡山市立岡山後楽館高等学校
 名前：鈴木 祐子
 担当教科：地歴・公民

実践教科：総合「地球の未来」
 対象学年：高校1～3年生
 対象人数：50名

■実践の目的

- ・ラオスを知ること、発展途上国に対して抱く「貧困」「汚い」「遅れている」といった狭いイメージから抜けだし、文化の多様性や豊かさに気づく。
- ・開発課題についての援助方法や優先順位を考える中で「本当に必要な援助とは何か」を考える。
- ・「開発＝明るい未来」というだけでなく、開発が様々な変化をも引き起こすことに気づく。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～2時限目	ラオスを知る ・発展途上国に対する固定化されたイメージから抜け出す ・文化の多様性や豊かさに気づく	(1) ラオスが東南アジアの国であることを確認する (2)ブレインストーミング：「東南アジアといえば？」 (3) フォトランゲージ ・ラオスの写真を見て、気づいたこと、疑問に思ったことを話し合う (4) 写真とクイズを通じてラオスを知る	・パワーポイント ・ラオスで撮影した写真グループ 毎に異なる写真を用意 ・パワーポイント 写真とラオス・クイズ
3～4時限目	ラオスを知る ・発展途上国に対する固定化されたイメージから抜け出す ・文化の多様性や豊かさに気づく	(1) 前時の振り返り (2) ラオスで出会った人の言葉から「ラオスの良いところ」「ラオスの課題」を見つける (3) もし自分達が国際援助団体だったら、どんな援助ができるかを考える (4) 援助方法の優先順位を考え、グループ毎に発表し、全体で共有	・パワーポイント ・「ラオスで出会った人の言葉」カード ・パワーポイント (日本とラオスの比較)
5～6時限目	ラオスを知る ・発展途上国に対する固定化されたイメージから抜け出す ・文化の多様性や豊かさに気づく	(1)ブレインストーミング：電気がある生活 (2) DVD視聴「村に電気がやってきた」 (3) 「発電施設が出来る前後で村がどのように変化したか」をグループ毎にまとめる (4) さらに「10年後、村はどうなっているか」を考え、(3)と合わせてグループ毎に発表する (5) 共有とまとめ（振り返りシートの記入）	・DVD「村に電気がやってきた」

1～2時限目：「ラオスを知る」

ねらい…発展途上国に対して抱く「貧困」「汚い」「遅れている」といった狭いイメージから抜けだし、文化の多様性や豊かさに気づく。

それぞれの国・地域が持つ独自性や多様性に目を向けなければ、ステレオタイプに陥り、「貧しくてかわいそう」（かわいそうだから援助してあげる）とか、「（平和で便利な）日本に生まれて良かった」といった上段に構えた見方に陥ってしまう危険がある。そうした一方的な物事の捉え方は自分の価値観で相手を量ろうとし、自分たちの文化や価値観を押し付ける結果になりかねない。そのため、まずは私自身が体験した「素敵なラオス」を伝えるところから始め、生徒がラオスの豊かさに触れてポジティブなイメージを持てるように考えた。

<活動の流れ>

(1) ラオスが東南アジアの国であることを確認する

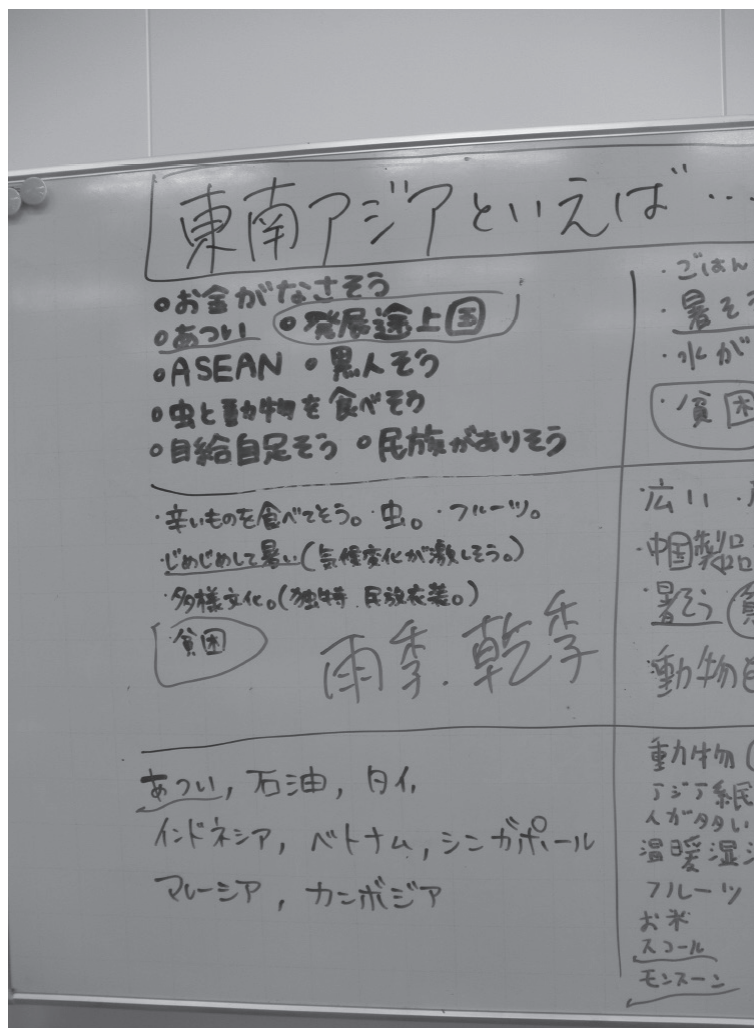
最近では地図を苦手とする生徒も多く、各国の位置はもとより東南アジアでさえどこにあるのか分からない生徒もいる。ラオスは遥かな未知の国である。ラオスがどの地域にあるかを4択で問うた後、地図で確認。

(2) ブレインストーミング「東南アジアといえば？」

グループ毎にイメージや知っている情報を出し合う。それをホワイトボードに書き出し、全体で共有した。

予想していたとおり、多くのグループから「発展途上国」「貧困」という言葉が出てきた。また、「暑い気候」「いろいろな民族がいる」ことを指摘したグループもあった。「ASEAN」「モンスーン」といった社会科の既習事項や「虫を食べる」「車よりバイク」といった言葉も出てきた。一方で東南アジアへの関心が低いと思われるグループは「知らない」「何も思いつかない!」と苦戦しており、「知ってる国の名前は? 修学旅行で行く国は東南アジアだよ」とヒントを出したりした。「黒人」と書いたグループが2つあった。

ボードに書かれた事項を確認した後、岡山と比較した気候の特徴や、面積、人口、識字率、1人当たりGDP等を示した。



全体が見えるように書き出して

(3) フォトランゲージ

ラオスで撮影された写真を見て気づいたこと、疑問に思ったことを話し合う。
写真はグループ毎に異なるものを用意した。

〈使用した写真の例〉



市場の様子
パック売りではない鶏や魚
店主の手には携帯電話



朝の寺院前
少年僧が掃除中
境内に立派なお墓が見える



ノンブン村の子ども
身近なものを遊び道具に
パラボラアンテナが見える

(4) 写真とクイズを通じてラオスを知る

ラオスで撮影した写真をもとに作成したスライドを使い、説明を加えていった。フォトランゲージで使用した写真は、担当グループが発見したことを発表し、その後補足説明を行った。写真を見ること・発表を聞くことが中心となってしまうので、クイズも交えて、生徒の活動が単調にならないようにした。

〈使用したスライド（抜粋）〉

写真だけでは分からない生活習慣やラオスの衣食住、実際に訪問してみて驚いたことなどを盛り込んだ。

市場でビックリ！
私が驚いた食材とは・・・？

A. カエル
B. 水牛の皮
C. コオロギ
D. 「味の素」

ラオスのウソ？ホント？

大きな声で自己主張。
街ではクラクションが
鳴り響く。

ウソ とても穏やかな国民性
滅多に怒りません。



パクセーの
空港にて



ラオスのウソ？ホント？

ラオスには
硬貨がない。

本当！

＜生徒の反応…レポートの記述より＞

- ・ 東南アジアの最初のイメージは暑そう、肌が黒そう、まずしそうでしたが、豊かで人があたたかいと思いました。衛生は日本の方がいいと思いますが、くらしの様子は変わらないと思いました。
- ・ ケータイとかテレビとか電気機械のものが一切ないかと思ったけど、そんなことはなくて、貧困で子どもたちが学校に行けなくて働いていたり、食べるのに必死なのかなと思っていたけど、イメージと違ってびっくりしました。
- ・ ラオスに対するイメージと、ラオスの現実とはあまり変わりませんでした。あまりキレイな町でもなかったし、ラオスの中にも格差がありそうな感じが写真でも伝わってきました。
- ・ あまりいいイメージを持っていなかったけど、私もラオスに行ってみたいと思えるようになりました。

<所感>

レポートの記述は「ラオスについて学ぶ前後でイメージが変わったか？」という問いに対するものである。「あまり変化はなかった」とする生徒もいたが、そもそも東南アジアやラオスに対する関心が薄かったのでイメージも希薄で「変化」といっても特に思いつかなかったようだ。しかし、総じて外国文化に対する興味・関心は高く、意欲的に活動できていたように感じる。ラオスに対して、ポジティブなイメージを持ってくれたのではないだろうか。一方、写真から国内での格差について読み取っていた生徒もいた。グループ活動の醍醐味は、このような気づきや互いの価値観に触れられることだ。その点では、時間管理がうまくできず、振り返りや共有の時間を十分確保できなかったことは大きな反省点である。

3～4時限目：「ラオスの課題は何だろう？」

ねらい…開発課題についての援助方法や優先順位を考える中で「本当に必要な援助とは何か」を考える。

<活動の流れ>

(1) 前時の振り返り

スライドを使って、前回の振り返りを行う。本時の流れを考え、ここで、前回時間不足で十分触れられなかった農村部の暮らしについても紹介した。民家や未舗装の道路、日本では見られなくなった蚊帳、調理風景などの写真を見せた。

(2) ラオスで出会った人の言葉から「ラオスの良いところ」「ラオスの課題」を見つける

ラオス訪問で得た情報を元に「ラオスで出会った人の言葉」カードを作成した。登場人物は「村長」「村の教員」「郡病院の看護師」「技術指導員」「観光客」の5人。カードには教育、言語、医療、交通、ゴミ問題、生活インフラ、農村の日常生活に関する情報を散りばめた。

〈使用したカードの例〉

郡病院の看護師

「病院から離れている農村部を巡回するのですが、雨季には不通になる道もあります。町から離れた集落には舟でないと行けない場所もあり、移動するのはとても大変です。お母さん達にはお寺や学校に集まってもらい、そこで栄養指導や妊産婦指導を行っています。妊産婦の死亡で多いのは、お産の時に出血が止まらなくて亡くなるケースですね。赤ちゃんが感染症にかかる心配もあるので、ケアするためにも病院での出産が望ましいのですが。昨夜産まれた赤ちゃんが今朝亡くなりました。郡病院にはレントゲン也没有。交通事故や大きな手術が必要な場合は、都市の病院でないと手に負えませんが、搬送にはお金がかかるので難しいことも多いです。ラオスでは5歳以下の子どもの医療費は無料ですから、予防接種も無料で受けられますが、なぜ必要なのかがなかなか分かってもらえず、受けに来ない人もいます。」

観光客

「自然が豊かで、ホームステイが人気と聞いてきました。村では時間がゆったり流れているようで、とても居心地がいいです。村ではたくさん子ども達を見かけました。テレビゲームなどはありませんが、子ども達は身の回りにある物で工夫して遊んでいました。私が釣りに行きたがると、竹ざおと糸を使って即席の釣りざおを作ってくれました。母親以外にも、おばあちゃんや近所の人が子どもの面倒を見ている姿もよく見かけましたね。私の泊まっている家にも、近所の子どもがやってきて、夜テレビを観たりしていました。その家には電気はきていましたが、水道はなくて、お母さんが大きなポリバケツに水を溜めて使っていました。お母さんが料理するのを見せてもらったのですが、鶏をさばくんですけど、ほとんど捨てる部分が多くて驚きました。気になったのは、村の道にゴミがたくさん落ちていたことです。せっかく自然が豊かなのに…。そういえば、ステイした家のお父さんが、ビニールのゴミをかまどで燃やしていて、体に悪そうな黒い煙が上がっていました。ゴミは各家庭で燃やすか、その辺に捨ててしまうみたいです。」

カードの内容からラオスの「良いところ」「課題」を考え、グループ毎に模造紙に書き出してプレゼンを行った。

<生徒が読み取ったラオスの「良いところ」「課題」>

◆ラオスの良いところ

自然が豊か 気候に恵まれている
食料自給率が高い
栄養・妊産婦指導がある
乳幼児の医療費が無料
義務教育がある（5年生まで）
近所の人が子どもの面倒をみってくれる
→ 村での繋がりがあ
身の回りの物で工夫して遊ぶ
観光客に人気（滝めぐり、ホームステイ）
食材を無駄にしない
子どもが多い

◆ラオスの課題

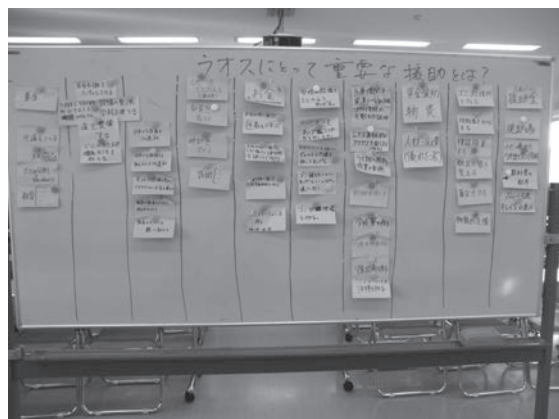
舟でしか行けないところがある → 移動が大変
医療設備の充実（郡病院にレントゲンがない）
医療知識が普及していない 感染症の問題
水道がない
ゴミがたくさん落ちており、間違った方法で処理
未舗装の道路 → 雨季には不通になる
ラオ語ができない人がいる
途中で学校を辞めたり留年する子どもがいる
義務教育が短い（5年生まで）、教員が少ない
学校に時計がない
村が貧困

プレゼン後、課題に係わる情報として、「1日1.25ドル以下で生活する人の割合」「妊産婦死亡率」「5歳未満死亡率」「就学率」「小学校卒業まで残る児童の割合」を示した。

(3) もし自分達が国際援助団体だったら、どんな援助ができるかを考える

(4) 援助方法の優先順位を考え、グループ毎に発表し、全体で共有

(2) で考えた課題に対して、どのような支援が考えられるかを、「国際援助団体＝村にやってくる外部の人間だったら」という立場で考え、付箋に書き出していった。次に、書き出した援助方法の何を優先させるべきかを考え、グループ毎にホワイトボードに貼り出していった。そして幾つかのグループに、なぜその順番にしたのか理由を発表してもらった。医療に関する事項が比較的上位に多かったが、「命に関わることだから、まずはそこから」と考えたグループが多かったようだ。今後起こってくる問題としてゴミ処理問題に着目したグループもあり、「3Rの普及」など単なる物やお金の援助ではないユニークな案も出た。



重要度の高い順にランキング

(5) まとめ

生徒たちから出た意見をまとめた後、「ところで、私たちが必要ではないかと考えた援助は、本当に必要とされている援助なんだろうか？」と投げかけた。ラオスのそれほど貧しいとは思えない村で同行者が村の教員に「時計が欲しい」とねだられたこと、その話を聞いて私自身が感じた疑問をそのまま話した。一見豊かに見えるラオスの人が本当に求めている支援とは何なのか。求められるモノを与えることが、本当に発展に繋がるのか。村が豊かになったとは、村がどのような状態になったことを指すのか。TTで一緒に講座を担当している教員が、研修で途上国を訪れた経験から「価値観の相違」について語ってくれた。

<生徒の反応>

ラオスの「良いところ」と「課題」を見つけ出す作業では、最初は施設・設備や制度に注目する生徒が多かった。また、文中の言葉をそのまま抜き出す場合がほとんどだった。しかし、「暮らしぶりなど、日本と比べてどうかな？」とヒントを出すと、「村の繋がり（住人同士の繋がりが強い）」等、言葉の背景にあるものを探り、自分達の言葉に置き換えて表現するグループも出てきた。

<生徒の記述より>

- ・日本人が思う援助とラオスの人がしてほしい援助は違うことがあって、価値観の違いってむずかしいなと思いました。
- ・私たちの考える援助ではなく現地の人が思う援助をしていくことが発展につながるのだろうと感じました。
- ・村が発展っていうのは、すべての子ども達が学校に通える状態のことをいうのではないかなと思います。すべては学校からではないのかなと思います。

<所感>

情報量が多すぎて、作業に随分時間がかかってしまった。しかし、授業のねらいであった「本当に必要な援助とは何かを考える」ことについては、これだけの限られた情報（背景を十分には知らない状態）では難しかったと思う。ただ、グループ毎にかなりバラエティに富んだランキングとなったので、そのことから、人によって価値観は異なり優先順位を決めるのは難しいと感じた生徒もいたようだ。「自分の側の一方的な価値観では推し量れないものがある」ことに気づけたのなら、それは「本当に必要な援助」を考える第一歩になるのではないかなと思う。

5～6時限目：「村に電気がやってきた・・・その後を考える」

ねらい…「開発＝明るい未来」というだけでなく、開発が様々な変化をも引き起こすことに気づく。

<活動の流れ>

(1) ブレインストーミング：電気がある生活

まず、電気がない状態の不便さを知るために、電気があるおかげで私たちがどのような生活が可能になっているかを考え、出し合った。グループ毎にA3大の紙にまとめ、貼り出す。

(2) DVD視聴「村に電気がやってきた」

電気が引かれた結果、短期間で変貌していくラオス北部の村の様子を描いたドキュメンタリー映像を視聴する。

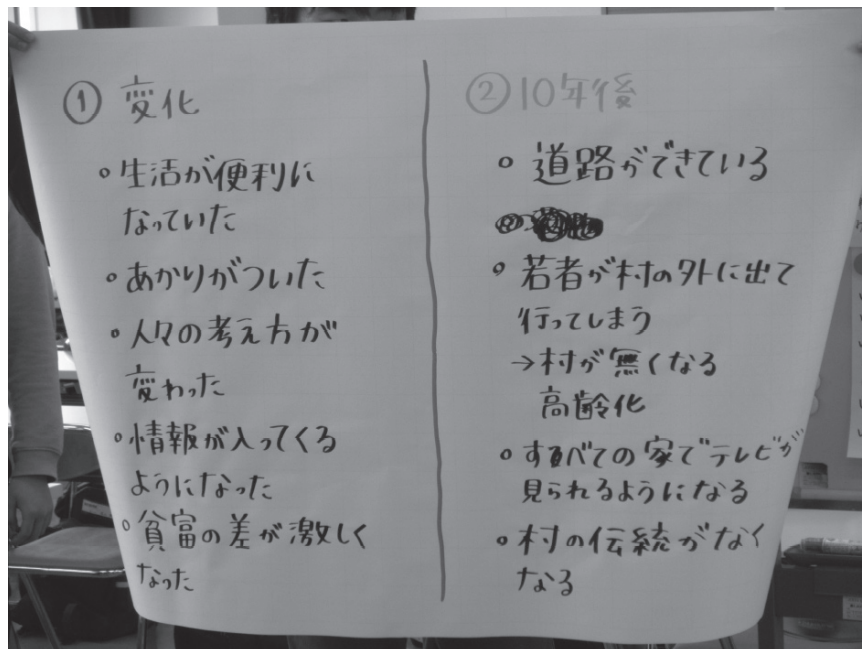
(3) 「発電施設が出来る前後で村がどのように変化したか」をグループ毎にまとめる

(4) さらに「10年後、村はどうなっているか」を考え、(3)と合わせてグループ毎に発表する

(5) 共有とまとめ（振り返りシートの記入）

<生徒の反応>

電気がない生活を想像してみたものの、生まれた時から電気があって当たり前の生活をしてきた生徒達にはいまいちピンと来ていなかったようだ。資料映像によって、その想像以上の不便さを目の当たりにし、みな驚いていた。



グループ毎にプレゼン

<振り返りシートより>

- ・村に電気がきて、環境や生活スタイルが変わり、電気のありがたさを感じることができました。ですが、それによって、貧富の差が生まれたり、若者の考えや価値観が変わってしまったことによって、村の伝統や自然がなくなってしまう問題が、今後出てくるんだと、今回の授業で考えさせられました。良い方向に変化したこともあれば、思いがけない問題も生まれてきたことがわかりました。
- ・（電気が）ないとあるで、どっちの方が良いのかというと決められないし、メリットとデメリットはいくら改善してもついてくるんだろうなとも思いました。結論は本当はないのでしょうか。いくらたっても消えない最大の難問ではと思いました。
- ・ラオスではそもそも電気が通ってない所があることにビックリした。街と貧しい村ではこんなに差があると思わなかった。懐中電灯で生活するのは、なかなかキツイ……。だから村に電気が通ってよかったと思う。でも、そのかわり、村の人だけでなく環境自体も変化している。便利になったのはいいけどそれだけが全てではないなと思った。自分達もスマホが普及してきて便利になったけど、なにもかも頼りすぎて、スマホに依存してしまっている。

<所感>

生徒が食い入るように画面を見ているのを見て、映像の持つ力を改めて感じた。映像には新しい情報に接することで価値観の差が生じる様子なども描かれていて、開発や「外からもたらされるモノ・情報」が良いことばかりでなく様々な影響を引き起こすことを生徒は知った。

生徒の活動ではさまざまな意見が出たが、電気が導入されることで「村が発展する」と考えたグループもあれば、「若者が出て行って高齢化・過疎化する」と考えたグループもあり面白かった。

最後に「これってこの村だけの問題かな？」と投げかけた。新しい何ものかによる変化が生じるのはラオスに限ったことではなく、観光地化や都市化（その反対にある地方の過疎化）によってもたらされる変化など、日本にも当てはまる。それらを自分の身近でも起こり得ることとして考えてほしかったが、限られた時間の中で考えさせるためには、ワークシートを工夫する等もっと方法を考える必要があった。

全体を通しての成果と課題

◎写真や実物教材（民族衣装など）に対する生徒の関心は高い。今後も積極的に活用していきたい。何よりも自分の目で見、聞いて、体験したことには説得力があるように思う。授業者がどのような意図でそれらを提示するかも重要だと感じた。その意味で、私が感じた「楽しさ」や「戸惑い」がそのまま授業に反映されていて、生徒の受け止め方にも影響していたのではないと思う。

◎3・4時間目の授業で興味深かったのが、教育に関する課題の受け止め方である。「5年間の義務教育」をラオスの課題として挙げたグループもあれば、良いところとして挙げたグループも出てきたからだ。この講座では途上国の教育をめぐる課題や識字率について既に学んでいた。また水問題について取り上げた時に、水汲みや薪拾いなどで十分な学校教育を受けられない子ども達がいることも学んでいた。義務教育期間の短さや留年率の高さは課題といえるが、義務教育が整備されている点については評価できると考えたのだ。妊産婦指導が行われていることも、良いところとして取り上げられていた。生徒たちは既習事項を元に情報に対して自分なりの価値判断を行ったといえる。学んだことを元に考えられている様子が嬉しかった。

◎「ラオスの課題は何か」を考える授業をつくる時に、生徒が「良いところ」と「課題」を整理したあと、当初はこちらから支援（援助）方法を幾つか提示しようと考えていた。しかし、そこではたと「この支援が必要」と私が決めてしまっていないだろうか？という不安にかられた。予め選択肢を示すことで、それ以外の可能性を思考の外へ追いやってしまわないか。何よりも私が提示することそのものが自分の価値観を当てはめて「かわいそうだから何とかしてあげたい」と援助することと変わらないのではないか。授業を組み立てる上でどうすべきかは、未だによく分からないでいる。このことについては、じっくり考えてみたいと思っている。こうした疑問は、誰かと話している時により鮮明になる（私の場合）。ラオスでの日々を共にした仲間や、授業づくりに惜しめないアドバイスを与えてくれる身近な先輩の存在に、とても感謝している。

◎授業を充実させるために、以下のことに取り組む必要を感じている。

- ①時間配分、作業の効率化。今回の実践では、作業や考えることに時間を使いすぎて、振り返りの時間の確保が十分でなかった。
- ②話したいことを精選する。
- ③どの情報を与えるべきか、もっと丁寧に検討する必要がある。
- ④生徒自身が気づく仕掛けを考える。「気づく」ことよりも、教員の言葉で「知る」部分がまだ大きいように感じる。

◎また、今回私は幸運にも学校設定科目として「地球の未来」というESD講座を担当しており、しかも2時間連続授業という恵まれた環境の中で実践できた。しかし、そのような学校ばかりではなく、公立校教員の宿命であるが、いずれ転勤することにもなる。そうした時に、自分が受け持つ地歴公民科の授業の中で、しかも通常45～50分間という授業時間の中で実施できるプログラムを考えていく必要がある。今回学んだ様々な手法や、ラオスでの経験を今後も活かしていきたいように、精進していきたい。

参考資料

【書籍】

- ・愛知国際交流協会編（2009）「世界の国を知る 世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来 ラオス人民民主共和国」愛知県
- ・「参加型で学ぶ 国際理解教育授業実践報告書 平成26年度ベトナム教師海外研修」JICA中国
- ・菊池陽子他（2010）「ラオスを知るための60章」明石書店
- ・「国際教育実践ハンドブック」開発教育教会

【教材】

- ・「水から広がる学び」（2014）／開発教育教会

【映像資料】

- ・地球ドラマチック「ラオス 村に電気がやってきた」（2013）／NHK

【インターネット】

- ・UNICEF「世界子供白書2015」要約版 www.unicef.or.jp/library/sowc/2015/pdf/15_02.pdf
- ・ラオス基本情報（外務省HPより） <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/>

地球市民になろう ～ラオスと共に学び合う、協働の主役として～

学校所在県：岡山県
 学校名：清心中学校・清心女子高等学校
 名前：菅沼 祐子
 担当教科：世界史

実践教科：世界史
 対象学年：高校2年生
 対象人数：34名

■実践の目的

- ・教師海外研修で感じたラオスの今を伝えることを通して、貧困や豊かさの基準について指摘し、発展途上国が抱える複合的な課題や貧困の構造について考えさせる。また、持続可能な開発目標という世界共通のゴールを共有することによって、先進国も発展途上国も持続可能な社会を目指す主体者であるという認識を深めさせる。
- ・ベトナム戦争の被害が残り続けるラオスの歴史的背景を伝えることを通して、戦争のもたらす負の遺産についての考えを深め、平和を希求する姿勢を養う。日本も含め同じ不発弾問題を抱える多くの国家が協働することによってよりよい社会が築けることの可能性や、多様性をポジティブに捉える姿勢を身に付けさせる。
- ・ラオス現地で行われる国際協力・国際援助を伝えることを通して、先進国の一員である日本国民として、援助がもたらすものについての是非を考えさせる。また、グローバル化が進むこの世界全体を1つの共同体として捉える視野を養い、公正な公平や平等といった地球市民的意識を育む。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目	<p>我ら地球市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの子ども達と日本の子ども達の共通点・違いを知る ・現在のラオスを知る ・「発展途上国」の解決すべき課題とは何かを考え、持続可能な開発目標を知る 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ラオスの子ども達に行ったアンケートと同じ問いに回答する 2 ラオスの子ども達に行ったアンケート結果を確認し、共通点や違いを探す 3 高校生の女の子の写真を見て、彼女の夢とその夢の実現を阻害する原因を考える 4 先生からの研修報告を読んで、ラオスに関する情報を整理する 5 「発展途上」「後発国」という言葉のもつ意味を考える 6 先進国と発展途上国の間にある格差、日本国内で進行する貧困を踏まえ、貧困の基準や豊かさの基準を再考する 7 持続可能な開発目標の各項目を読んで、つながりを探し、その解決を皆が目指すことで世界全体に利益があることを認識する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 アンケート 2 アンケート統計 3 高校生の女の子が「将来の夢」の絵を持つ写真 4 先生からの研修報告プリント 5 パークグム郡病院・不発弾処理現場の写真（命に関わるラオスの貧困の事例） 7 持続可能な開発目標（SDGs）17項目 8 ワークシート

2時限目	<p>戦争の負の遺産と軍事ビジネス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム戦争の被害国、ラオスの歴史を学ぶ ・不発弾撤去の現状を知る ・他国の不発弾問題を学ぶ ・軍需産業の規模を知り、軍縮に向けて出来るアクションは何かを考える 	<ol style="list-style-type: none"> 1 不発弾加工品に付属したメッセージ（英語）の日本語訳をする 2 不発弾処理現場を訪ねたエピソードを聞き、戦争の負の遺産について考える 3 不発弾の被害を少なくするためにはどのような取り組みが必要か意見を出し合う 4 不発弾問題は世界の共通課題（カンボジア内戦、日本の沖縄戦）であることを確認する 5 世界全体の軍事費・ゲーム市場・教育費（世界全員の子ども達が1年間学校に通える費用）の規模を長さで比較出来るリボンを用いて、軍需産業は先進国の大きなビジネスであることを確認する 6 軍需産業に関する資料を見て、儲かる国と一向に戦争が終わらない国に分かれる現状を知り、各国間の差を縮小していくためにはどうすればいいか考える 	<ol style="list-style-type: none"> 1 不発弾加工品と付属のメッセージ 2 不発弾処理現場の写真・動画 3 UXO-LAOよりいただいた啓発ポスター 4 日本・JICAの支援で完成しつつある作業員宿舎などの施設、作業車両の写真 5 『世界一大きな授業2015』、リボン（世界の軍事費をリボンの長さに表す） 6 武器輸出に関する風刺画 7 映画『ロード・オブ・ウォー』 8 『もっと話そう！平和を築くためにできることーTalk for Peaceー』 9 宇多田ヒカル『誰かの願いが叶うころ』
3時限目	<p>支援国の国民→宇宙船地球号の一員として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごろくを行い、異文化を身近に体験する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 異文化を疑似体験することによって、先進国の一員であり日本人である自分達それぞれが持つ固定観念に気付く 2 他者と意見交換することによって多様な考えそれぞれに価値があること、社会は多様性によって構成されていることを再認識する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 すごろくセット 2 ノンブン村の子ども達の写真

この授業に 注目

2時限目：ラオスの不発弾問題を通して日本と世界との繋がりについて考える

単元名：戦争の負の遺産と軍事ビジネス（世界史）

単元目標（本時の学習目標）：

- ・ベトナム戦争の当時の背景を踏まえ、戦争が終結しても不発弾被害が残り続ける現状を知り、戦争を学び、平和を希求する姿勢を養う。
- ・軍事ビジネスの規模を知り、いち先進国の国民としてどのように平和を求めることが必要かを考え、アクションプランをたてる

<活動の流れ>

学習活動と内容	指導上の留意点と注意
<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 不発弾から出来たスプーン、グッズをもとに、加工品ビジネスの狙いについて考える ・ベトナム戦争の被害国、ラオスの歴史を学ぶ ・不発弾撤去の現状を知る ・不発弾はラオスの開発阻害要因であり、不発弾問題によって南北格差が起きていることを学ぶ ・発展途上国のラオスで、不発弾による事故を防ぐような仕組みは何か、考える ・他国の不発弾問題を学ぶ ・軍需産業という一大ビジネスを知る ・平和に向けて出来るアクションは何かを考え、ランキングする ・ランキングの発表 ・「誰かの願いが叶うころ」を聴く ・振り返りをワークシートに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ●「これは何でしょう？」 ●「不発弾加工品に付属した紙の日本語訳しましょう」→ラオスならではの課題は不発弾問題であることを強調する（コストをかけなかった結果低質で劣化した爆弾となり、不発弾となった） ○周辺地域の写真などを用い、不発弾の被害が起こる地域の確認をする ○資料2 不発弾処理現場の写真・動画を見ながら、現場を視察したエピソードを共有する →作業員の人、地元の人それぞれの言葉より不発弾問題に対する支援の必要性があることに気付かせたい ○先生達の体験事例より、ラオスの国民間でも不発弾問題は他人事意識に傾きがちなこともあることを指摘する ●「戦争の負の遺産とは何だと思いますか？」 ●「不発弾があることのデメリットは何でしょう？」 →人的損失、経済的損失、低開発などラオスの開発阻害要因になることを指摘する。戦争の負の遺産は不発弾の存在のみならず、憎しみ・怒りの連鎖が起こりえることにも気付かせたい ●「不発弾被害を防ぐ為に出来ることは何でしょう？」 →資金援助、技術支援、教育活動（広報活動）医療・ケア（地域の人々の心のケア、被害者や作業員への保障） →「知る」ことは命を救うことであり、その最先端の学校教育が重要な点を強調する ○日本・JICAの支援で完成しつつある資料3 作業員宿舎などの施設、作業車両の写真や、実際に資料4 啓発活動で使用されているポスターを確認する ○不発弾の問題はラオスだけではなく、世界の共通課題（カンボジア内戦、日本の沖縄戦など）であることを確認し、同じ課題を抱える国家で共に協働することによって新しい解決への道がある可能性を指摘する ○世界全体では軍需産業は一大ビジネスである →リボンの長さ（世界の軍事費をリボンの長さで表したもの）で比較させる ○資料5 風刺画を確認 ○資料6 軍事ビジネスを扱った映画作品の動画を確認 →軍事ビジネスによって儲かる国と、戦争・紛争が終わらない国に分かれる現状があることを指摘する。また格差があることから戦争の危険性が高まることを指摘し、世界の格差が有る現状に問題意識を持たせる ●「軍事ビジネスがある限り、民間人の被害はなくなる。これを縮小していくためにはどうすればいいのだろうか？」地域や、世界規模のアクションなど多角的な選択肢を順位付けさせ、発表させる ○資料7 宇多田ヒカル「誰かの願いが叶うころ」を流して、格差が常にあることが避けられないものなのか、考える ○振り返り



間近で見る不気味な不発弾の写真に息をのむ



平和を希求するアクションプランのランキング結果

＜生徒の反応＞ ワークシートより抜粋

- ・ラオスの問題を考えると最終的には全て不発弾につながっていました。不発弾を無くす為に出来る取り組みを考えましたが、問題が山積みでどれが正しいのか分かりませんでした。私達先進国が率先してこの取り組みを考え続けなければいけないと思います。今この瞬間も誰かが不発弾で亡くなっているかもしれないと思うととても悲しくて、今何も出来ない自分に腹が立ちました。せめて、この意識だけでもずっと忘れずに大人になって何か行動出来るときまで持っておこうと思います。
- ・「知る＝命を救うこと」という言葉が一番心に残りました。もちろん経済的な支援も必要だけれど、「知らない」ということほど怖いものはないと分かりました。自分の国で起こっていることじゃなくても、同じ地球人として考えなければいけないと思います。
- ・不発弾を処理しているときに、先生方は爆発に驚いてショックを受けていたのに、一緒にいた現地の方々や作業員さん達は笑っていた、と聞いて私もショックを受けました。国民の間でそのような格差があるのはとても残酷なことだと思いました。私達は先進国の国民で、ラオスのような国が世界の大多数であるということを忘れがちで、ついつい他の貧しい国の問題を他人事とってしまいます。きちんと他国の問題も、真剣に考えなくてはいけないと思いました。
- ・戦争が終わってもたくさんの問題が残されているということを知りました。日本などの先進国は加害者であるということが分かりました。軍事は自国を守るために必要なものなので、軍事をどうするか、というのはとても難しいと思いました。
- ・1つの国が利益を得るために戦争を引き起こすことで、敗戦国は永遠に被害を受け続け、負の遺産として残るのだと気付きました。戦争をなくすための方法は、どのような順番で優先するべきか悩みましたが、世界共通の課題だということを意識して、いつも考え続けたいと思います。
- ・戦争をなくすための方法について考えたときに、どの視点で見るかによって順位が大きく変わることによってすごく悩みました。そもそも「平和」とはどういうことなのか、誰のための平和なのか、それを考えた時、とても抽象的な問題だと思いました。
- ・ラオスや、それだけでなく沖縄での不発弾の多さにとても驚きました。また国・世界レベルでの問題について考えるのは難しいと感じました。「こうしたらいいのに」と考えるのは簡単だけれど、それを実行できない複雑な理由もたくさんあるのだと思います。何を一番優先させたらいいかもなかなか決めることが出来ませんでした。
- ・戦争をなくすためのランク付けが難しいと感じました。どうするのが一番良いのか、ラオスのような国の人を少しでも救うためには、どうすれば良いのか色々悩みました。みんなの願いが一度に叶わなくても、多くの人の願いを叶えることは出来るのではと思いました。どうするべきなのかはこれからも考え続けていきたいです。
- ・今回の授業を通して、改めて世界の不発弾の現状や軍需産業について学ぶことが出来ました。戦争をなくすための方法で、優先順位をつけたけど、私達自身が出来ることがとても小さなことなのだと実感しました。また、「こんな小さなことで本当に戦争は無くなるのだろうか」とも思いましたが、その小さなことが大きな一歩につながることを信じて、1つ1つ行動したいと思いました。

<所感>

今回の授業では、ベトナム戦争という歴史的背景を理解し、不発弾によってラオスの目指す発展が阻害されている現状を知ることによって、前半部分では「先進国の自分達が出来る援助について考える」という目標で展開した。後半部分は「平和を作る当事者として何が出来るか考える」という目標で構成され、前半の最後のパートで、不発弾問題は日本にも関係する世界共通の課題であり、不発弾を含む戦争の負の遺産について考え、問題意識を持たせるように工夫した。

生徒達はグループで活動をさせ、話し合いの中で違いに学び合う場を設定した。空欄の読み取りや口頭の情報の聞き取りなどが不十分だった生徒達はグループ内にて正しい情報を確認出来るので、良い取り組みだったと思った。個々に取り組みさせたワークシートでは「戦争の負の遺産」について、単純に人的被害・経済的被害・経済的な負担などに触れるのみならず、「人々にいつまでも消えない恐怖心や心の傷を作る」「子ども達是不発弾を落とした国を恨み、仕返しを思いつく」「不発弾の爆発がもはや日常になり、それを当たり前として捉えてしまい心が麻痺する」など人々の感情的な部分を「自分が知ったことを生徒に伝えたい」、と現地に行った自分にしか分からない状況をつぶさに語ることは話に臨場感を与えるが、一方で説明中心に陥りがちであるという課題を感じた。アクティビティが豊富になればなるほど生徒の発言を共有する時間が削られてしまうので、その点も配慮が必要であった。生徒に問題意識（当事者意識）を抱かせたり、共感的理解を引き出したりする為には適宜生徒への問いかけを忘れないようにしたい。

学習に用いた資料

資料1 加工品ビジネス



- ・「これは何？」と問いかけ、実際に触る時間を持った
- ・不発弾の加工品と分かった後も生徒達は終始興味を持って触っていた

資料2 不発弾処理現場周辺



- ・「不発弾が残る現場とはどのような場所でしょう？」と問いかけ、家畜や放牧をする子どもや大人が不発弾の被害に遭うことを確認した
- ・中央にはコーヒー畑が広がることから、不発弾がなければコーヒービジネスによって低収入から脱却できる人々がいることに気付かせた

資料2 不発弾処理現場



- ・「現場ではどのようなものが使われているでしょう？」と尋ねた→戦略ボード、金属探知機、拡声器、トランシーバー、防弾チョッキ、導線など
- ・自分達の知る不発弾や地雷処理に関する機材について答える生徒もいた

資料2 不発弾処理現場への道



- ・現場に向かうまでの車内より。舗装のないでこぼこ道で、多くの車両が寄付されたことを指摘した
- ・ラオスの自力の努力では多くの車両は準備出来ない点を強調し、先進国の関わりを強調した

資料2 処理現場に向かう途中にすれ違った家族



「この子ども達はどのような気持ちで大人になると思いま
すか？」と尋ね、実際に日本にきたラオスの人が花火をみて
不発弾の爆発を思い出して涙した話などを指摘、不発弾が心
に残すものに問題意識も持たせるようにした

資料2 不発弾の写真



- ・「どこに不発弾が見えますか？」と尋ね、地面を掘ってすぐ
現れる（地下10～30cm）、じゃがいものような形をした
クラスター爆弾の存在について指摘した
- ・現地の人々がどのように被害にあったか、エピソードを添え
て話を展開した

資料2 不発弾の所在地



ベトナム戦争の歴史的背景や、不発弾が産む格差について
述べる際に参照した

資料2 作業員宿舎



開発途上国であるラオスに対する日本からの資金援助が
分かるよう紹介した

資料3 車両



非常に高額な作業車が寄付されたことを日本の資金援助の例として紹介する一方、現地ではラオス語のマニュアルが無いためにまだ運転に到ってないことも同時に指摘しその問題点に気付かせるようにした

資料4 ポスター



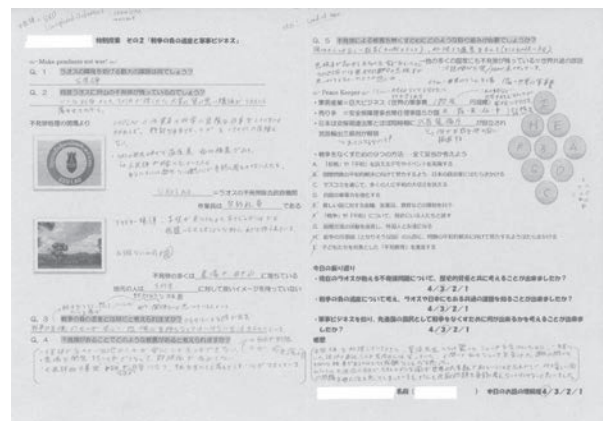
- ・UXO-LAOよりいただいたもの
- ・不発弾に関する注意点のみならず、日本とラオスの表現の違いなど興味を持った生徒が多かった。

資料5 風刺画



- ・「これはどのようなことを風刺している？」と尋ねた
- ・飢餓におちいる赤ちゃんに武器を与え、太らせようとする先進国のビジネスマン、等の回答が得られた。

資料6 ワークシート



授業実践3回分それぞれワークシートを作成し、授業最後に振り返りを記入させる時間を持った。

<成果>

私の勤務校はカトリックの女子中高一貫校でもあり、日常的に「奉仕する」というミッションが共通理念とされている。一方で私個人としては「支援のあり方」について「してあげる」などといった上から目線の考え方になることや、自分達と同じ物質的豊かさを基準にした考え方に陥らないように配慮して日々の教育活動を行ってきた。今回の授業実践を通して、実際に国際協力の現場で地域のニーズを汲んだ支援が行われていることを理解してもらえた点は大きな成果といえるだろう。また、生徒の記入したワークシートより、彼女達が「発展途上国」に対する固定観念に気づき、違いがあることを肯定的に受け入れる寛容性を持つことや、他者と協働する大切さを知ることにつながるということが出来たという実感が得られた。

国際理解教育に関しては、何よりも「知っている」ということが草の根レベルではあるが大きな意味を持つと考える。今回授業実践に際し、特別授業を設定するクラスに限られたため、敢えて多くのクラスに対して事前学習や帰国後の活動報告を充実させた点は達成感があった。帰国後セパタクローを生徒達と実施する時間を持ったが、この経験を持った生徒達が卒業後、どこかで東南アジアの方と出会った際に「セパタクローをやったことがあります」と話すだけで、お互いに親近感が増すのではないかと期待する。

<課題>

自分自身の授業のスキルを高めることがまず率先して取り組むべき課題である。また、自身の学びを還元する際に、自分がした発言や問いに対して間を取り、「生徒自身に考えさせる工夫」がまだ十分でないと感じる。つつい自分が知っていることを伝えることに終始してしまわないように継続して注意したい。特に授業を構成する上では教員が得たことを「追体験させる仕掛け（疑問を見つけて、発見させる仕掛け）」作りが重要であることを意識して、今後の授業作りに努めたい。

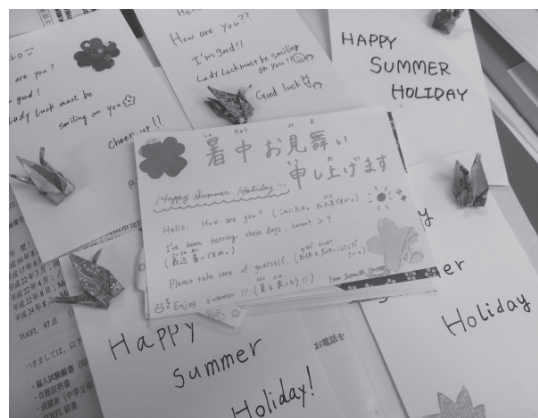
自身が研修中にも気付いた点でもあるのが、「先進国の国民である私達自身が世界の問題に対して当事者意識をどのように持つようにするか」であった。開発教育のみならず、教育とはいかに他人事感覚の人々に当事者意識を持って貰うかが鍵である。「日本は凄い」、「日本に住んでいるからラッキーだ」「発展途上国は可哀相」といったような帰結点を迎えるのではなく、公正な公平を希求するグローバルな視野や「違い」から学びよりよい未来作りに紡いでゆく異文化受容能力を養うことを常に模索し、子どものみならず多くの人を動かしたい使命感にも駆られる経験となった。この経験を糧として、生徒達の共感的理解を引き出す教員になるために更なる努力を重ねたい。

【事前学習】

- ①ラオスについて知ろう～Seishin Meets Laos～
- ②ラオスの子ども達へのインタビュー動画を作成しよう・日本を紹介するプレゼン動画を作成しよう（高3）
- ③ラオスの子ども達への暑中見舞いを作成しよう（高3）

【その他の活動報告】

- ①ラオスからやってきた残暑見舞いを読もう（高3）
- ②社会科教室前掲示物 「先生の研修報告」
- ③Global Caféでの報告会（生徒・教職員）
- ④ラオスの子ども達へのインタビュー動画を見よう（高3）



参考資料

【書籍】

小向絵里『平和構築に向けた絆-カンボジア地雷対策センターの改革・成長と南協力の軌跡』国際開発ジャーナル社2015

【教材】

『世界一大きな授業2015』教育協力NGOネットワーク（JNNE）2015

『もっと話そう！平和を築くためにできること—Talk for Peace—』開発教育協会2003

【視聽覺資料】

SMAP『世界に一つだけの花』

映画『ロード・オブ・ウォー』

宇多田ヒカル『誰かの願いが叶うころ』

【インターネット】

最貧国からの脱却—ラオスの生活—

http://www5f.biglobe.ne.jp/~mmasuda/ronbun/051004_raos.html

動く→動かす 持続可能な開発目標（SDGs）とは

<http://www.ugokuugokasu.jp/whatwedo/sdgs.html>

プレマ株式会社 社会貢献活動 ラオス

<http://prema.co.jp/raos/index.html>

Families In Poverty -Jokes-

<https://familiesinpoverty.wikispaces.com/>

世界のエネルギー資源の利用と分布

学校所在県：岡山県
 学校名：岡山県立津山高等学校
 名前：常井 仁美
 担当教科：地理歴史、公民

実践教科：地理歴史
 実践科目：地理B
 対象学年：第2学年
 対象人数：101人

■実践の目的

「ラオスのエネルギー資源の分布やエネルギー消費の現状について考察することを通して世界のエネルギー資源の利用と分布を考える」

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目	世界のエネルギー消費の現状	<p>一斉学習</p> <p>(1) 図1*を見て、「エネルギー消費量の多い国」「1人あたりのエネルギー消費量が5,000kg以上の国」を読み取り、世界のエネルギー利用の空間的広がりを概観する</p> <p>(2) 図1*を見て、「中国・インドに共通するエネルギー消費の内訳の特徴」「中国・インド以外の国・地域のエネルギー消費の内訳の特徴」を読み取り、おもに利用するエネルギーの種類の共通性や異質性を考察する</p> <p>(3) 「世界のエネルギー消費量の推移」を図2*から読み取り、1955年以降のエネルギー需要の増大とエネルギー革命の背景を考察する</p> <p>(4) 社会の変化とともに、利用するエネルギーの種類も変化してきたことを理解する</p> <p>(5) 「化石燃料の可採年数」を統計書で確認する</p>	<p>教科用図書『地理B』 教科用図書『地図』 ワークシート</p> <p>図1* 「1人あたりのエネルギー消費量とおもな国・地域のエネルギー消費の内訳(2010年)」 <帝国書院『新詳地理B』p.114①></p> <p>図2* 「世界のエネルギー消費量の推移」 <帝国書院『新詳地理B』p.114②></p>

2時限目	世界のおもな油田の分布と原油の移動	<p>一斉学習</p> <p>(1)「世界のおもな油田の分布図」を作成し、空間的広がりを概観する</p> <p>(2)(1)で作成した分布図と「世界の地体構造の分布図」とを重ね合わせて、油田の分布の特色を分析する</p> <p>(3)「世界のおもな原油の産出国」を統計書で確認し、空間的広がりを概観する</p> <p>(4)「世界のおもな原油の輸出国」を統計書で確認し、空間的広がりを概観する</p> <p>(5)「原油の年間輸入量が1,000万トン以上の国・地域」を統計書で確認し、(1)で作成した分布図に描き入れ、空間的広がりを概観する</p> <p>(6)図3*を見て、「原油の移動」を読み取り、空間的広がりを概観し、輸送方法を把握する</p> <p>(7)「日本の原油の輸入先」を統計書で確認し、輸入ルートを(1)で作成した分布図に描き入れる</p> <p>(8)石油のおもな用途を確認し、各国の石油の消費動向を把握する</p>	<p>教科用図書『地理B』 教科用図書『地図』 各種統計書 ワークシート</p> <p>図3* 「おもな油田の分布と原油の移動(2010年)」 <帝国書院『新詳地理B』p.115③></p>
3時限目	世界のおもな炭田の分布と石炭の移動	<p>一斉学習</p> <p>(1)「世界のおもな炭田の分布図」を作成し、空間的広がりを概観する</p> <p>(2)(1)で作成した分布図と「世界の地体構造の分布図」とを重ね合わせて、炭田の分布の特色を分析する</p> <p>(3)「世界のおもな石炭の産出国」を統計書で確認し、空間的広がりを概観する</p> <p>(4)「世界のおもな石炭の輸出国」を統計書で確認し、空間的広がりを概観する</p> <p>(5)「石炭の年間輸入量が1,000万トン以上の国・地域」を統計書で確認し、(1)で作成した分布図に描き入れ、空間的広がりを概観する</p> <p>(6)図4*を見て、「石炭の移動」を読み取り、空間的広がりを概観し、輸送方法を把握する</p> <p>(7)「日本の石炭の輸入先」を統計書で確認し、輸入ルートを(1)で作成した分布図に描き入れる</p> <p>(8)石炭のおもな用途を確認し、各国の石炭の消費動向を把握する</p>	<p>教科用図書『地理B』 教科用図書『地図』 各種統計書 ワークシート</p> <p>図4* 「おもなエネルギー資源の分布と石炭の移動(2010年)」 <帝国書院『新詳地理B』p.116①></p>

4時限目	ラオスのエネルギー資源の分布とエネルギー消費の現状	<p>協働学習（4人1組のグループ）</p> <p>(1) 図1*を見て、示された10カ国を「エネルギー消費の内訳の特徴」が似通っている国ごとに分類する</p> <p>(2) (1) について話し合った結果を発表する</p> <p>(3) ラオス南部（サラワン県ラオガム郡・チャンパーサック県パクセー郡）の写真ヒントにして、ラオスのエネルギー消費の内訳を推測する</p> <p>(4) ラオスは（1）のどの類型に属するのか、どの国と最も似通っているのかを考察する</p> <p>(5) (4) について話し合った結果を発表する</p> <p>(6) ラオスの「エネルギー消費量（総量・1人当たり）」を統計書で確認し、他の国ぐにと比較する</p> <p>(7) 「現地で入手した地図」を見て、ラオスの炭田分布を確認する</p> <p>(8) 教科用図書『地図』を見て、地勢から「ラオスのおもな発電方法」を予測する</p> <p>(9) (8) について話し合った結果を発表する</p> <p>(10) 海外エネルギー動向（IEEJ定期コンテンツ）のラオス「発電電力量構成」を確認する</p> <p>(11) 「ラオスの電化率」を10%刻みの数字で推測し、挙手で応答する</p> <p>(12) アジアンインサイト（DIRレポート）の「CLMV諸国の1人あたりGDP、人口、電化率」の内容を確認する</p> <p>(13) 「東南アジアのバッテリー」を目指し電源開発が進んでいることを知り、水力発電による電力がタイに輸出されていることを統計書で確認する</p> <p>(14) 「ラオスのエネルギー消費の内訳」を統計書で確認する</p> <p>(15) (4) の考察の妥当性について検討する</p>	<p>教科用図書『地理B』 教科用図書『地図』 各種統計書 ワークシート 写真 現地で入手した地図 IEEJ定期コンテンツ DIRレポート JETRO調査レポート 図1* 「1人あたりのエネルギー消費量とおもな国・地域のエネルギー消費の内訳(2010年)」 <帝国書院『新詳地理B』p.114①></p>
------	---------------------------	---	--

5時限目	世界のおもなガス田の分布と天然ガスの移動	<p>一斉学習</p> <p>(1) 「世界のおもなガス田の分布図」を作成し、空間的広がりを概観する</p> <p>(2) (1) で作成した分布図と「世界の地体構造の分布図」とを重ね合わせて、ガス田の分布の特色を分析する</p> <p>(3) 「世界のおもな天然ガスの産出国」を統計書で確認し、空間的広がりを概観する</p> <p>(4) 「世界のおもな天然ガスの輸出国」を統計書で確認し、空間的広がりを概観する</p> <p>(5) 「天然ガスの年間輸入量が2,000ペタジュール以上の国・地域」を統計書で確認し、(1) で作成した分布図に描き入れ、空間的広がりを概観する</p> <p>(6) 天然ガスを大量に輸送する方法を考察する</p> <p>(7) 「日本の液化天然ガスの輸入先」を統計書で確認し、輸入ルートを(1) で作成した分布図に描き入れる</p> <p>(8) 天然ガスのおもな用途を確認し、各国の天然ガスの消費動向を把握する</p>	<p>教科用図書『地理B』 教科用図書『地図』 各種統計書 ワークシート 写真</p>
6時限目	世界のおもな国の電力生産	<p>一斉学習</p> <p>(1) 1次エネルギーと2次エネルギーとの違いを整理する</p> <p>(2) 「上位10カ国の発電量とその内訳」を統計書で確認し、世界の電力生産のようすを概観する</p> <p>(3) 10カ国を「発電量の内訳の特徴」が似通っている国ごとに分類する</p> <p>(4) 図5*と統計書を見て、「おもな国の1970年と2011年の発電量の内訳」を比較し、どのような変化が見られるのかを考察する</p> <p>(5) 「日本の火力発電用燃料消費量」を統計書で確認し、使用される燃料の種別と数量とを把握する</p> <p>(6) 「世界のおもな水力発電所（最大出力10,000MW以上）」を統計書で確認し、空間的広がりを概観する</p> <p>(7) 「日本のおもな火力発電所」を統計書で確認し、空間的広がりを概観する</p>	<p>教科用図書『地理B』 教科用図書『地図』 各種統計書 ワークシート</p> <p>図5* 「おもな国における発電量の内訳の変化」 <帝国書院『新詳地理B』p.117⑥></p>

4時限目：ラオスのエネルギー資源の分布とエネルギー消費の現状

ねらい…ラオスのエネルギー学習を通じて、世界のエネルギー問題を大観するヒントを得る

- (1) 図1を見て、示された10カ国を「エネルギー消費の内訳の特徴」が似通っている国ごとに分類する

図1 1人あたりのエネルギー消費量とおもな国・地域のエネルギー消費の内訳(2010年)<帝国書院『新詳地理B』p.114①> ※著作権の関係上、図は掲載していません

10カ国とは、図1中のアメリカ合衆国・ブラジル・フランス・イギリス・ドイツ・インド・ロシア・オーストラリア・日本・中国を指す。エネルギー消費の内訳は4種類（石油・石炭・天然ガス・電力）の割合を国ごとに1つの円グラフで示す。4人1組のグループで話し合い、結果をまとめる。

- (2) (1) について話し合った結果を発表する

なぜ、そう考えたのかが聞き手に伝わるように説明する。たとえば、最も割合の大きいエネルギーに注目したグループでは、「石油」・「石炭」・「天然ガス」の3つに分類にして、「石油」はアメリカ合衆国・ブラジル・フランス・ドイツ・日本、「石炭」はインド・オーストラリア・中国、「天然ガス」はイギリス・ロシアとなった、という具合である。

- (3) ラオス南部（サラワン県ラオガム郡・チャンパーサック県パクセー郡）の写真ヒントにして、ラオスのエネルギー消費の内訳を推測する

ラオスの人びとの生活を想像しやすいように、写真23枚（写真1から写真23）をスライド形式で映写する。なお、ラオス南部のうち、サラワン県ラオガム郡の位置は教科用図書『地図』では確認できないため、現地で入手した地図で位置を示す（写真24）。クーラーやパラボラアンテナ、電線などから電力の使用を、レストランやカフェの厨房から固体燃料の使用を読み取る。また、農産物加工工場で使用されるエネルギーについても推測する。



写真1 クーラー



写真2 養殖池



写真3 蒸したもち米 (カオニャオ)



写真4 レストラン厨房



写真5 養殖魚 (ティアピア)



写真6 電線



写真7 道路①



写真8 道路②



写真9 パラボラアンテナ①



写真10 高床式住居



写真11 村の集会所①



写真12 村の集会所②



写真13 村の集会所建物内部①



写真14 村の集会所建物内部②



写真15 カトゥ族の織物販売



写真16 案内看板



写真17 カフェ厨房①



写真18 カフェ厨房②



写真19 カフェ



写真20 パラボラアンテナ②



写真21 パラボラアンテナ③



写真22 Dao Coffee Factory①



写真23 Dao Coffee Factory②

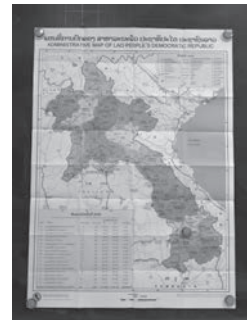


写真24 ラオス地図①

- (4) ラオスは(1)のどの類型に属するのか、どの国と最も似通っているのかを考察する

おもに使用されているエネルギーは何か、それはどの国のようすに近いかを予測して、グループで話し合い、結果をまとめる。

- (5) (4)について話し合った結果を発表する

固体燃料の使用に着目し、「石炭」の割合が高く、ラオスの人びとの生活のようすから「中国」又は「インド」に似ているのではないかと、あるいは、電力の使用に着目し、「電力」の割合が比較的高く、水力発電という共通性から「ブラジル」に似ているのではないかと、という具合である。

- (6) ラオスの「エネルギー消費量(総量・1人当たり)」を統計書で確認し、他の国ぐにと比較する

2010年、石油換算で、ラオスの総量は68万トン、1人当たり110キログラム。中国は総量20億5,716万トン、1人当たり1,534キログラム、インドは総量5億3,902万トン、1人当たり440キログラム。ブラジルは総量1億8,139万トン、1人当たり930キログラム。日本は総量4億195万トン、1人当たり3,177キログラム。ラオスのエネルギー消費量は総量、1人当たりともに、日本はもとより、(5)で登場する国ぐによりもはるかに少ないことに気付く。

- (7)「現地で購入した地図」を見て、ラオスの炭田分布を確認する

おもに使用されているエネルギーは何か、それはどの国のようすに近いかを予測して、グループで話し合い、結果をまとめる。

- (8) 教科用図書『地図』を見て、地勢から「ラオスのおもな発電方法」を予測する

地勢から見つけ出した発電の可能性について、グループで話し合い、結果をまとめる。

- (9) (8)について話し合った結果を発表する

「ナムグムダム」に着目し、水力発電を導き出す。

- (10) 海外エネルギー動向(IEEJ定期コンテンツ)のラオス「発電電力量構成」を確認する

2010年、水力100%(出所:Lao PDR Ministry of Mines and Energy)のグラフを示す。

- (11)「ラオスの電化率」を10%刻みの数字で推測し、挙手で応答する

本時の学習を通して得られた印象をもとに、生徒一人一人が2012年、ラオスの電化率を推測する。



写真25 ラオス地図②

- (12) アジアンインサイト (DIRレポート) の「CLMV諸国の1人あたりGDP、人口、電化率」の内容を確認する
2012年、ラオスの電化率は78%、カンボジア34%、ミャンマー32%、ベトナム96% (出所: International Energy Agency)。CLMV諸国の中でも電化率の差は大きく、ラオスの中では比較的高いことに気付く。
- (13) 「東南アジアのバッテリー」を目指し電源開発が進んでいることを知り、水力発電による電力がタイに輸出されていることを統計書で確認する
新たな火力発電所や水力発電所の建設など、「東南アジアのバッテリー」を目指し、電源開発が進んでいる現状を紹介するとともに、現在、水力発電による電力がタイに輸出されていることを統計書で確認する。
- (14) 「ラオスのエネルギー消費の内訳」を統計書で確認する
(6) より、総量68万トンのうち、固体燃料33万トン、液体燃料14万トン、電力21万トン。ただし、固体燃料は石炭・薪炭、液体燃料は石油・アルコール・バイオディーゼル、電力は水力・原子力・地熱・太陽熱・潮力・風力・波力を指す。
- (15) (4) の考察の妥当性について検討する
ラオスは固体燃料の占める割合が高いが、豊富な森林資源を生かした薪炭を使用することが多いため、石炭消費の多い類型に含めてもよいかどうか、また、電力の割合が比較的高いため、電力の類型に含めたときに、ブラジルやフランスのように液体燃料が主である国ぐにと似ていると考えるのは妥当であるか、などをグループで話し合い、検討する。

<生徒の反応>

- ラオスでおもに使用されているエネルギー予測
 - ・厨房の写真から、ラオスは固体燃料の使用割合が高いと思う。
 - ・クーラーやパラボラアンテナ、電線などの写真から、ラオスは電気も使っていると思う。
- エネルギー消費の内訳からみたラオスの類型予測
 - ・ラオスは「石炭」利用の割合が高い類型にあてはまると思う。
 - ・ラオスは「石炭」や「電力」をバランスよく使っている類型にあてはまると思う。
- エネルギー消費の内訳がラオスと似ている国予測
 - ・ラオスの生活はアジアの国の中でも中国に近いと思う。
 - ・ラオスの生活はアジアの国の中でもインドに近いと思う。
 - ・ラオスの生活は電気をよく使っているから水力発電のブラジルに近いと思う。
- ラオスのおもな発電方法予測
 - ・ラオスは石炭を産出しているから、それを使った火力発電だと思う。
 - ・ラオスは川があって水が豊富だから水力発電だと思う。
- ラオスの電化率予測
 - ・10%から90%まで、全て手が挙がるものの、50%以下の反応が多数。
- ラオスのエネルギー消費の内訳は、「固体燃料49%、液体燃料21%、電力31%」と知る
 - ・ラオスは薪炭の利用が主で、固体燃料の割合も全体の半分以下だから、中国とは似ていないかもしれない。
 - ・ラオスは薪炭の利用が主で、固体燃料の割合も全体の半分以下だから、インドとは似ていないかもしれない。
 - ・ラオスは固体燃料の割合が最も高いから、ブラジルとは似ていないかもしれない。

<所感>

帰国後、最初の授業でラオスのお土産「タマリンドキャンディ」を生徒一人一人に差し出し、「アレルギーの心配がない人は食べてみて」と勧めてみた。嬉しそうにすぐに口にした生徒もいれば、複雑な表情を浮かべながら口にした生徒、いったん口にしてから吐き出す生徒、アレルギーはないものの口にすることができなかった生徒が教室に入り乱れた。そこには、未知なる国ラオスに対して日頃から抱いている正直な価値観が露呈していた。生徒による反応の違いがあまりにも大きく、当初は、ラオスの授業づくりに対しては慎重にならざるを得ないと感じていた。一方で、地理Bの目標でもある「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ための学習機会がまさにこのラオスの授業にあると前向きに考えることもできた。そこで、地理学習のさまざまな場面でラオスの事例を取り上げることで、

ラオスを知り、高等学校の地理学習を終えるときには、ラオスで考えることができる生徒を育てようと決意した。

今回の授業実践における生徒たちの表情は一樣に明るかった。未知の世界を探る感覚を仲間と共有しながら進めることができる学習形態の効果が大きかったと考える。授業自体は、現地で収集した素材を組み合わせることで容易に構成することができた。また、意図せず撮影した写真から、教材としての新たな価値を見いだすことができる喜びを体感することもできた。生徒たちに、ラオスの「今」を伝えたいという思いが、授業実践という形で実現できたこと、生徒たちとともにラオスを感じ、ラオスで考えることができたことに安堵した。

全体を通しての成果と課題

エネルギー消費の現状やエネルギー資源の分布にはそれぞれ地域的特色がある。しかし、生徒たちにとって、ラオスのエネルギー消費の現状はイメージしにくい上に、同じアジアの国という共通項から、何となく中国やインドと似ているのではないかという先入観で捉えようとする傾向がみられる。そのため、中国やインドと同様に、ラオスも国内で石炭を産出しているとなれば、電力も当然、石炭火力によるものだと疑いもなく考えてしまう生徒が多い。実際に、ラオスは中国やインドと異なり、「産業部門における石炭の大量消費」という段階にはなく、「再生可能な資源の小規模な利用」の段階から、「水力発電による売電収入で経済成長を目指す」段階へ移行しつつある状態である。ラオスの日常を撮影した写真からすべてを知することは難しいとしても、発展途上国という枠組みで、一括りにして捉えようすると誤解が生じる。クーラーやパラボラアンテナ、電線などの写真を見ているにもかかわらず、電化率は低いという発想につながることも、発展途上国に対する固定観念が強く働いている面が否めない。

生徒たちがラオスを知ることで、アジアの国々には多様性に富んでおり、発展の段階にも違いがあることに気付くとともに、世界の国々に考えるときの「ものさし」としてラオスを使うことができるようになれば、授業実践の大きな目標は達成できたと考える。日本とラオスという二つの「ものさし」を使いこなせる生徒たちを育むためにも、ラオスでの研修成果を取り入れた授業実践を継続することが最大の課題である。

謝辞

貴重な研修の機会を与えてくださったJICA中国の皆様には厚くお礼申し上げます。現地ではJICAラオス事務所の皆様、青年海外協力隊員の皆様、同行してくださったJICA職員や通訳、ガイドの皆様には大変お世話になりました。特に、森林に関するブリーフィングを企画してくださったJICAラオス事務所の前納加奈子様、金井めぐみ様、丁寧な御準備の上、森林に関するブリーフィングをしてくださった同事務所の寺田周平様、帰国後、教材作成の段階で必要になった訪問先の位置情報を詳しく御教示くださった青年海外協力隊員の落合翔平様には深く感謝いたします。また、サービスの調整や便宜を図ってくださった本校校長今井康好先生を始めとする本校教職員の皆様、応募に際し身に余る推薦を頂戴した本校教頭菱川靖人先生、そして、かけがえのない時間をともに過ごすことができたチームラオスの皆様、JICA中国の同行者でありながら、研修参加者と同じ目線でチームラオス一員としても温かく見守ってくださった新川美佐絵様、本当にありがとうございました。

【書籍】

- ・木村健一郎・米田令仁2015. ラオス中部中山間地域における薪消費量と資源量の推定. 環境情報科学学術研究論文集29：263-266.
- ・地球の歩き方編集室2014. 『地球の歩き方D23ラオス2014～2015年版』ダイヤモンド・ビッグ社.
- ・独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構石炭事業部2008.
『平成19年度「ラオス人民民主共和国における石炭賦存・開発等可能性の調査」報告書』独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構.
- ・文部科学省2010. 『高等学校学習指導要領解説地理歴史編』教育出版.
- ・横山智2013. 生業としての伝統的焼畑の価値—ラオス北部山地における空間利用の連続性. ヒマラヤ学誌14：242-254.
- ・ラオス情報文化観光省観光促進局2015. 『ラオス観光公式ガイド』日本アセアンセンター.

【教材】

- ・荒井良雄ほか2015. 『新詳高等地図』帝国書院.
- ・内山美彦ほか編2015. 『新編地理資料2015』東京法令出版.
- ・一般財団法人日本エネルギー経済研究所2013. 海外エネルギー動向. 一般財団法人日本エネルギー経済研究所（定期コンテンツ）.
<http://eneken.ieej.or.jp/journal/trend.html>
- ・片平博文ほか2015. 『新詳地理B』帝国書院.
- ・中川葉子2015. 旺盛なエネルギー需要が見込まれるメコン地域. 大和総研（アジアインサイト）.
http://www.dir.co.jp/consulting/asian_insight/
- ・二宮書店編集部編2015. 『データブックオブ・ザ・ワールド2015年版—世界各国要覧と最新統計—』二宮書店.
- ・山田健一郎2015. 「東南アジアのバッテリー」目指し進む電源開発（ラオス）.
日本貿易振興機構海外調査部アジア大洋州課『アジア・オセアニア各国の電力事情と政策』52-54. 日本貿易振興機構海外調査部アジア大洋州課.
- ・National Geographic Department 2012. ADMINISTRATIVE MAP OF LAO PEOPLE'S DEMOCRATIC REPUBLIC.
- ・National Geographic Department 2012. ECONOMICAL AND GEOGRAPHICAL MAP OF LAO PDR.

【インターネット】

- ・外務省2015. ラオス人民共和国. 外務省（国・地域）. <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/>
- ・国連人間居住計画2010. ラオスにおけるエネルギー分野の概要. 第2回国際環境技術専門家会議（スライド資料）.
<http://www.fukuoka.unhabitat.org/kcap/activities/egm/2010/>
- ・独立行政法人国際協力機構2015. ラオス. 独立行政法人国際協力機構（各国における取り組み）. <http://www.jica.go.jp/laos/>
- ・堀江正人2014. ラオス経済の現状と今後の展望—発展のビッグ・チャンスを迎える内陸国ラオス.
三菱UFJリサーチ&コンサルティング（分析レポート）. <http://www.murc.jp/thinktank/economy/analysis>

ラオスを通して世界を考える

学校所在県：岡山県
 学校名：岡山県共生高等学校
 名前：尾山 誉
 担当教科：英語

実践教科：コミュニケーション英語Ⅲ
 対象学年：3年生
 対象人数：27名

■実践の目的

「ラオスのエネルギー資源の分布やエネルギー消費の現状について考察することを通して世界のエネルギー資源の利用と分布を考える」

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目	ラオス基本情報その1 ・ラオスの基本情報を学び、ラオスについての知識を深める	(1) パワーポイント（動画・写真）を使用し、未知の国ラオスについて学び、ラオスへの関心を持たせる (2) ラオスの食文化を学ぶ (3) ラオスの現状を知り、国が抱えている問題点を理解する	・パワーポイント ・動画 ・写真 ・紙幣
2時限目	世界に触れよう ・フォトランゲージを通して写真から多くの情報が読み取れることを知り、また日本との相違点についても気づかせる ・各自が持っているステレオタイプを知る ・他国に興味を持たせる	(1) 各グループに同じ国の写真を一枚ずつ時間をおいて配布し、その写真から読み取れることを書き出す (2) グループ内で他のメンバーと意見の交換を行い、多様な解釈があることを知る (3) 配布された5枚の写真がどこの国の写真なのか地図を見ながら、グループで話し合う (4) 各グループに配布された写真を見せながらどこの国の写真かを根拠も合わせて発表する	・世界地図 ・JICA フォトランゲージキット ・模造紙

3時限目	<p>ラオス基本情報その2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地で購入した教材を使用し、ラオスについて知る ・ ラオスが抱える不発弾問題について考える ・ ラオスの教育における問題を考える 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 現地で発行されている無料雑誌からラオスの文化を学ぶ (2) 日本語の教科書や英語の教科書を見て、教科書の中にどのような内容が取り上げられているかグループで話し合い、ラオスの文化を知る (3) 料理本からラオスの食文化を学ぶ (4) 不発弾からできたスプーンを見て、ラオス国内に残るベトナム戦争の爪痕を知り、そこからラオスの抱える問題点を考える (5) 不発弾処理の現場の動画を見て、多くの不発弾が残っていることで開発が遅れていることを学ぶ (6) ラオスの教育の問題を紹介し、特に初等教育での問題点を指摘し、それがラオスにどのような影響を与えているのかグループで話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイント ・ 動画 ・ 現地で購入した物品(辞書、教科書、料理本、現地発行の無料雑誌、不発弾から作ったスプーン) ・ UXO LAO配布ノート ・ UXO LAO不発弾ポスター
4時限目	<p>ラオス基本情報その3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地で活動しているJICA隊員のインタビューを見て、青年海外協力隊について知る 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 現地で活動している3名のインタビューを見て、現地でどのような活動を行っているのか知り、ラオスが現在抱えている問題について考える (2) 国際協力や国際支援のあり方について考える (3) 海外で活動することに興味を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイント ・ 動画
5時限目	<p>ラオスの貧困について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展途上国が抱える問題について考える ・ 国際協力や国際支援の必要性について考える ・ 第6時限への導入 	<ul style="list-style-type: none"> (1) ノンブン村で撮影した写真を見て、情報を読み取る (2) その写真から読み取った情報から貧困の問題の有無をグループで話し合う (3) グループで話し合ったことをA3用紙にまとめる (4) 全体で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 用紙 ・ ラオス写真5枚
6時限目	<p>ランキング・カード 「ラオスをより良くするプロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際協力や国際援助のありかたについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「ラオスをより良くするためのプロジェクト」のカードを、ラオスが抱える問題を解決するために効果的な支援に順位を付ける (2) グループ内で意見をまとめ、模造紙に優先順位の高いものからダイヤモンド型に並べ、レイアウトし、それぞれに理由やコメントを付箋に書き出し、貼り付ける (3) 全体で発表し、全体で意見交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ランキングカード ・ 模造紙 ・ 付箋

5時限目：ラオスの貧困について考える

ねらい…ラオスにあるノンブン村で撮影した5枚の写真から情報を読み取り、日本とラオスの比較を行い、共通点や相違点を探す。

第1時限から第5時限で学習したことも踏まえ、ラオスの貧困について考え、貧困を改善する為の支援の必要性の有無や在り方について考える。

<本時の流れ>

- (1) ノンブン村で撮影した5枚の写真を見て、各自気づいたことをA4用紙に記入する。
- (2) その後、グループ内で他のメンバーと意見交換し、A4用紙にまとめる。
- (3) この村は貧しいのかどうか考え、貧しいと思うなら下記のワークシートを使用し、グループで意見をまとめる。
- (4) グループ内で考えたことを全体で発表する。
- (5) 振り返りを行う。

ワークシート1

氏名：
グループ：
グループメンバー：

1. 何が貧しいのか？

2. なぜ貧しいのか？

3. 日本と比較してどうか？

【資料1 (3) で使用したワークシート】



ノンブン村の高床式住居①



ノンブン村の高床式住居②



荷車で遊んでいるノンブン村の子供達



ノンブン村の産業の一つである木彫りを行っている村人



ノンブン村の舗装されていない道

【資料2 使用した写真】

＜生徒の反応＞ワークシートより抜粋

1. 何が貧しいのか？

- ・道路が舗装されていない
- ・電気器具が少なそう
- ・家がボロボロだ
- ・服を着ていない
- ・靴を履いていない
- ・窓やドアがない
- ・壁がない
- ・信号がない
- ・家の造りがとても雑だ
- ・人気をあまり感じない
- ・服がボロボロだ
- ・家の中が暗そう

2. なぜ貧しいのか？

- ・知識がないから
- ・経済が発展していないから雇用がない
- ・産業が発達していないから
- ・戦争の影響で開発が思うように進行しないから
- ・資源があっても開発する技術がないから
- ・資源がないから
- ・自給自足の生活をしているから
- ・お金がないから
- ・発展途上国だから
- ・昔の伝統を守り続けているから

3. 日本と比較して、どうか？

- ・日本は裕福で、ラオスは貧しそう
- ・危険そう
- ・住み難そう
- ・不便そう
- ・技術がなさそう

(その他)

- ・日本とは違うが、貧しいと断言はできない

<所感>

生徒も初めての参加型授業を体験し、とても新鮮だったようで想像以上に活発な話し合いができていた。グループで話し合いを行い、みんなの意見を集約し、人前で発表する難しさも感じることができ、良い経験になったと思う。

ラオスの村で撮影した5枚の写真を使用し、フォトランゲージを行い、大半の生徒が貧困という問題が存在していると考えた。しかし数名の生徒は日本と違うが、貧困が存在していると言い切ることは難しいという意見もあった。この活動では、普段考えた事のない貧困について考えることができ、第6時限で行う支援の必要性を考える導入となったと思う。しかし、貧困についてもう少し時間を取り、発展途上国＝貧困という図式にならないよう工夫が必要だと感じた。

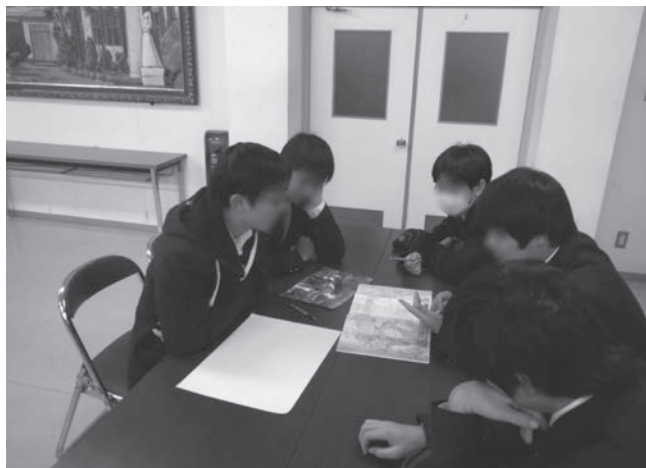


写真1 フォトランゲージの様子①



写真2 フォトランゲージの様子②

6時限目：ラオスを良くするプロジェクト

ねらい…ラオスが抱える問題の解決策について、様々な方法や考え方があることを理解し、国際協力や国際支援の在り方や方法についても考える。また自分たちも世界が抱える問題に対して何かアクションを起こそうという気持ちを喚起させる。

<本時の流れ>

- (1) ランキングカード「ラオスをより良くするプロジェクト」のカードを読み、ラオスの問題点を解決するために効果的なプロジェクトを1から9までの順番を付ける。
- (2) グループ内で話し合い、意見交換する。
- (3) グループ内の意見をまとめ、模造紙に優先順位でダイヤモンド型にそのカードを並べて、模造紙に貼り付けていく。
- (4) 優先順位を付けたカードにその順位に並べた根拠などを付箋に書き出し、貼り付けていく。
- (5) グループ毎に発表し、他のグループと意見交換をする。
- (6) 振り返りで支援には以下のような支援があることを確認する。

●AからIのプロジェクトの支援分類

支援	プロジェクト
緊急支援	D・F
農業における人的・技術的開発支援	A・E
工業開発の基盤作りや新たな産業開発のための開発支援	G・I
日本の生活の改善や発展途上国への興味・関心を高めるための開発教育支援	C・H
ODAに頼り切っている依存体質の脱却と経済的に自立するための促進的支援	B

(7) またプロジェクトについて以下のような考え方ができることを伝える。

- ・ ラオスに合った農業技術や改善方法を教えることにより農業が安定し、農村が自立することが可能になる。
- ・ 新たな技術導入によりラオスの国内経済に変化をもたらし、グローバル化が農村に大きな影響を与え、伝統を破壊してしまうかもしれない。
- ・ ODAは他の開発より工業開発が政府の意向により優先されるかもしれない。
- ・ 短期的な支援や緊急支援はすぐに効果が現れるかもしれないが、問題を解決するには長期的な効果があるものも考える必要がある。
- ・ 過剰な支援はその国を支援に頼り切ってしまう依存体質の国に変えてしまう恐れがある。
- ・ 工業開発が進み、工業の基盤や新たな産業が誕生すると工業化が促進され、多くの雇用を生み出すことができる。しかし、そのことが貧富の格差を生み、差別や多くの格差を生み出してしまうかもしれない。
- ・ 食料援助は緊急時以外は問題解決になりえない。中国の思想家の老子が言った「ある人に魚を一匹与えれば、その人は一日食える。魚の取り方を教えれば、その人は一生を通して食える」というのも支援の在り方である。
- ・ 無駄な消費を行っている生活を見直すことで、意識が変わり、それが国際支援に繋がっていく可能性もある。

(8) まとめとしてラオスについての授業を受けて考えた事や感じたことを書く。



写真3 ランキングを考えている生徒達

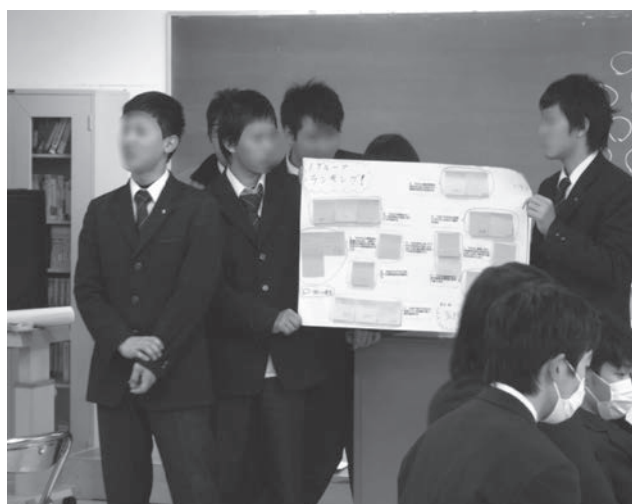


写真4 グループ発表を行う生徒達

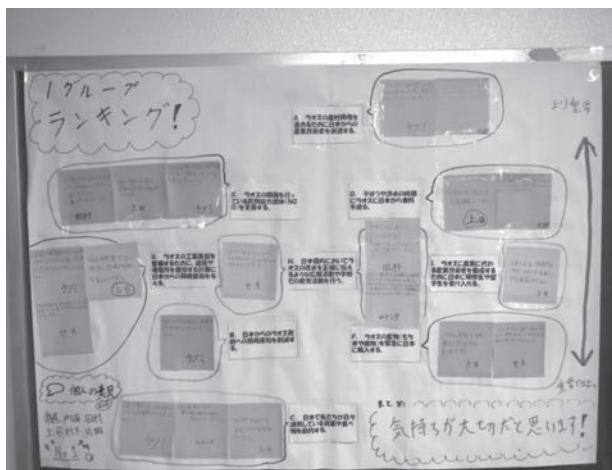
●ランキングカード

ランキング・カード「ラオスをより良くするプロジェクト」

A. ラオスの農村開発を進めるために日本からの農業技術者を派遣する。	F. ラオスの産物（もち米や織物）を緊急に日本に輸入する。
B. 日本からのラオス政府への開発援助を削減する。	G. ラオスの工業基盤を整備するために、道路や発電所を建設する計画に日本からの開発援助を与える。
C. 日本で私たちが日々消費している資源や食べ物を節約する。	H. 日本国内においてラオスの現状を正確に伝えるような広報活動や学校での教育活動を行う。
D. 干ばつや洪水の時期にラオスに日本から食料を送る。	I. ラオスに農業に代わる産業技術者を養成するために日本に研修生や留学生を受け入れる。
E. ラオスの開発を行っている民間協力団体（NGO）を支援する。	

●各班で作ったランキング

< 1 班 >



ランキング用紙

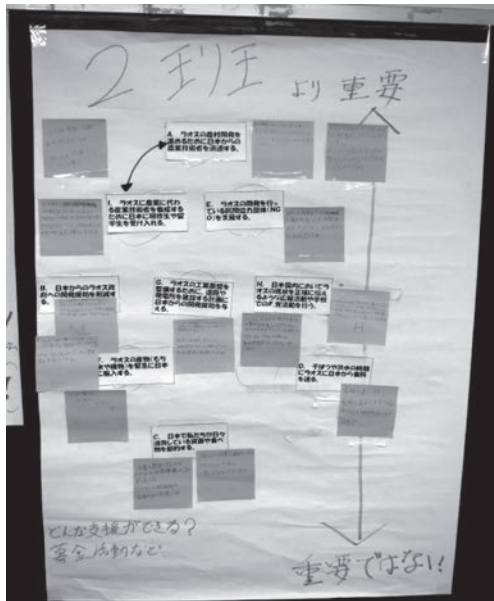
【ランキング】

1. ラオスの農村開発を進めるために日本からの農業技術者を派遣する。
2. ラオスの開発を行っている民間団体（NGO）を支援する。
3. 干ばつや洪水の時期にラオスに日本から食料を送る。
4. ラオスの工業基盤を整備するために、道路や発電所を建設する計画に日本からの開発援助を与える。
5. 日本国内においてラオスの現状を正確に伝えるような広報活動や学校での教育活動を行う。
6. ラオスに農業に代わる産業技術者を養成するために日本に研修生や留学生を受け入れる。
7. 日本からのラオス政府への開発援助を削減する。
8. ラオスの産物（もち米や織物）を緊急に日本に輸入する。
9. 日本で私たちが日々消費している資源や食べ物を節約する。

【ランキングについてのコメント】

1. 他の支援や食料を送るより、まず始めに農業を発展させることが将来のためになると思う。農業を改善すれば他国からの援助は必要なくなり、自国ですべてを賄えるようになると思う。
2. ラオスの民間団体を支援することが発展の近道であると考えた。
3. 緊急時に支援するのは当たり前のことだと思う。死んでしまつては開発もあり得ない。
4. 道路や電気は日々の生活においてよく使うものなので整備することで開発が加速すると思う。
5. 日本から援助をするのだから多くの人に理解してもらい多くの支援をするのが良いと思う。世界にはどれだけ貧しい国があり、裕福な日本に生まれたことがどれだけありがたいかみんなに知ってほしい。ラオスの現状を知れば募金をしようとする人や援助しようとする人が増えるかもしれない。
6. 日本でより良い技術を習得し、ラオスで活用し、村を発展させてほしい。
7. あまり日本からの援助を削減しすぎるのも良くないと思った。もし支援が過剰に行われているならば削減すべきだ。
8. ラオスの産物を日本に輸入してもあまり現状は変わらないと思う。経済が潤せるだけの生産力がなければ意味がない。
9. 日本で節約しても直接ラオスに関係がないと思った。資源の節約はともかく食料の節約は意味がないと思った。

< 2 班 >



ランキング用紙

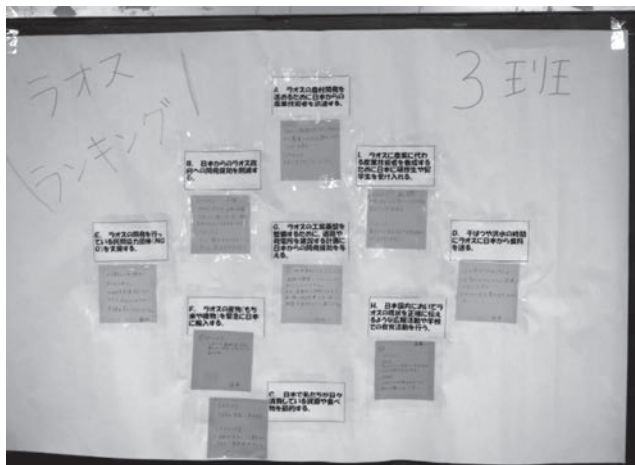
【ランキング】

1. ラオスの農村開発を進めるために日本からの農業技術者を派遣する。
2. ラオスに農業に代わる産業技術者を養成するために日本に研修生や留学生を受け入れる。
3. ラオスの開発を行っている民間団体（NGO）を支援する。
4. 日本からのラオス政府への開発援助を削減する。
5. ラオスの工業基盤を整備するために、道路や発電所を建設する計画に日本からの開発援助を与える。
6. 日本国内においてラオスの現状を正確に伝えるような広報活動や学校での教育活動を行う。
7. ラオスの産物（もち米や織物）を緊急に日本に輸入する。
8. 干ばつや洪水の時期にラオスに日本から食料を送る。
9. 日本で私たちが日々消費している資源や食べ物を節約する。

【ランキングについてのコメント】

1. 農業開発を進め、農作物を売り、現金収入を得て貧困状態を和らげることが先決だと思う。派遣することで新しい開発ができるようになるが、支援すると自ら開発しようとする意識が薄れる。
2. まず日本から農業技術者を呼んだ後、その技術が早く習得できるように日本で技術を学ぶことが効果的である。また日本で研修を体験すると日本から後に技術者が来たときに意思疎通がスムーズにいく。
3. ラオスの開発を行っている NGO に協力することで開発がもっと早く進み、国が早く良くなると思う。
4. 何から何まで手助けしてしまうと自国としての進歩がないと思う。自分の国なのだから手助けなしに自力で頑張った方が良くと思う。
5. 工業基盤を整備することで経済が発展していく。道路や発電所が建設されると経済が安定していくと思う。しかし、その開発で森林が伐採され、環境問題が発生する。
6. ラオスの現状を知ることによって支援しようという気になる。
7. ラオスの産物を輸入してもあまり効果はないように思う。
8. 食料を送るべきではない。作り方や技術を教えるべきだ。
9. 日本人の消費を節約してもラオスの国が良くなるわけではない。世界環境が良くなるように節約すると日々の生活が不便になる。

< 3班 >



ランキング用紙

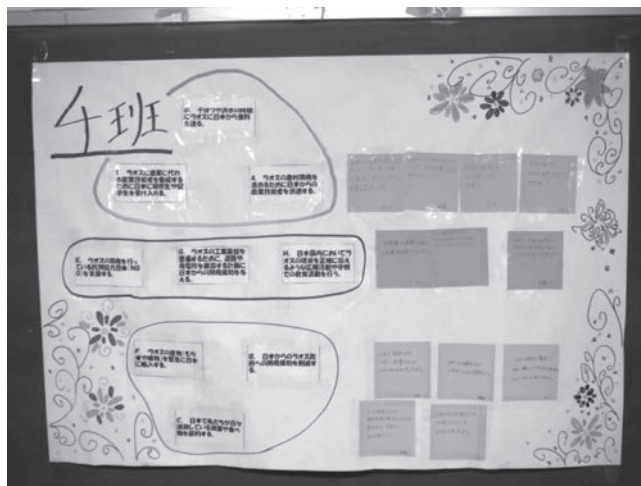
【ランキング】

1. ラオスの農村開発を進めるために日本からの農業技術者を派遣する。
2. 日本からのラオス政府への開発援助を削減する。
3. ラオスに農業に代わる産業技術者を養成するために日本に研修生や留学生を受け入れる。
4. ラオスの開発を行っている民間団体（NGO）を支援する。
5. ラオスの工業基盤を整備するために、道路や発電所を建設する計画に日本からの開発援助を与える。
6. 干ばつや洪水の時期にラオスに日本から食料を送る。
7. ラオスの産物（もち米や織物）を緊急に日本に輸入する。
8. 日本国内においてラオスの現状を正確に伝えるような広報活動や学校での教育活動を行う。
9. 日本で私たちが日々消費している資源や食べ物を節約する。

【ランキングについてのコメント】

1. ラオスの環境や状況に合わせた農業のやり方を教えることができる。
2. 日本の支援ばかりに頼らずに自ら開発を行うようになる。しかし、少し苦勞をするかもしれない。
3. 日本に来ることで多くの技術を得得することができる。
4. NGOを支援する事でより良い支援ができる。
5. 道路や発電所ができると生活が豊かになる。
6. 人の命に関わること。
7. ラオスの産物を輸入すると経済が潤う。
8. ラオスの現状を知ると多くの人たちが助けようとする。しかし、実際の活動に繋がりがづらい。
9. ラオスに直接関係ないと思う。

< 4 班 >



ランキング用紙

【ランキング】

1. 干ばつや洪水の時期にラオスに日本から食料を送る。
2. ラオスに農業に代わる産業技術者を養成するために日本に研修生や留学生を受け入れる。
3. ラオスの農村開発を進めるために日本からの農業技術者を派遣する。
4. ラオスの開発を行っている民間団体（NGO）を支援する。
5. ラオスの工業基盤を整備するために、道路や発電所を建設する計画に日本からの開発援助を与える。
6. 日本国内においてラオスの現状を正確に伝えるような広報活動や学校での教育活動を行う。
7. ラオスの産物（もち米や織物）を緊急に日本に輸入する。
8. 日本からのラオス政府への開発援助を削減する。
9. 日本で私たちが日々消費している資源や食べ物を節約する。

【ランキングについてのコメント】

1. 食料がなければ何もできない。まずは生活を安定させてから始める必要がある。
2. 研修生を日本に受け入れることで国に帰ってから産業を発展させることができると思う。
3. 日本の高度な技術を現地で教えることで農業が発展し、国民の生活が豊かになる。
4. NGOを支援する事で開発が進む。
5. 日本が支援するだけではラオスは発展しない。自分たちで何とかしないとイケない。
6. ラオスの現状を知ることでは何か支援しようとする。しかし、あまり期待できない。
7. ラオスの産物を輸入してもその場のぎになってしまう気がする。
8. もっと発展してから削減することを考えた方が良い。
9. 日本で節約してもラオスに影響するのはかなり先になると思う。

<生徒の反応>感想アンケートより抜粋

- ・ラオスの話を聞き、ラオスの人々が自らの手で農業活動に取り組み、ラオスに合う独自の方法で、発展していったほしいと思った。また、ラオスだけでなく、問題を抱えている国が一つでもなくなれば良いと強く思った。支援活動については、支援することは良いことだと思うが過剰に行うのは良くないと感じた。
- ・ラオスの現状を知り、私たちがこれから考えるべき事が新たに見えた気がした。
- ・ラオスは裕福な国ではないかもしれないがラオスにはラオスの生活があり、日本には日本の生活があることがわかった。
- ・不発弾がまだ多く残っている場所で生活していることをもっと多くの人に知ってもらい、多くの事を考えてもらいたいと思った。
- ・ラオスについて知ってもらい、多くの人にラオスを好きになってもらいたいと思った。
- ・発展途上国のラオスにこれから私たちが何をすべきで、何ができるか考えようと思った。
- ・日本にも様々な問題が存在するので、まずは日本から良くしていくべきではないかと思った。
- ・どうすればラオスが良くなるのかみんなで考えることがとても楽しかった。
- ・私の中のラオスは発展途上国で、全く発展していない国かと思っていたが想像以上に発展していて驚いた。また自然豊かな国で資源も多くあるので、開発技術を習得し産業を発展させてほしいと思った。
- ・発展途上国を支援している人たちはただ単に支援する事だけを考えていると思っていたが、どこまでその国に手を差し伸べて支援するのかを考えていることに驚かされた。短期的ではなく長期的に物事を考えている事に感心した。発展途上国を発展させるにはまずどんなことをしなければならないのか考えさせられ、自分たちもできることをやりたいと思った。
- ・ラオスは日本に頼るばかりではなく、ラオス自体が変わらなければ何も始まらないし、国の発展にも繋がっていかないと考えた。日本はラオスからの研修生や留学生を積極的に受け入れ、日本が持つ知識や技術を共有することでラオスは良くなると思った。
- ・日本が物質的にどれだけ恵まれているのか日本の子供達に教え、発展途上国のために支援したいと思う子供達を少しでも増やしたいと思った。

<所感>

ランキングを通してラオスにとってどのような支援が効果的で、またラオスの長期的な発展に最も貢献することができるのはどの支援なのかを、一生懸命考えている生徒の姿がとても印象的だった。私がラオス研修で見聞きし、感じたことを踏まえ、ラオスについて伝えることで、以前はラオスがどこにあるのかさえ知らなかった遠い存在の国が、より身近に感じることができるようになったと思う。また発展途上国について考えることで、少しでも世界に目を向けることができたように思う。

ランキングを考える中で様々な支援があることを知り生徒達は驚いていた。特に、支援される国が他国からの支援に頼り切ってしまうような支援依存体質になってしまい、自分たちで解決する意識が希薄にならないように支援を削減するという考え方があることを知って感心していた。また支援に優先順位を付ける時に、その支援のメリット・デメリットを考えながら行っていた班もあった。私が研修中に感じていた「一番重要な支援は何?」や「そもそも支援って何?」に対しての答えを見つけ出せない歯がゆい気持ちも生徒達は少し感じる事ができたように思う。

今まで全く国際協力や国際支援について考える機会がなかった生徒達が、ラオスを救うための支援を考えることで、日本以外の国のために何か自分でもやれることがあるのではないかと考え始めた生徒がいたというのは大きな成果であった。

英語授業では色々と縛りがあるので困難かもしれないが、来年度から異文化理解の授業がカリキュラムに加わるので、その授業で多くの開発教育の手法を導入し、これからも様々な角度から国際協力や国際支援について生徒達と継続的に考えていきたいと思った。また、実際に発展途上国が抱えている問題を解決する方法を考え、将来、問題解決のためのアクションを起こせるような機会ができれば生徒達の目的意識もより高まると思う。

<成果>

まず、生徒達が参加型国際理解授業は楽しいと思ってくれたことが良かった。本校ではこのような参加型授業をどの教科でも行っていないのが現状である。現在、アクティブラーニングなどの双方向型授業が重要視される中で、今回のこのような参加型授業を実践することができたことは、自身の教育実践方法を見直す良い経験になった。また、生徒達の様子を見て、グループで他人の考え方を学び、グループで一つの解決策を見いだしていく授業はコミュニケーション能力の向上にもとても有効だと思った。生徒からの意見の中に「グループで色々な意見を出し合い、グループ内で意見をまとめることの大変さを知った」というのがあった。これから社会に出て行く生徒達にとってとても有意義な経験ができたと思う。またこの経験から生徒達も自分の意見を発表することの楽しさを知り、通常の授業でも以前より積極的に意見を言えるようになったように思う。

今回、私が経験したことを伝えることで生徒達にとって全く興味のなかった国が少し身近な国に変わり、将来は自分の目でラオスを見てみたいと言ってくれた生徒もいた。近年、グローバル化の流れに逆行し、多くの生徒達は地元志向が強く、身近な所で物事を完結させようとする傾向がある。今回の授業で国外に目を向け、世界で困っている人のために自分でも何かしたいや海外に行ってみたいと思えたことは生徒達にとっても大きな変化だったと思う。これからも日本はもちろんのこと海外にも関心を持ってもらいたいと思う。

<課題>

異文化理解の授業での参加型授業実践は比較的容易に行えそうだが、英語授業でどのように導入していくか検討する必要がある。単なる英語習得のための授業にならないよう、日々気を付けているつもりだが、どうしても大学入試対策の授業が中心になってしまう。異文化を理解することができなければ英語を完璧に使いこなすことができても円滑なコミュニケーションが図れないのは十分承知している。しかし、教科指導を最優先しなければならないという現状もある。そのジレンマを克服する方法を見つけ出し、真の英語教育を目指したいと考えている。

授業実践の中で生徒達に国際協力や国際支援について考えさせたが、授業数確保の問題でそこまで終了してしまったことは生徒にとっても教員にとっても不完全燃焼だった。もっと授業数を確保することができるなら世界の問題を解決するためのプロジェクトを立ち上げ、実際に支援するところまでやってみたい。そうすることで世界がもっと身近なものになり、本当のグローバルな視野が養われると思う。

今後は開発教育の手法や国際協力・国際支援についての知識を深め、開発教育に使用できる教材作成を自ら行いたい。開発教育を実践し、一人でも多くの生徒が世界的な視野を持ち、より良い世界を作るために行動できる人材に育ててくれることを強く望んでいる。また、自分自身も現状に甘んじることなく、少しでも世界の発展のために貢献できるよう努力していきたい。

参考資料

【書籍】

- ・新井彩花 「ラオス豊かさと「貧しさ」のあいだ -現場で考えた国際協力とNGOの意義」 コモンズ、2010年
- ・開発教育推進セミナー編 「新しい開発教育の進め方 -地球市民を育てる現場から」 古今書院、2001年
- ・開発教育協会 「開発教育実践ハンドブック -参加型学習で世界を感じる」 開発教育協会、2013年
- ・菊池陽子、鈴木玲子、阿部健一編 「ラオスを知るための60章」 明石書店、2015年
- ・JICA中国 「平成26年度ベトナム教師海外研修 -参加型で学ぶ国際理解教育授業実践報告書」 2015年
- ・竹内正右 「ラオスは戦場だった」 株式会社めこん、2004年
- ・『地球の歩き方』編集室 「地球の歩き方2014~15 -ラオス」 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社、2014年

【教材】

- ・JICA 「JICAフォトランゲージキット」

授業実践

特別支援学校編

特別支援学校編

教員により、一部表現のばらつきがあります。また、児童・生徒の感想に誤字脱字等がある場合がありますが、原文のままとしています。

ラオスってどんなところ？

学校所在県：広島県
 学校名：広島県立尾道特別支援学校
 名前：松田 奈緒美
 担当教科：幼稚部

実践教科：設定遊び、自由遊び、調理
 対象学年：4・5歳
 対象人数：3人

■実践の目的

- ・海外の様子を知り興味・関心をもつ。
- ・日本と外国の共通点・相違点について知り、身近に感じる。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目	どこに いったの？ ・海外について知る ・ラオスの位置を知る	・世界地図で日本の位置を知る ・ラオスの位置を知る ・お土産のお菓子を食べながら、使われている果物や野菜について気づきを話す	日本地図 世界地図 飛行機からの写真 ラオスのお菓子
2時限目	ラオスって どんな ところ？ ・ラオスの様子を知り、日本と同じところ、違うところを話し合う	・ラオスについて、パワーポイントで写真を見せながら紹介し、気づきを交流する 自然（川・草・花・木・虫） 街の様子（家・寺・人・服・乗り物） 文化（文字・食・お金） ・ラオスのことを紹介する遊び（ラオス探し）をする	日本・ラオスの国旗 シン 写真（P P） ラオ語表 ラオスのお金
3時限目	ラオスの あそびを しよう！ ・ラオスの遊びを知り、体験することでラオスの文化に親しむ	・セバタクローを見せ、何か考える ・ブレイの様子を見る ・実際に遊ぶ	写真 セバタクロー
4～6時限目	ラオスの ごはん ・ラオスの食文化に触れ、調理実習をして食べることで、日本の料理との違いや共通点を知る	・ラオスではどんなものを食べているか考える ・写真や本を見て、料理や食材・道具について考える ・調理実習をして食べる ・振り返りをする	写真 ラオスの料理本 食材
7時限目	どんな おはなしかな？ ・ラオスの子どもたちが読んでいる絵本に触れ、身近に感じる	・文字に注目してラオスの絵本を見せる ・絵に注目してどんなお話か考える ・同じ内容の日本の絵本を見せ、絵や文字の違い、内容が同じことについて話す	ラオスの絵本 ラオ語表 日本の絵本

1時限目：どこに いったの？（幼稚部4・5歳対象）

ねらい…海外について知り、関心をもつ。

<授業の流れ>

教室に置いておいた、世界の子どもの顔が載っている紙袋を見つけた子どもたちの関心をとらえ、海外についての話をした。海外についての概念や知識があまりない幼児が、ぼんやりとしたイメージをもつことができるよう、まず自分たちが住んでいる町、県、国の場所を地図で確認し、海に囲まれた日本の外には別の国があり、いろいろな人がいろいろな生活をしていることを伝えた。飛行機で海外へ行く際に窓から見える景色（離陸～陸上～海上～雲の中～海上～陸上～着陸の様子）を写真で見せ、イメージをもつ助けとした。その後、ラオスの様子を写真で紹介し、建物や服装・食事・文字等、日本とは違う様子を知った。

<幼児の反応>

- ・（地図で外国との距離と比べて）学校と自分の家は、近い。
- ・飛行機に乗って行って、ラオスは遠い！！
- ・文字が読めない。
- ・（寺院の写真を見て）なんの建物かわからない。
- ・大きな扇風機、学校の食堂にあるのと同じ！
- ・（ジェスチャーで話してかけている写真を見て）食べる？ってお話してるね。

<所 感>

日常にはあまり触れる機会のない海外について、幼児にとってどれだけ身近なものとして考えられるかというところからスタートした。自分と同じくらいの子どもの笑顔の写真に関心を示し、「なんだろう？」「知りたい」という気持ちで活動を始めることができた。教師側の伝えたい内容のみでなく、幼児の意欲や関心を引き出すことのできる環境づくりが大切であると改めて感じた。視覚的にわかりやすい写真などの教材を用いる中で、自分の視点として見ることで、窓からの景色の写真や、実際に行った様子がわかる教師自身が写った写真を提示することが効果的であった。

2時限目：ラオスって どんな ところ？（聴覚障害部門 幼・小・中学部（計14名）対象）

ねらい…ラオスについて知り、日本の環境や生活との共通点や相違点を見つける。

<授業の流れ>

ラオスの様子について写真を見ながら気づきを交流した。町の様子の写真では、日本の環境や生活と比較しながら、共通点や相違点を見つけることができた。



町をはしる乗り物（トゥクトゥク）



市場の様子



<幼児児童生徒の反応>

気付き	共通点	相違点
<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスにはお寺がたくさんある。 ・お店（飲食店）に壁がなく、外とつながっている。 ・文字が読めない。 ・川が広い。 ・町の中に国旗がたくさんある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車やバイクがはしっている。（トヨタやマツダ） ・服や制服が日本と同じ（似ている）。 ・英語で書いてあるところもある。 ・お米を食べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トゥクトゥクは日本にない。 ・家の外に洗濯物を干している。 ・もち米をよく食べている。 ・果物がたくさんある。 ・ゆかに座って食事をしている。 ・ご飯を手で食べている。

また、ラオスの抱える課題についても紹介した。ラオスはベトナム戦争時に投下された爆弾の多くが爆発せずに残っており、爆発によって手足を失ったり命を落としたりする人が後を絶たない。農地にできず、経済発展の妨げにもなっている。また、学校教育において、高い中退率や格差、質など、課題が多くある。



不発弾



ラオスの学校の様子



<幼児児童生徒の反応>

- ・不発弾がたくさん埋まっているなんてこわい。
- ・日本には不発弾はないので、安心して暮らせる。（※日本にも沖縄等で見つかる不発弾があることについて簡単に話をした）
- ・学校が小さい。壁がない。子どもがぎゅうぎゅうにいる。机やイスがない。
- ・学校の中が暗い。電気がないのかな？
- ・どうして学校にいけない子がいるのかな？
- *幼児児童生徒の考え→学校が遠いのかな？
 - お金がないからだと思う。
 - 家のお手伝いが忙しいからだと思う。

その後、ポリカムサイ子ども文化センターで子どもたちと交流したことを、写真を見せて紹介した。子ども文化センターでは、言葉を越えて交流ができるよう、ジェスチャーを交えて日本を紹介する「日本さがし」（「猛獣狩り」のルールで、告げられた文字の数と同じ人数でグループを作るゲーム）をおこなった。



子ども文化センターでの交流の様子

それを受けて、ラオスでおこなったのと同じ方法で、本校の幼児児童生徒と「ラオスさがし」をおこなった。

♪ラオスを さがしに いこうよ！（ラオスを さがしに いこうよ！）
 ひこうき のって いこうよ！（ひこうき のって いこうよ！）
 そうがんきょうも もってるし！（そうがんきょうも もってるし！）
 あ！
 あ！
 あ~~~~~！！
 「○○○」（紹介する言葉）

「ラオスさがし」では「ラオス」、「シン」（民族衣装）、「キープ」（通貨）、「托鉢」（文化）、「カオニャオ」（食）、「セパタクロー」（スポーツ・遊び）を紹介した。グループになったらその場にしゃがみ、紹介したものについての簡単な説明をした。



「ラオスさがし」で用いた言葉の例

最後に、ラオスの子どもたちと一緒に笑顔で写っている写真を提示し、ラオスも日本も、どんな国でも、子どもたちの笑顔は同じだということを伝えた。

<幼児児童生徒の反応>

- ・ラオスのみんな、笑顔で楽しそう。
- ・ラオスのことがわかってよかった。
- ・ラオスのごはんがおいしそうだった。
- ・ラオスに行ってみたい！

<所感>

対象が幼稚園幼児から中学部生徒までと幅広い年齢であったため、何を題材とし何を伝えるか悩んだが、写真を見せて気付きを交流しながら進めることで、全体で共有して授業を展開することができた。中学部の生徒へは、人口や面積、歴史や社会的背景等、社会科の学習につながる内容も情報として伝えながら進めた。幼児児童生徒の自然な発言を取り上げたいと考え、視点を絞らず気付きを発表するという形をとった。実際の経験や様子を紹介したり、写真の中で気付いてほしい部分には視線や指さして注目を促したりすることで、日本との共通点や相違点に気付き発表することができた。日頃は少人数での学習活動が多いため、友だちの発言から多くの気付きを得ることができた様子であった。

ラオスで行った「日本さがし」では、現地の言葉に通訳をせず、ジェスチャーや視線、間、絵などで意図や内容を共有し活動を行った。現在携わっている聴覚障害教育と通ずるところがあると考えたからである。同じ方法で、幼児児童生徒を対象に「ラオスさがし」を行った。どちらもよく指導者に注目し、主体的に楽しく活動することができた。気持ちの通じるコミュニケーションを基盤としたかわりを大切にしたいと改めて感じた。

4～6時限目：ラオスの ごはん（幼稚園4・5歳対象）

ねらい…ラオスの食事について、料理の様子、食材、道具等を日本と比べ、相違点や共通点に気づく。

<授業の流れ>

まず、授業の始めに「世界中のこどもたちが」という歌を歌った。別の時間に歌っている歌で、歌詞の内容を絵や手話を用いて話し、よく理解している。

次に、日本の食事について、自分たちがいつも食べているものや好きな食べ物を発表した。また、身近な給食や日本料理の写真を提示した。

【日本の食事】

幼児の発言：ラーメン・うどん・ごはん

給食（カレーライス）



寿司



魚定食



次に、ラオスの食事について考えた。前時までの活動で知っていることを発表したり、ラオス料理の写真を示して気付きを話し合ったりした。また、家庭での調理や食事の様子の写真も見せた。

【ラオスの食事】

<p>ラープ・カオニャオ</p> 	<p>フー</p> 	<p>魚料理</p> 
<p>調理の様子</p> 	<p>食卓の様子</p> 	<p>食事場面の様子</p> 

<幼児の反応>

共通点	相違点
<ul style="list-style-type: none"> ・お米を食べる。 ・麺料理がある。 ・魚を焼いて食べる。 ・日本と同じ食材がある。 (もやし、キャベツ、鶏肉等) ・包丁を使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスではもち米をよく食べる。 ・ラオスでは鶏を切っている。 自分の家ではお肉はパックに入ったものをお店で買う。 ・床に座って食べている。

<所感>

身近な「食」をテーマにしたことで、経験に基づいた話がたくさん出てきた。知識や経験差があまり現れず、クラスみんなでしっかり話しながら進めることができた。調理や食事場面等も話題として扱ったが、情報が多く、話があちこちとんでしまった。実態に応じて題材を厳選し、話を深める必要があった。

4～6時限目：ラオスの ごはんを つくろう！（幼稚部4・5歳対象）

ねらい…調理実習をしてラオスの料理を実際に食べることを通して、異文化を体験し、より身近に感じる。

<授業の流れ>

前時の活動をもとに作ってみたいラオス料理を話し合い、調理実習をおこなった。今回は、ラオスの代表的な料理であるラープとカオニャオを作ることとした。作り方を説明したあと、カオニャオ、ラープの順で調理し、試食した。

ラオスのもち米は、日本のお米と違い細長い形をしている。実際にお米の形をよく観察して調理した。ラオスで使われている道具はないので、写真で説明し、日本の蒸し器で蒸した。

ラープ作りでは日本料理にはあまり使われない野菜（パクチーやミントなど）や調味料を使用するため、期待を膨らませている発言がみられた。

試食ではカオニャオを手で取って、ラープと一緒に食べるという日常と違う経験を楽しんでいた。また、その日の給食は魚とごはんと汁物だったことで、ラオスの料理と日本の料理を比較して食べることができた。



お米の観察



完成!!

<幼児の反応>

- ・カオニャオを手で少しこねるとまとまることを楽しんでいた。
- ・家では手で食べると怒られる、と日本との違いを話していた。
- ・パクチーやナンプラーなどの食べ慣れない食材も「おいしい」と言って食べていた。
- ・給食の際にご飯を手でこねてみて「べたべたになって難しい」ことに気づいていた。
- ・「もっと食べたい」「大きくなったらラオスに行って、たくさん食べる」と話していた。

<所感>

材料に実際に触れ、現地と同じ入れ物に入れたり、手で食べたりして、ラオスの文化を体験し、身近に感じる事ができた。また、もち米という食材は日本にもあるが、形状や食べ方が違っていることを知るとともに、おもちにして食べるという日本の文化にも改めて気付いていた。「食」というテーマで、おいしいという心地よさを感じることができ、外国への親しみが感じられたと考える。幼児自らほかの先生方に、ラオスの料理を作ったこと、使った材料や作り方、食べ方を教えてあげている様子も見られ、体験を人に伝えて共有・共感することで異文化理解を広める役も担ってくれた。改めて実際の体験・経験が子どもの成長や教育活動に大変有効であることを感じた。

全体を通しての成果と課題

今回、幼児を主な対象として授業実践をおこなった。まだ「日本」「外国」の概念があまりない幼児たちに外国の様子を伝え、外国って楽しそうだな、行ってみたいな、と思える活動をするを旨として取り組んだ。身の回りの人や物など、大人が気付かないようなところまで、様々なことに興味・関心を向け日々成長している幼児期だからこそ、柔軟に、先入観なく楽しく異文化を知ることができると思う。「活動楽しかった!」「またしたい!」「ラオスに行ってみよう!」という感想がたくさん出て、ねらいを達成することができた。

活動の中で、写真や実際の物、体験を通して、幼児たちはたくさんのことに気付くことができていた。日本との共通点や相違点は自分の経験と比較しての気付きであるため、自分たちが日常の生活をしっかり暮らすことが基盤となると感じた。幼児期では、生活や遊びの中での学びが中心となるため、保護者や地域と連携し、日本や地域の文化に親しむことを大切にしたい。そのことが、より多くの視点で世界を見ることに繋がると考える。

同時に、今回の実践のように日常生活の“外”にある物事にも触れる機会や環境をつくる必要がある。取り上げて紹介することはもちろん、さりげなく絵本を置いておく、遊び道具を置いておく、新聞記事や写真を掲示しておく、などで様々なことに関心を向け、自ら「なんだろう」「知りたい」と思える環境設定をしていく。

幼児たちと一緒に、日々みんなが楽しく笑顔だと幸せだと、実感しながら過ごすことを大切にしていきたい。

参考資料

【書籍】

- ・「地球の歩き方 ラオス2014～2015」ダイヤモンド・ビッグ社

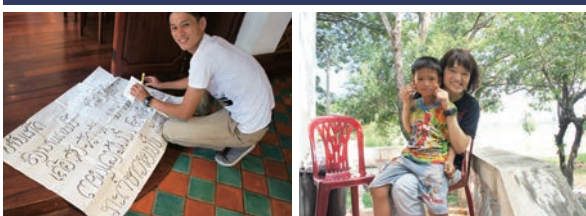
【インターネット】

- ・世界の料理 総合情報サイトe-food.jp <http://e-food.jp/>
- ・JICA中国 HP <http://www.jica.go.jp/chugoku/index.html>

主催：独立行政法人国際協力機構 中国国際センター（JICA中国）

後援：外務省、文部科学省

広島県教育委員会、広島市教育委員会、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、
山口県教育委員会、島根県教育委員会、鳥取県教育委員会



独立行政法人 国際協力機構
中国国際センター(JICA 中国)

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL 082-421-6305 FAX 082-420-8082 <http://www.jica.go.jp/chugoku/>